

いざというとき「心の支え」と なる古今東西の名言集

くにし・よしひこ

この小冊子は、人生の岐路に立たされたとき、あるいは

- ・ 目標を見失い意気消沈した時に、
- ・ 人生の道しるべとなり、『心の支え』となる「古今東西の名言集」
- ・ 古今東西の人生の達人たちが遺した、『充実した人生』への指針、ヒント集です。

そこから、何が得られるか。

人々が忘れかけているテーマであり、それこそが、あなたの捜し求めていたもの。

- ・ 「内面的に磨きをかけること」です。
- ・ しかも、それは、精神的な充実だけでなく、
- ・ 若い人々には、確かな未来を築くための

「オンリー・ワン・ライフ・」 「オンリー・ワン・ビジネス」 悠々たる
成功と充実人生へのバイパス、そして

- ・ 第一線で働く世代には、健康で充実したライフ・スタイルの確立を約束するものでもあるでしょう。また
- ・ 一仕事終えたシニア世代には、充実した「第2の人生」への誘いでもあります。

現代のように、世界中の政治、経済が不安定で、あちこちで自然災害や、過激なデモ、内乱が相次ぎ、確かな明日が見通せない無秩序、混乱の時代においては

- ・ 原点に帰ることが最も賢明な生き方、確かな生き方だといえます。

『原点に帰る』とは、先人の遺した金言・名言を噛み締めること
だと思います。

それらの金言・名言を選びすぐり、太活字で25ページまで、簡潔にわかりやすく示しました。

さらに、

それぞれの名言に著者自身の体験から、解説、コメントを試み

- ・ 今日と未来の生き方にどう活かすかを、具体的に示しました。

私は、パソコンを媒体にした地域のコミュニティ、那須シニアネットのホームページの編集者の依頼で、「キーワード」という欄の連載をしました。そのときは、あまり大それた理念があって書き始めたわけではありませんでしたが、その後別の雑誌で現代に生きる金言・名言の連載を続けるうち、小島さんの著書にめぐりあい本書の出発点とな

った名言本文NO2を発見しました。そして、「自分のしてきた名言の連載は非常に大きな使命がある。人の一生、生死の境にあってさえ、心の糧になっているのだ」という使命感に目覚めました。そういう意味で、この連載を一冊の本にまとめたものは、多くの人にとって、「座右の書」「心の糧」にもなることが分かりました。

この小冊子が、そういう意味を帯びていることを肝に銘じて、今、この『まえがき』を書き下ろししています。この小書が座右の書となり、ここで取り上げた金言・名言が、挫けそうになったときの心の支えとなり、新しい道を切り開く「勇気」を与えるようになれば幸いです。

なお、ビジネスチャンスを広げ、あるいは、リスクを未然に防ぐヒント、キー・ワードをとんどの項目に設けてあります。

これらのメッセージが、ビジネスチャンスの発見と輝かしい人生を切り開くヒントになれば、幸いです。

国司義彦

1 この世の最大の不幸は貧しさや病ではありません。誰からも自分は必要とされていないと感じることです（マザーテレサ）

*あなたが「逆境」にしながら、逞しく（けなげに）生きている姿は、多くの人に勇気を与える。

つまり、あなたは、「生きているだけ」で価値があるのだ。

2 分厚な哲学書よりも、いろいろな人物の「語録」によってこそ、人間あるいは一生の意味を学ぶ

ところが多かった（小島直記著『一燈を提げた男たち』より）

*「考えること」はよいことだ。しかし「考えすぎ」はよくない。

3「逆境の時、その人（組織）の真価が現れる」（国司義彦）

日頃調子のいいお世辞を言って近付いてきても、人が逆境、落ち目になると見向きもしないような人は「冷たい人」です。

4 学而時習、不亦説乎。

有朋自遠方来、不亦楽乎。

人不知而不愠、不亦君子乎。

学んで時にこれを習う、また説(よろこ)ばしからずや。

朋あり遠方より来る、また楽しからずや

人知らずして恨(愠)みずまた君子ならずや

*「認められても大したことはない」「認められなくても気にしない」。

①学而不思則罔 ②思而不学則殆（論語＝孔子）

5 我、十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳したが順う。七十にして心の欲するところに従えど、のり矩をこ（踰）えず。

6 小人閑居為不善 小人閑居して不善をなす

逆境のとき、その人の「真価」が表れる。（3項）

*「下手な考え休むに似たり」おかしな考えにとり憑かれたら、体を動かして振り払え

7 小人之過也必文 小人の過ちは必ずかざる

8 未得之也、患得之

未だこれを得ざる時は、これを得ることを患う。

人は金、地位、名声などが無いと、金や地位や名声を求めてあれこれ思い煩う。(論語)

*欲しいと思ったもの[地位も財産も名声も]手に入れてみると大したことはない。

9 得之患失之 これを得ればこれを失うことを煩う。何かを得れば、それを失うまいとしがみつく。

(論語)

10 ①少則得 少なければすなわち得 ②多則惑 (老子)

* 「物が無い」と何とすっきりしていることか。「物が多い」と何と煩わしいことか。

11 年々歳々花相似 歳々年々人不同 代悲白頭翁 (白頭を悲しむ翁に代わる)
劉 廷 芝 年々歳々花相似たり 歳々年々人同じからず

12 現代の究極の病理は「価値の喪失」(A H マズロー)

* あなたにとって、「大事なこと」は何ですか？

13 人を働かせずにおくことはどんなに仕組まれた拷問よりも残酷なことである。私の知っているしあわせな人は家族など「大切なもの」ために一生懸命働く人である。責任ある行動は報われる。(A H マズロー)

* 「責任を回避する」と後悔するぞ

14 「もし、人間の教育が不適當だったり悪かったりすると、人間は、地球の全ての産物の中で、最も残虐な存在になる」(プラトン=古代ギリシャの哲学者) F・ゴープル著国司義彦監訳「苦悩と混迷を超えて」より引用)

15 幸せの原点を探る山のあなたの空遠く幸住むと人の言ふ

(カール・ブッセ) 幸せの『青い鳥』(メーテルリンク)

16 文明崩壊の要因

①家庭の尊厳が軽視される

②重税と過大な福祉

③快樂を求める狂気。

④スポーツがエスカレートし-不道徳になる。

⑤巨大化する軍事費（個人の不道徳化には、無策）

⑥宗教の墮落（「ローマ帝国の崩壊と没落」（E・ギボン）

17 ①『文明の崩壊は、道徳的逸脱＝人間の内面的崩壊、意気消沈の結果である』

②『勝手気ままと性の乱れが家庭生活を脅かしている。子供たちにとって心理的・道徳的土台たる 家庭生活を』（アーノルド・J・トインビー（**Arnold Joseph Toynbee**）

*プレイボーイ（ガール）はかっこよくない

18 何不自由ない人生は何の面白みも感動もない。人生の幸福は、どれだけ快樂を得たかではなく、どれだけ「感動」を得たかによって決まる。

（V・フランク①）

19 「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」という諺の大うそ？

*体は丈夫でも心が不健康な人間になるな。

20 この地上には二つの人種しかいない。品位ある人種とそうでない人種である。

21 ・ビジネスは、パズル ・歴史は、書き換えられる？(佐伯邦男)

22 ①汝自身を知れ（ソクラテス）

②子曰、吾有知乎哉、無知也（孔子）

子曰く、われ知ることあらんや。知ることなき也。孔子はいった。私は物知りか。いや、私は無知だ。

③知人者智、自知者明（老子）人を知るものは智なり、自らを知るものは明なり。

23 人生は「旅」－人生を考える「旅」－「学ぶ」楽しさを身につけよう

*「旅」で何を「感じるか」

24 「人は意味をもたなければ生きられない」

（V.フランクの金言②）

*「意味のないことをする」のは、死んだに等しい。

25 『健康ブーム』の本末転倒『健康』は『異常の発見・排除』か？「ストレスの回避

」で実現するのか。それが「人生の意義」なのか。上杉正幸（香川大学教授）の記事より

*健康は人生の目的ではない。健康でなくても、幸せになれるし、人を幸せにできる。

26 巧言令色鮮牟仁 巧言令色少なし仁

(論語)

27 改めるべき3つのくせー

自己中心、マイナス思考、感情コントロール不能

(国司義彦)

*心の落とし穴にはまるな

28 かつとなったら、10数えよ。それでもだめなら100数えよ

(トーマス・ジェファソン)

*怒りを鎮めて、鎮めて、後から考えると今の怒りは笑い飛ばせる。

29 平凡を積み重ねれば「非凡」 (小林一三)

*小林一三『就職難時代への提言』

*平凡を甘くみてはいけない。大企業、官公庁に勤めても一生が安泰というわけではない。生存競争は激しく、ストレスも大きく、健康を害することも多い。中小企業で「職」を身につけて、独立するのも、一つの生き方だ。

30 人間同士の差は、他の動物と人間の差より大きい。

(出典不詳)

31 祇園精舎

*奢れる人も久からず ただ、春の夜の夢のごとし。

猛き者も遂にはほろびぬ、偏に風の前の塵に同じ。

*権力者、強大な国家権力もやがては滅びる。

32 自分の『天命』を知ろう (渋澤栄一)

—「本来自分にそぐわない行動を取ったり無謀な野望を抱いたりしても、うまくはいかない」

33 わが身わがものにあらず (貝原益軒「養生訓」)

34 長生きすれば、楽しみ多く益多し。(貝原益軒「養生訓」)

*長生きすれば楽しみも多い。人生後半を大いに楽しむべし。

35 「世の中というものは。人の思うほど、そんなによくも悪くもないものですよ」
（モーパッサン「女の一生」より）人間万事塞翁が馬（中国の古い諺より）

*人生は、良くも悪くもない。うまくいったと思うことが「裏目」に出ることもある。
その逆もある。

36 ・悪貨は良貨を駆逐する （トーマス・グレシャム）

・天網恢々疎にして漏らさず（老子）どちらが、究極の真実か？

*悪い奴に心の平安はない。

37 ①未得之也、患得之

未だこれを得ざるときは、これを得ることを患う。

人は金、地位、名声などがないと、金や地位や名声を求めてあれこれ
思い煩う。

② 得之患失之

これを得ればこれを失うことを煩う。

何かを得れば、それを失うまいとしがみつ়く。

（論語）

*欲しかったものを「失うまい」としがみつ়くことは、かえって辛く切ないことだ。

38 ・「世界に変化を望むのであれば、自らがその変化となれ」（マハトマ・ガンジー）
（塩見直紀著「半農・半Xという生き方」より）

*ガンジーの名言「[7つの社会的犯罪](#)」

哲学なき政治、労働なき富、良心なき快樂、品格なき学識、倫理なき商売人間性なき
科学、献身なき信仰

*自分が変われば周りも変わる。

39 「人が遺すべきものは財産でも名声でもない。崇高な生き方だ」

（内村鑑三）

40 「デジタル化できるものをデジタル化しないのは馬鹿だが、デジタル化できないものまでデジタル
したがる奴は、大馬鹿者だ」（坂野孝義「先見性」のある上司の一言より）

*デジタル化して人を脅かすな。数字の魔術に惑わされるな。

41 文章千古事、社稷一戎衣（杜甫）

文章は千古のこと、社稷（しゃそく＝国）は一戎衣（いちじゅうい＝はかない）

文章は永遠の命を保つが、国は、はかないもの

*地球上から戦争をなくす「夢のまた、夢」？（杜甫）

4 2 もったいない（ワンガリー・マータイ）「もったいない」は世界の共通語

4 3 浮世絵の啓示（落水荘）

*欧米人が感動した「日本人＝浮世絵師の感性」

4 4 夢なき者は理想なし 理想なき者は信念なし 信念なき者は計画なし 計画なき者は実行なし 実行なき者は成果なし 成果なき者は幸福なし 幸福を求める者は夢なかるべからず（澁澤栄一）

4 5 困難こそ『魂』を磨き上げる（ウェイン・W・ダイアー）

4 6 「現実をより有効に知覚し快適な関係を保つこと」

（A・Hマズロー）

*感性を磨け。「鑑識眼」こそすべてにまさる財産だ。

4 7 理想・熟慮・断行（国司浩助）

いざというときの「心の支え」―「古今東西の名言集」 解説とコメント

1 この世の最大の不幸は貧しさや病ではありません。誰からも自分は必要とされていないと感じることです（マザーテレサ）

ストレスの多い現代社会、ストレスに負けそうになって、逃げ出したいくなります。そこで、ストレスに対応し、克服するために何らかの『癒し』がブームとなるのです。それらはある程度は有効で、効果もあるでしょう。しかし、ストレスから逃げていたのではいつまでも、問題の根本的な解決にはなりません。根本的には

- ・ 自分は人の役に立つことをやっているという実感、
- ・ 私は、人に必要とされているという意識が持てるように心がけることです。

逆に、そういう意識がもてない人は、

- ・ いてもいなくてもいい存在という気分になりがちで、ふさいだ気持ちをますます増幅させます。

それは定年退職後のビジネスマンや子育てが一段落して、これといった仕事を持たない主婦にも多く見られる現象です。これらの人々にとっては、家事でも、ボランティア活動でも地域活動でも『何か』役割を担うことが有効です。

最近、小中学生にまで、こういう「悲しい精神状態」の人が広がっていることは、由々しき問題です。親や家族から放置され孤立して（自分なんかこの世に生まれてこないほうがよかったんだ）と「思いつめての自殺」が常に報道されています。あるいは、「むしゃくしゃして放火した。放火すれば、人がこちらを向いてくれる」という人もいます。

いずれの場合も『孤独』が事態を一層深刻化させ、本人を追い詰めます。

マザーテレサの言葉にあるように、人間にとって最も不幸な状態は「自分が必要とされていないと認識した時」なのです。

* 『閃き』のヒント

日ごろから

- ・ 自分を待っていてくれる人、必要とされている人がいるという実感が持てるように心がけることが、毎日を充実して過ごすための秘訣なのです。

では、具体的にはどうするか、やはり、人のためになること、役に立つことに目を向け、自分の役割を認識して誠実に遂行することが第一、です。

そうしていれば、だれかが、必ず関心をもち、好意を示してくれるはず。そして、出来れば、人に喜んでもらえる『得意技』を早く身につけることでしょう。

例＝「孤独な人」に目を向けるとー「独居老人」の「孤独死」の不安＝サインを送るSOSシステムーボランティア団体に働きかけ、「コミュニティづくり」をする。

2 分厚な哲学書よりも、いろいろな人物の「語録」によってこそ、人間あるいは一生の意味を学ぶ所が多かった（小島直記著『一燈を提げた男たち』より）

博学で知られる小島直紀さん。ドイツ、フランス、イギリスなど近代欧米の哲学書はもとより、ギリシャ、古代中国などあらゆる哲学書に精通していることは参考書に引用された学者、哲人の名前を見ても明らかです。その小島さんが、ガンを患い、生死の境をさまよった大手術を受けた折に、「心の支え」

となったのは、いろいろな人物の「語録」だった、と述懐しており、これはまさに、「危機に瀕した人間の」偽らざる実感のこもった話でした。

また、人生に行き詰まり、迷った時に「哲学」はかえって、「死」に導く危険もある、と同氏は言っています。実際、近年年間3万人を超える自殺者が出るのは、多くの人が高等教育を受け、「いろいろ考えすぎる」傾向が拍車を掛けていると、という見方をする人もいます。

「哲学」の学び方を誤るとー

著者は同書の中で、

「人生の価値はその長さになるのではなく『使い方』にある。（中略）十分に生きたかどうかは、『生き方』、本人の意志にかかっている。生きた年数には関係ない」というミシェル・ド・モンテーニュの言葉を紹介しています（一部筆者抄訳）。

モンテーニュは16世紀フランスのエッセイスト。彼の影響を受けたパスカルの言葉

、「人間は自然の中で最も弱い葦に過ぎない。しかし、考える葦である」

はつとに有名ですが、著者は「2度にわたるガンの手術のとき私を励ましてくれた」言葉として、モンテーニュとパスカルの言葉を挙げて述懐しています。

が、他方ではモンテーニュの「哲学をきわめるとは、死ぬことを学ぶこと」という言葉も紹介しています。この言葉は自殺者年間3万人という現代の日本人に重く響くような気がします。

別に、現代の日本人が、今回のキーワードのように「分厚な哲学書」を勉強しすぎて自殺者が増えたわけではないでしょうが、拡大解釈して「勉強の仕方を誤ると、死に急ぐ」と取れないこともなく、その昔、哲学をもってしても人生の真相は「不可解」との言葉を遺して華嚴の滝に飛び込み自殺をした一高生（旧制、今の東大）藤村操の話を思い

出してしまいました。

*小島直記 (1919年～2008年) 東京大学経済学部卒。海軍主計大尉で終戦。1966(昭和41)年ブリジストンを退社し、ペン一本となる。『まかり通る』などの伝記小説や『出世を急がぬ男たち』などの『男たち』シリーズが評判を呼ぶ。(『一燈を提げた男たち』著者紹介より)

3 「逆境の時、その人(組織)の真価が現れる」(国司義彦)

日頃調子のいいお世辞を言って近付いてきても、人が逆境、落ち目になると見向きもしないような人は「冷たい人」です。

- ・ 見かけや「甘い言葉」で人やビジネスを判断してはならない、ということです。
- ・ 大震災をはじめ、世の中や人々が「逆境」にある時、人や組織の「真価」が問われる、と考えましょう。普段は、親切そうな言葉やいかにも、頼りになりそうなことを言っているながら、社会、職場、地域などがピンチに陥った時に、真っ先に逃げてしまうような責任者、政府、軍部ではどうしようもないのです。戦争中に勇ましいことを言っていた軍部が戦争の敗戦の色濃くなってから、国民を放っておいて真っ先に逃げ出したといわれる。悪名高い関東軍はその典型でした。
- ・ 大震災前には、「コンクリートから人へ」と言っていた政治家の幹部の中で、国や地域が危機に立たされた時は、だんまりを決め込んで、必死に復興に当たっている人たちを引きずり降ろそうとする—こういう時こそ、政治家の真価が現れました。そんな奴には2度と投票しないことです。

・ *参考書「人を見抜く107のヒント」(国司義彦著 こう書房)

災害に遭って途方に暮れているとき、優しい言葉や温かい思いやりそして、心づくしのもてなしや介護、支援は身にしみる。大震災のようなときに、どういう言動をするか、よく見ていると、その人の「真価」がわかる。政治家なども日頃偉そうなことを言っている、みんなが困っているときは「ダンマリ」を決め込んでいる人は、誠意など微塵もない人です。

この言葉の反対の意味が「巧言令色鮮仁」(26項)という論語の言葉もあります。

4 学而時習、不亦説乎。

有朋自遠方來、不亦樂乎。

人不知而不愠、不亦君子乎。

学びて時にこれを習う、また説(よろこ)ばしからずや。朋あり遠方より来る

、また楽しからずや、人知らずして恨(愠)みず、また、君子ならずや『学ぶこと』について、孔子は次のように論語の中で述べています。

論語現代語訳

「学ぶこと、そして時々“おさらい”することは楽しいことだ。次第に同志ができ、集まってくる。こんな楽しいことはない。人に認められなくても、そんなことは気にかけず勉強を続ける。これが本当の「君子」（立派な人）だ。」

日本語では学ぶを『勉強』と置き換えました。強いられて学ぶことは、本来の意義は生かされません。

いずれにしても「学ぶことは楽しい」ということ、「人生いくつになっても学べる」ということを思い出してください。特に高齢社会を迎えて

・楽しく「学ぶ」ことは、「生きがい」の発見にもつながります。60歳を過ぎてから中学や高校、大学、大学院へ行く人も多いのです。

*『閃き』のヒント

職業訓練コースで、どのコースが、本当に役に立つか。情報集はヒットする

①学而不思則罔 ②思而不学則殆（論語＝孔子）

①は「いくら勉強しても、そのことを考え活用しなければ、不明である。役に立たない」という意味です。

いわゆる偏差値の高い高学歴の官僚や国会議員、ビジネスリーダーたちの中には、勉強が日常の仕事や生活上、少しも役に立っていないと思われることが多いようです。たとえば、あのホリエモンや村上ファンドの元社長は最高の学歴を誇り金儲けもうまく、若くして社会で頭角を現しました。でも、人間として「やっていいこと」「やってはいけないこと」つまり善・悪の判断が出来ず、結局は、社会を混乱させる結果を招きました。また、「ホリエモンから届いたメール」が偽ものであるとも見抜けずに議員を辞職せざるを得なくなった衆議院議員もいましたね。彼も、東大卒大蔵省（現財務省）のエリート官僚から政治家になった人。そのほか国の政策を決めたり、大事な問題を解決すべき国家公務員のいわゆるキャリア組の中にも、実社会ではほとんど役に立たないか、汚職をやって私服を肥やし、天下り先ばかりを心配している人もいます。

②は、実社会では役に立つ技術を身につけていても、経験だけしかなく、基礎的な勉強の出来ていない人は、いろいろな問題に対応が出来ずに身を誤ることも多いのです。

職人や中小企業の社員にはこういうタイプも目立ちます。

特に最近パソコンや携帯電話が得意な若者も多いのですが

そういう人たちは、すぐに自分が『名人』になったつもりで、威張っているような人は

、基礎的な勉強ができていないために、ソフトやハードの技術革新が行われた場合それについていけず、脱落してしまうことも多いのです。

また、視野が狭く、政府や会社の上層部がまちがった判断を下しても、そのことを見抜くことが出来ず、『知らず知らず悪の手先になっている』ことも気づかず、気がついたときには騙されて『濡れ衣』を着せられることもあります。

太平洋戦争に駆り出され、『お国のために』と信じて戦った人の中には、知らず知らず他国の人を傷つけたり命を奪い、自分も尊い命を落としあるいは戦後戦争犯罪人として処刑された人も大勢いました。

戦後の高度成長時代に、『会社のため』と必死に働いたけれど気がついたらエコノミック・アニマルと批判された会社人間も②のタイプの人です。悔いのない人生を送るには、勉強をしてそれを正しく使いこなす『知恵』が必要です。

* 『閃き』のヒント

偏差値をあげて、有名校へ進学するよりも、一生身に付く職業教育、文化向上に役立つ教育

情報PI（パーソナル・アイデンティティ）確立の勉強法、

名人芸、職人芸ガイド

5 我、十有五にして学に志す。

三十にして立つ。四十にして惑わず。

五十にして天命を知る。

六十にして耳したが順う。

七十にして心の欲するところに従えどりのり矩をこ踰えず。

（論語）

孔子は10代で学問を志し、30代で一人前になり、40代で惑うことなく、50代で天命を知ったそうです。そして、60代になると人の言うことが素直に耳に入るようになり、70代になると、自分の欲望のままに行動しても、羽目をはずすことはなくなった、というのですが...

40代以上の皆さんは、

「天命を知る」「耳したがう」「矩をこえず」

の年代ですが、凡人はなかなか孔子のようなわけにはいきませんよね。それに、今の高齢社会には80代、90代に何をしたらよいかも必要になってきました。皆さんで考えてみてください。

私には

「20代だから出来ること、すべきこと」「30代だから出来ること、すべきこと」「40代だから出来ること、すべきこと」

「50代だから出来ること、すべきこと」

(以上、日本能率協会マネジメントセンター)

のほか

「20代の生き方を本気で考える本」以下
各世代別の

「50代の生き方を本気で考える本」

(PHP文庫)があります。

これらの中で、私は「20代は、基礎的な勉強—人生の基礎工事をしなさい」30代では「PIパーソナルアイデンティティの確立」40代では「これまでの見直しと能力再開発、進路指針の確立」50代では「第2の人生への助走」といっています。

どれも、大きく違ってはいないと思いますが、あくまで一般論なので、もちろんそれぞれの方が、自分の個性と能力、置かれた環境に合わせて考えてください。

*『閃き』のヒント

人間いくつになっても「やり直せる」。

ビジネスも「何歳だからもう遅い」ということはない。7転び8起気の精神で、ただし、「過去の失敗は生かせ」

6 小人閑居為不善 小人閑居して不善をなす

つまらない人は暇にしておくのと、ろくなことは考えない。という意味です。

祝祭日がふえて、日本人もよく遊ぶようになりました。それは悪いことではないのですが、経済的に余裕が出来ると、怠けることばかり考えて朝からパチンコや、競馬場へ通う。つまり、ギャンブルにのめりこんで、高利の金融業者やクレジットカードで借金地獄に陥り、返済不能、家庭崩壊になってしまった人も少なくないのです。

パチンコというと、家族で出かけていくのは悪くないとしても、赤ちゃんを車において、死なせてしまうという悲劇も起きています。『不善をなす』では済まされないこと。動物が命がけで子育てする姿を見たら、人間として恥ずかしいことだと思えます。

それ以上にひどいのは、子供の『虐待』。これはまさに、『鬼』ですね。

損をするのです。

*『閃き』のヒント

ごまかしのビジネスより、正直、本物のビジネスを心がけよう。「事前の仕込」をきつ

ちりやろう。

*「下手な考え休むに似たり」おかしな考えにとり憑かれたら、体を動かして振り払え

7 小人之過也必文 小人の過ちは必ずかざる

「つまらない人は、過ちを犯すと言いつけをする」という意味です。

ここでいう『小人』とは、地位の低い人、経済的に貧しい人という意味ではありません。そういう、社会的な地位や学歴、収入などとは無関係です。

むしろ近年、ステイタスが高く、大きな社会的責任を担っているはずの国会議員や社長などが不祥事や失敗が起きた場合、まず、それを隠蔽しようとし、ますます傷口を大きくした挙句いよいよ収拾がつかなくなると、『私は知らない』『記憶がない』といって言い逃れをしようとする傾向があります。

ですから、孔子のいう『小人』とは、人前では威張っていても『器』の小さい人間と解釈したほうがよいと思われます。

これらの言葉は、キーワード2とも関係があり、たとえ勉強して学業成績がよく、大企業や中央官庁に就職し、やがて出世して要人になっても、人間として大切なことが分かっていない人は『小人』ということになります。

総理大臣でも大会社のオーナーでも例外ではありません。

昔初代アメリカ大統領ワシントンのエピソードにこんなのがありました。彼が少年時代に自宅の庭の大事な桜の木を切ってしまった。父親は大変悲しみ、怒った。でも、叱られることを承知で、ワシントンは正直に「自分が切りました」と申し出た。すると父親は『正直は大切』といってむしろ褒めてくれたという話です。

ウソがまかり通る世の中、正直者が馬鹿を見るような錯覚を起こしますが、人間には誰にも「良心」があります。良心に逆らい無責任な行動をすると結局は良心の呵責に苦しみ、

8 未得之也、患得之

未だこれを得ざる時は、これを得ることを患う。

人は金、地位、名声などがないと、金や地位や名声を求めてあれこれ思い煩う。

(論語) 人間は地位、金などないときは「欲しい」と思っている心でいろいろ心を悩ませます。高度成長時代の日本は、欧米に追いつけ追い越せと国中に経済優先、環境汚染。その結果、国土は乱開発され、水は汚れ、水俣病、イタイイタイ病そして今、ようやく明らかにされようとしているアスベストの被害。こうしたいわば公害病が発生しました。

また、金が集まる権力機構、汚職、贈収賄。いずれにしても金権体質、拝金主義に傾倒していきました。その傾向は、バブルが崩壊したいまも、マネーゲームの横行とてますますエスカレートしていくようにも思われます。

そして、韓国、台湾、中国、タイ、インドと、かつての「途上国」がその後を追っているようにも見えます。

一方、財政破綻、デフレ、リストラ、大量失業。

こうなってくると『やはり、お金』が頼り？悪代官（官僚、代議士＝政治利権屋）と悪徳商人の癒着。水戸黄門も顔負け。詐欺まがいの利殖、高利貸しが跋扈(ばっこ)し、ATM強盗から保険金殺人まで。

とどまるどころを知りません。こんなあさましい世の中をこれから、あなたはどう生きて行きますか？

カネや地位がないから、カネや地位を求める。

カネや地位があったら、何でも自分の思うことがかなう。

「こんな世の中だから、世間並みにちょっとぐらい悪いことをしてもいいのではないかな」

と考えるか、それとも

「こんな世の中だからこそ、自分はせめて、まともに暮らし、悔いのない生き方をしよう」

と考えるか。

あなたはどちらの考え方をとりますか。

答えは、おのずから、明らかだと思いますが。

得之患失之 これを得ればこれを失うことを煩う。 - 何かを得れば、それを失うまいとしがみつく。

地位や名誉を得たものはそれを失うまいとして後進の成長を邪魔し、老害を振りまく。公社、公団ほか特殊法人への天下り、法外な退職金の二重取り、三重取りそして...

考えてみれば、人間は生まれたときは一人で裸で生まれてきます。同じように、死んで

いくときも

「一人で裸」です。

古くは、平清盛がわが娘徳子（賢礼門院徳子）を高倉天皇に嫁がせ、安徳天皇の母となり、位人臣を極めながら、源氏の反抗に滅ぼされ、徳子は「この世の極楽」から「この世の地獄」をみた、と言われます。（祇園精舎参照）

また、下克上の戦国の世に、成り上がり、太閤秀吉が天下人になって、死んで行きとき、徳川家康、前田利家、石田三成ら、いわゆる5大老、5奉行を枕頭に呼び

「くれぐれも、秀頼を頼む」

と遺言して死んでゆくシーンは、ドラマや映画で有名です。現実がそうだったかどうかは、定かではありませんが、恐らくドラマや映画に近い状態だったに違いありません。

いずれにしても、太閤といえども、あの世へ何ももっていきませんでした。

結果として

「露と落ち露と消えゆくわが命、なにわのことは夢のまた夢」

という辞世の歌。

現代においても、既得権を得たものは、何とかそれを守ろうとして、外貨預金や相続税の優遇措置など『あの手、この手』を考えます。

「増税、保険・年金制度の改悪」年金の支給開始年齢の引き上げ、福祉関係予算の切り捨てなどメチャクチャな金持ち優遇策、他方で消費税や所得税の大幅増税など低所得者、一般国民の生活を混乱、破滅に陥れます。

しかし、どんなにあの手この手で既得権益を守って、子孫に財産を残そうとしても「お墓の中まで」持っていくことは出来ません。その挙句、残した遺産が災いの種になって骨肉の醜い争いになったのでは、死んでも死に切れないことになりそうです。

* 『閃き』のヒント

既得権にしがみつくとビジネスはジリ貧、新天地を求め、新境地を開くニュービジネスは夢が広がる。

(論語)

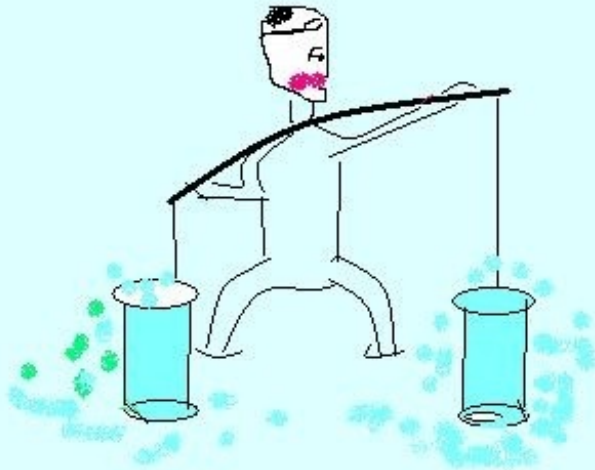
* 欲しかったものを「失うまい」としがみつくと、かえって辛く切ないことだ

9 ①持而盈之、不如其己。瑞而鋭之、不可長保。持して盈（みた）すは、そのやむに如かず。瑞（おさ）めてこれを鋭くすれば、長く保つべからず。

②絶巧棄利、盜賊無有。功を絶ち、利を捨てれば、盜賊あることなし

(老子)

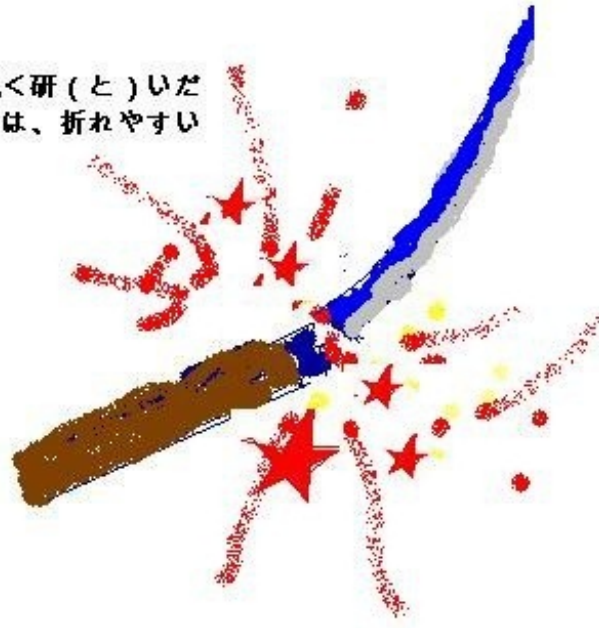
- ① をもったまま水を満杯にして苦労するよりほどほどにとどめておくのが良い。



欲張って、器にいっぱいの水を注ぎ
運ぼうとすると、こぼれやすい？！

- ② 物を研いで鋭利にすれば刃がこぼれて長く保つことは

鋭く研(と)いだ
刃は、折れやすい



できない。

③欲張りのサルが壺の金貨を欲張って取り出そうとするが口が狭くて、取り出せない。



『過ぎたるは及ばざるが如し』

あまり欲張るとかえって長持ちしない、ということ。功名心や欲を捨てれば、盗賊に狙われることもない。

美容整形で金持ちになった美容整形の医師が、高級マンションに住み、娘に高級外車を与え、そのゴージャスな生活ぶりをテレビで取材させた。これが強盗の目に留まり、娘は誘拐監禁され、身代金を要求されるという事件が現実起きた。幸い娘は無事に保護されたが、この話は、老子の警告が現実になったもの。美容整形で成功しても派手に紹介しなければ強盗を働こうという気にもならなかつたろう。

自分の派手な生活をテレビなどで喧伝したことは、知らず知らず、盗人を挑発したことになる。

「金儲けは悪いことですか」という村上ファンドの元社長の開き直りの質問にも老子は答えを出していることになる。

『閃き』のヒント

欲張りもほどいほどにしないと、儲けた利益を失い、借金だけが残る。

是以聖人、後其身而身先、外其身而身存。非以其無私耶、故能成其私。

ここをもって聖人は、其の身を後にして身先立ち、其の身を外にして身存す。其の私無きを以ってに非ずや。ゆえによく、其の身をなす

10 ①少則得 少なればすなわち得 ②多則惑

①は、所有物の少ない人はかえってもものを得る楽しみがある。

あまり多くのものを持っていると新しいものを得ても喜びを感じない。

②は品物をたくさん持つとかえって迷いが生じる。知識も多いとかえって迷うことが多い。

今回は中国古典の代表的な思想家で中国思想界の代表格、道教の開祖、老子の言葉を選びました。今までに取り上げた儒教の孔子と比較される思想です。

儒教が学問、仁、義、礼、智など人の道を説こうとするのに対して、「無為自然」を旨とする考え方です。

「何もしないがいい」と言われると、抵抗を感じる人も多いでしょうが、飽食日本、金や権力を欲しがらる政治家、偏差値の高い人たちがよってたかっても赤字財政の建て直しができないところなどを見れば、老子の言葉は「耳が痛い」ところがありますね。

バブル経済が崩壊し、かつて巨万の富を築いた、巨大企業の代表格、ダイエーや西武が、オーナーの身内の後継者に、経営や私有財産を譲って守ろうとして、どういうことが起こったか。

②「多ければすなわち惑う」という言葉通りになって、最終的には、多くのものを失い、経営権も私有財産の多くの部分も他人に譲り渡す結果になったのではありませんか。巨万の富や、使い切れない私財をどう使ったらよいか「惑い」かえって、経営を危うい方向に導いてしまった結果にほかなりません。

私企業だけでなく、日本の政府や金融機関が、かつては無担保で巨額な資金を貸し付けバブル景気を演出し、多額の不良債権を抱える結果となりました。

バブルが崩壊すると不良債権を抱えて、経営危機を迎え、て右往左往し（惑い）大銀行は合併に逃れると共に、政府に泣きついて、預金者の金利をゼロに近い状態にしてもらい、一方では経営の健全化と称して「貸し渋り」をして預金者を苦しめ、他方では、町の金融業者に高金利で貸し付け不当な利益を確保する—こういうばかげたことをして、ようやく存続したことはだれでも知っています。

こんなことをして手厚く保護されれば、利益が出るのは当たり前ですね。でも、彼らのやったことは老子のいう

・ 多則惑そのもの

ですね。日本ばかりでなく、アメリカを始め先進諸国のお金持ちの中には「多則惑」が多く、「少則得」で満足していた途上国の人々まで、不幸に巻き込んでいるのかも知れません。

＊『閃き』のヒント

これからは「欲張らず、ほどほどで満足し、中身を充実させるビジネス」が繁栄する。

天長地久。天地所以能長且久者、以其不自生。 (老子)

1 1 年々歳々花相似 歳々年々人不同 代悲白頭翁 (白頭を悲しむ翁に代わる)

劉 廷 芝 年々歳々花相似たり 歳々年々人同じからず

日本では3月『期末』『卒業』『就職』『転勤』一人生の節目、「別れ」もあり、色々考えさせられる時期でもあります。

「楽しく学ぶ」ことについてお話しましたが、「学び方次第で楽しくなる」という実例です。

漢文が苦手、という方でも、ここにあげた漢詩の一節はどこかで、一度は聞いたことがあるはずです。

中国唐時代には、李白、杜甫、白楽天(白居易)をはじめ、多くの詩人が輩出し、わが国の文学作品にも、大きな影響を及ぼしています。＊

この詩は、長文の詩で

作者は劉 廷 芝

作品名は「代悲白頭翁(白頭を悲しむ翁に代わる)」という作品です。

私は、ここ、二〇年オーストラリアと日本を行き来して、いろいろな人と知り合いになりました。が、転居、転勤、病気、死去、人によっては、消息不明になるなど、オーストラリアが移民国家であるだけに、一層、激しい移り変わりを感じ、思わずこの一節を思い出しました。

＊「閃き」のヒント

MIXIなどSNSを使って、遠方の友人と交信するノウハウ。

旅、ロングステイ、「花鳥風月を楽しむ旅情報」

＊人生ははかない。しかし、花は、今年も美しく咲き、鳥は楽しくさえずる。人は死んでもゆかりの人の心で生き続ける。

1 2 現代の究極の病理は「価値の喪失」(A H マズロー)

人間性心理学の開祖心理学者のマズロー博士は今から40年以上も前に「価値ある目標の喪失が人類の危機である。このような状態に対して人間は何かできることがあるはずだ」と訴えました。価値ある目標の喪失をどうすればよいか、「何か出来ることがあるはずだ」11月号に続いて、その具体策のヒントが今回のキーワードです。

日本の社会では、一部の責任ある地位の人々が、おいしいところばかりを追いかけてバブル経済を仕掛け、悪い手本を示し、市民の勤労意欲をなくさせました。

そしてバブル経済が崩壊すると今度は、責任を回避し既得の権益にしがみつこうとしています。

さらには、マネーゲームの横行。

額に汗して働くことが敬遠され、電話やコンピューターで、数字上のマネーを動かして、瞬時に巨万の富を築く人。こんなことでよいのでしょうか。

しかし、インターネットで世界中が結ばれ、日本だけではどうしようもない世の中になりました。

外国の〇〇マネーが、株式投資や企業買収いわゆるファンドという形で、隙あらば儲けようと狙っています。

こういう世の中になってくると、「自分だけが清廉潔白に生きよう」と覚悟してもどうにもならないように見えます。

「お金を儲けちゃいけないんですか」村上ファンドの元社長は、そう言って開き直りました。その答えはズバリ言えば次の通りです。

金儲けそのものは悪いことではありません。しかし、金儲けに限らず、何事も「手段を選ばず」というわけには行きません。

村上氏の場合はインサイダー取引が違法の疑いがあるということで逮捕されたわけですから。

今、公的な立場を利用して、絶大な影響力をもつ立場にある人が、蓄財に走る場合もしばしば見られます。（某県知事、日銀総裁、公安調査庁長官などの疑惑、社会保険庁関連の体育施設や研修施設への過剰投資）

お金や権力は、万民（あまねく多くの人々）のために活かしてこそ、価値があるのです。

特に、公的立場の人、影響力の強い人々は、このことを肝に銘じなければなりません。法的責任以外に、道義的な責任があるからです。それを「金儲けは悪いことか」と開き直るのは、明らかに「判断」のどこかが「大きく狂っていた」といわざるを得ません。ここで、すべての「拝金主義者」に次のように問い掛けたい。

そうやってお金を儲けて「何に使うつもりですか？」と。

人には本来「良心」が備わっているはずだとすれば、無責任で自己中心、せつな的な金儲けは、かならずどこかで行き詰まり、破綻します。無理をすれば、本人のストレスも大きく、悪い連中のターゲットにもなることは目に見えています。ということは「犯罪を誘発している」ともいえるのです。

先ごろ発生した美容整形外科院長の娘の誘拐事件についてはこの連載で既に取り上げました。

アメリカ、日本、ヨーロッパ先進各国そして経済成長著しい中国、脱社会主義傾向が目立つロシアなどで、新しい富裕層が生まれて生活がますます豪華になる一方で、貧困が原因と見られる、犯罪や

テロ事件が、あちこちで頻発しています。

もとより、国際社会の表舞台では、裕福な国が貧しい国に援助する国際連合のユニセフ、ODAや多くの援助金があり、日本も多額の援助金を支出しています。が、他方、裏舞台＝闇の世界では裕福な国から貧しい国に、兵器が提供され、代理戦争を誘発し、資源や利権を争う—という悲しく忌まわしい構図が存在していることは何となくみんなに伝わっていることだと思います。

国、行政機関、会社、個人いずれの場合も、カネを儲けても、それを社会に還元しないと、破綻は免れないのです。中国古典の哲人たち（老子、孔子）も言っています。

〇〇マネーが世界中を飛び回る21世紀、私たちは原点に帰って、額に汗して働く価値、大切なもののために働く意味を考え直すことが必要です。

又、今、天下り公務員の公費の無駄遣い、そしてその無駄遣いに対してだれも責任を取らないという現象。

さらには、悲劇のたびの『反省』『撲滅運動』にもかかわらず、飲酒運転などの悲劇はやまず『責任感』『使命感』が忘れ去られた感があります。

責任感のある人間は、馬鹿正直で損をする—とさえ考える人も少なくないようです。

しかし、そうではないのです。無責任な行動からは、悔恨と物足りなさのみが残り、成長の実感、精神的な充実感、『何かをやり遂げた』という達成感ももたらされません。

反対に、責任ある行動は、『達成感』や『爽快感』を伴うもので一番得をするのは、責任ある行動をとった本人であることを知るべきです。

今こそひとりでも多くの人が、働く価値に目覚め、責任ある行動をとることを心がけるべきだと思います。なお、ここでいう「働く」とは必ずしも（お金を稼ぐ）ことではなく、ボランティア活動でもNPO活動でもよいのです。それが結局本人や家族のためにもなるのですから。

*『閃き』のヒント

「自分が何をしているか」を徹底させることが、責任感と使命感を植え付け、『モチベーション』を向上させる。

13 人を働かせずにおくことはどんなに仕組まれた拷問よりも残酷なことである。私の知っている幸せ

な人は、家族など「大切なもの」ために一生懸命働く人である。

責任ある行動は報われる。(AHマズロー)

*『閃き』のヒント

本物のビジネスで「感動」を

「金のためごまかして儲かるビジネスをする」「より多くの賃金を稼ぐために、働かされる」のではなく、使命感をもち、自ら責任を負って自主的に「働く」ことが大切。

今こそ、人間だけが持つ「自己実現の欲求」に目覚め「希望」をもって、充実した毎日を過ごすとき、その姿が周りに「希望」をもたらします。

14 「もし、人間の教育が不適當だったり悪かったりすると、人間は、地球の全ての産物の中で、最も残虐な存在になる」(プラトン=古代ギリシャの哲学者) F・ゴープル著国司義彦監訳「苦悩と混迷を超えて」より引用)

古代ギリシャの哲学者プラトンの言葉を取り上げました。

実は私もあのプラトンがこのような言葉を遺していることを忘れていました。先日、自分が訳した*Fゴープルの「苦悩と混迷を超えて」を見直す機会がありその中に引用しているのを再認識したのです。

そして「さすが古代ギリシャを代表する哲人の言葉」と感銘を覚えました。*（「マズローの心理学」の著者）

今世界で戦争やテロ、日本でも凶悪犯罪や児童虐待など残虐な行為が絶えず、ますます悪化しているように思われますが、それは「教育」に原因があるということになります。

では、

- ・ 教育のどこが悪いか
- ・ どのように、修正したらよいのか

です。

教育に問題がある、という認識は多くの人が持っています。政府も盛んに、教育改革を訴えているようです。しかし、一般には、「学力が低下している」「愛国心がない」「自分勝手に社会性がない」などの問題提起です。

これらの教育改革も必要でしょう。が、それにもまして、今の教育で一番欠けているのは

・ 自然に対する畏敬の念、人間としての謙虚さ
です。

人間が傲慢になると、「思いやり」もなくなり、「残虐」になります。これは、非常に危険です。

明治以降の日本の教育を考える時、ヨーロッパの歴史とわが国への影響を辿ることは非常に有効です。日本は欧米の教育を取り入れて先進国の仲間入りをしようと努力してきたからです。

ここでは、ごく、おおまかに振り返ってみましょう。

中世のヨーロッパでは、キリスト教が中心で、王は神の名の下に全てを支配しました。「神は絶対であり、人間は神の創造したもの」とされました。

ヨーロッパ諸国は当時、イスラム教徒をはじめアジアの異民族の侵略の脅威に曝され、それを排除しようとする十字軍が結成され、イスラム勢力を追い出し、さらにはアラブ世界にまで遠征するなど、戦争が絶えませんでした。

絶対王政の下で世の中が落ち着くと、人々は、自由と真実を求めて、ルネサンスが開花します。神を讃える絵画や彫刻、音楽など芸術が花開いたのですが、その一方で、宗教の腐敗と行き過ぎに対する批判が高まり、ルターやカルバンに代表されるいわゆる「宗教改革」が起こります。当時の為政者は、首謀者（改革のリーダー）を処刑、処罰しますが、勢いは止まりません。

大航海時代が始まり、ニコラウス・コペルニクス（1473－1543）ガリレオ・ガリレイ（1564－1642）による「地動説」が提唱されます。

裁判で有罪判決を受け、「それでも地球は動いている」とつぶやいたというガリレイのエピソードは象徴的です。 同時代にフランスでは、デカルト（1596－1650）も地動説を発表しようとしていましたが、ガリレイの裁判を知り、発表を控えたと伝えられています。デカルトは後に「我思う、故に我あり」と説き、近代の哲学、自然科学の基礎を築いたとも考えられています。

いずれにしても、この頃から

「何でも分析、証明、認知されなければ、真実ではない。」という考え方がヨーロッパ世界に浸透していきます。デカルトの研究においては、神の存在さえ、証明しようという試みも見られました。

その後、植民地を基盤にした商業の発達に伴い、経済は拡大します。

イギリスの繊維産業を中心に、農村から、労働力が集められる、いわゆる「囲い込み運動」が起きて、離農と都市への労働力集中が進みます。いわゆる産業革命と資本主義の始まりです。

資本主義のもとでは、都市の工場で、労働者の過酷で悲惨な労働条件と貧困が新たな社会問題を生むことになりました。

ここで、わが国に話を戻して、同時代の日本はどうであったか、を見ておきましょう。

ガリレイやデカルトの生没年を見ていただきますと、日本は安土桃山時代から関が原の戦いをへてようやく江戸幕府が始まった時代です。

それから徳川250余年の年月を経て、1854年ペリー来航で泰平の夢を破られ、開国、明治維新、文明開化の時代になり慌てて、先進諸国へ「追いつけ、追い越せ」と政治、経済、教育、治安国防の体制を整えていくことになります。

明治以降の高等教育では、欧米の教育体系が採用されたのです。当時の学生のはやり歌に「デカンショ節」というのがあったそうです。

「デカンショデカンショで半年や暮らす、後の半年や寝て暮らす」と。デはデカルト、カンはドイツの哲学者カント、ショは同じくショーペンハウエルだったのです。当時から昭和にかけて、いかに「欧米の学説」に振り回されていたか、いや今日でもわが国の学界や各分野で、その影響が色濃く残っているか、うかがい知ることができます。

少なくとも、数字を絶対視し『科学的』とする風潮、人間を「モノ」扱いして傲慢、残虐になったのはここから始まった、とも考えられます。

*『閃き』のヒント

「要領のいい人間」より、「本当に人の役に立つ人材」の育成をビジネスに。

15 幸せの原点を探る 山のあなたの空遠く幸住むと人の言ふ

(カール・ブッセ) 幸せの『青い鳥』(メーテルリンク)

この詩は、上田敏の名訳で日本ではすっかり有名になりました。

この詩はさらに「ああ、われひとと尋(と)めゆきて涙さしぐみかへりきぬ。山のあなたのなお遠く幸住むとひとのいふ」と続きます。訳は一

「ああ、私もみんなと一緒に歩いて涙ぐんで帰ってきた。山のかなたのさらに遠くに幸が住んでいると人が言う。」となります。

その意味を「幸せは山のかなたにあるのではなく、足元にある」とみる人もいますが、ブッセがどういう心境だったかは分かりません。「なお遠く幸住む」というあたり西欧人の飽くなき欲求、未練が感じられないでもありません。

一方、メーテルリンクの「青い鳥」という話を皆さんも子供の頃聞かれた記憶があるでしょう。これも西欧の話ですが、ここでは「幸せの青い鳥は、外に求めても求められず足元にあった」という主題がはっきりしています。

今回のキーワードでは実は、このことがいたかったのです。

今、いろいろ悩みや問題を抱えている人も多いと思います。

しかし、戦時中、命を脅かされた時代、戦後の貧しかった頃を知っている私たちから見れば、

「平和で、経済的に豊かになって何が不足があるのか。」ということも多いような気がします。

いや、今でも、イラクやパキスタン、アフガニスタンのように始終爆弾テロの危険に曝されている地域もあれば、内戦に明け暮れる地域、自然災害に叩き潰され、住む家も食べるものもない人々が、この地球上には何百万、何千万人と存在していることを思えば、一般に日本人は何と恵まれた環境の中で生活しているか、ということが分かるはず

です。日常生活の中で、不平、不満、悩みや苦しみ、迷いなどは付きもの。でも、そういう思いに悩まされたとき、以上のようなことに思いをめぐらせれば、

・ 足元にあるはずの幸福

を見失い、忘れていたことに気付くかもしれません。いや、きっと、気付くはず。そういえば、『生き方』『幸せ』について考えさせられる童話の秀作としておすすめは「ピノキオ」。

木の人形のピノキオは、いたずらなどこにでもいる腕白小僧です。「今日こそは、まじめに生きよう」「勉強しよう」

「正直になろう」と思いながら、いつも悪い友達の誘惑に負けてしまいます。

さんざんな目に遭いながら、ついに人間にしてみらうピノキオは、人間の「弱さ」「愚かさ」そして「善良さ」「たくましさ」をそのまま表現している見事な作品です。

これは、子供の読み物というよりも、むしろ、大人が読み直すとためになる作品だと私は考えています。

あなたが『山のあなたの空遠く幸住む』と信じて、幸せを求め続けるか、それとも、足元を見直して、足元にあったはずの幸せ、忘れかけていた幸せに気付くか—

まさに、あなたの心がけ次第だと思います。

日本の昔話にも素晴らしいものがあります。「浦島太郎」は、高齢社会で、面白おかしく生き、比較的恵まれた一生を長生きした人々の老後の哀歎を連想させるものがあり

ます。

助けた亀に連れられて、絵にも描けない美しい竜宮城で乙姫様の歓待を受け、タイやヒラメの舞い踊りにうつつをぬかしているうちに、ふと気がついて、家路を急ぐ浦島太郎。帰る途中の楽しみは土産にもらった玉手箱—とここまでは、いつか歌った童謡の歌詞の通りですが...

故郷に帰ってみると、元住んでいた家はなく、太郎を知っている人はみんなあの世へ行き、玉手箱をあけたら、たちまち白髪のおじいさん...なんとも、はかなく、淋しい結末。こうならないように、一日、一日をしっかりと生きなければなりませんね。

「一寸法師」「かぐや姫」などは一連の恋物語、昔の日本人のロマンが子供の話に生き生きと描かれています。見方によっては、源氏物語にも匹敵するラブロマン、それに人生の哀歓がにじみ出ているのです。

ラブロマンといえば、未だに映画のDVDを手軽に見ることができ、テーマミュージックがあちこちのBGMなどで流れてくる『風と共に去りぬ』。

主題は、南北戦争を境にアメリカ南部の奴隷制度に支えられた白人にとっての『古きよき時代』が風と共に去りぬ—ということなのですが、主人公のスカーレット・オハラは、夫で、子供まで授かったレット・バトラーへの『愛』に気付いたときには、既に彼は、彼女の許を去っていた、というのも、また、非常に印象的で、『愛』について、人生の生き方について考えさせられる象徴的なエピソードといってよいでしょう。

今回のキーワードからは、

- ・ 人間の幸せは、求めてもなかなか見つからないこと
- ・ 足元にある幸せに気付かないと、気付いたときには

手の届かないところへ「去って行ってしまう」こと

などを学び、この教訓を皆さんの日常生活に活かしていただければ幸いです。

そしてそのヒントは、古今の名作、特に『子供向けの作品』の中にあることが多いのです。お子さんやお孫さんと名作を紐解くことによって、幸せの「扉」を開くことになるかもしれませんね。

* 『閃き』のヒント

「競争」より「ユニークな発想」ナンバーワンからオンリーワンへ。

企画が種切れのときは、「原点」「足元」を見直せ。

16 文明崩壊の要因

- ①家庭の尊厳が軽視される
- ②重税と過大な福祉

③快樂を求める狂気。

④スポーツがエスカレートし-不道徳になる。

⑤巨大化する軍事費（個人の不道徳化には、無策）

⑥宗教の墮落（「ローマ帝国の崩壊と没落」（E・ギボン）

Edward Gibbon

エドワード・ギボン（1737-94）はイギリスの歴史家でオックスフォード大学に学びましたが、彼の父は、当時カトリックに傾斜していたオックスフォード大学の影響を恐れ、スイス、ローザンヌに住むプロテスタントの牧師であり個人教授も行っていたパヴィリアード (M. Pavilliard) のもとに預けました。

そのパヴィリアードの影響を強く受け、ギボンは主著「ローマ帝国の崩壊と没落」を執筆しました。

今回はローマ帝国の崩壊の要因を取り上げましたが、これを見た瞬間、私は、余りにも、現在の日本の社会現象に当てはまるが多すぎるような気がして、ギクリとしたのですが、皆さんはどう感じられたでしょうか。

①離婚や家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）などが横行し家庭が崩壊して親子が憎しみ合い、殺し合う。

②医療費の増大と増税の機運

③～⑥についても、それぞれ思い当たる点が多いように思われます。

①戦後、日本では、復興、高度成長の時代に、夫は、仕事に明け暮れ、家庭を顧みないで、妻任せという時代もありました。

いずれにしても、この頃、夫不在は当たり前でしたが、その後、核家族化に加えて、女性の職場進出が進み、共働きの家庭が多くなるにつれ、妻までが家を空ける時間が長くなり、いわゆる『鍵っ子』が出現しました。夫の単身赴任も珍しいことではなくなり、「亭主元気で留守がいい」などという流行語ができたこともありました。

考えてみれば、こんな状態で、家庭がまともに営めるはずはありません。家族間特に、夫婦の意志の疎通が少なくなり、離婚が増え、文字通り「家庭軽視」「家庭崩壊」が始まります。「地域社会」も崩壊し、地域社会の浄化作用も消滅します。子供は最大の犠牲者でした。

バブル経済が崩壊し、夢から覚めたように、夫も妻も家庭を大事にしようという機運も一部では見られるようになりましたが、「時、既に遅し」の感もあり、こうして、青少年の非行化が社会問題になり、大人の手には負えないような少年少女が巷に溢れるようになり始めました。携帯電話や出会い系サイトに誘発された少年少女を食い物にする犯罪が横行し、少年や20代の若者自身による凶悪犯罪が頻発し、少年法の改正も論議され

るようになったのも、親たちが家庭を捨て、軽視した『ツケ』が回ってきたと見て差し支えないかもしれません。

②日本が重税かどうか福祉が手厚いかどうかは論議の分かれるところですが、国民皆保険、皆年金が制度化するプロセスで、社会保険庁をめぐる諸問題や後期高齢者の保険問題が噴出したことは間違いないでしょう。

欧亜にまたがる一大帝国ローマが崩壊していく過程で、現在も遺跡として残る大浴場やコロッセオに象徴される遊技場が肥大化し、民衆は狂喜してそれを楽しんだといわれます。さらに、周辺属国への水道や道路の充実それを賄うために重税を課した、といわれます。

このようにはるか昔のローマ帝国のことを話しているつもりの話題はいつの間にかそのまま、現代日本の現状にも通じます。

道路特定財源、ガソリン税をめぐるて是か非か国会でやかましい議論が展開されたことは、記憶に新しい所ですが、立派な道路ができるたびに、ローマ帝国の教訓が胸によぎるのは筆者だけでしょうか。

③以下についても、皆さんそれぞれに、心に去来するものがあるでしょう。静かに考えてみてください。

ただ、『軍事費の増大』だけは、幸い戦後の日本には当てはまらないかもしれませんが、中国やロシア、インドなど経済的に急成長した国々やイラン、北朝鮮などについては非常に気がかりですね。

ところで、このように、日本や関連諸国についてコメントし考える場合国や文化、風習について論じ非難するだけでは、評論家になってしまいます。

最も大切なことは

- ・ 一私人としてどうするかです。

- 一例を挙げれば

「仕事が忙しくても家庭を大切に家族、特に子供たちとの対話、共に過ごす時間を大切にする」「贅沢になっていく衣・食・住や車を追い求めず、無駄遣いを慎しみ、自分なりに、つつましく生きること」を心がけることなどがあげられます。

また、マスコミを通じて時の権力者や有名人が美辞麗句を駆使して何かうまいことをいっても決して『酔うことなく冷静に聴くこと』も大切だと思います。

最近の選挙では、『口のうまい政治家の扇動』に有権者が付和雷する傾向が見られます。一時の勢いに『流される事』は要注意。また、社会的風潮がどう動いても、『流されること』なく、「自分の感性によって判断し、行動すること」です。

その場合、戒めになるのは、ここにあげたギボンの言葉を始め、古今の名言です。

なお、ローマよりも以前に創造性の一時代を築いたギリシャ文明がなぜ、「崩壊したか」については、さらに興味があり、示唆に富む金言があります。（後日改めて紹介します。）

*『閃き』のヒント

金言・名言を時折、紐解いて、自分の判断や行動の基準として活用することがビジネスチャンスを生む。

17 ①『文明の崩壊は、道徳的逸脱＝人間の内面的崩壊、意気消沈の結果である』

②『勝手気ままと性の乱れが家庭生活を脅かしている。

子供たちにとって心理的・道徳的土台たる 家庭生活を』（アーノルド・J・トインビー（**Arnold Joseph Toynbee**）

①文明の没落を研究するとその原因は、全ての場合において何かの形で自己決定の失敗であること。そうして人類が自らの運命に統制力を失うわけだが、この社会的・大災難（自己決定の失敗）は、たいてい道徳的逸脱の結果そのものにほかならないことを発見した。私は文明は必ず没落する運命にあるとか、文明には定まった周期があるとかいう説を信じない。また、文明はその環境に負かされて崩壊するのだ、という説も信じない。文明が崩壊するとき、その原因は外部からの打撃ではなく文明内部の精神的失敗、つまり、我々人間が屈服しなくてもいいような精神的意気消沈であり、我々が責任を負うべき意気消沈によるものだとしている。

大きな創造性の一時代を築いた後のギリシャ文明の崩壊は、今日ことさら、意味深いものである。BC4世紀に起こったギリシャ都市国家（ポリス）の瓦解と没落は、「思想上の混乱」に大いに関係がある。ギリシャの場合その混乱とはソフィスト（詭弁家）たちに起因するものであった。ソフィストとは知識人であり、伝統的な宗教観念をさげすみ、ギリシャ文化の中の古くから伝わる倫理上の原理を軽蔑した教師であり、弁士である。彼らは*道徳相対論者（何がよいか、悪いかは、相対的なものであり、絶対的な善悪は存在しないという考え方。（*この考え方は究極は『殺人』『強盗』『詐欺』『強姦』『戦争』などの重大犯罪さえも相対的なもので、『罪悪』『犯罪』『裏切り』も相対的なものという結論＝無秩序な社会を容認することになる。）ギリシャ文明崩壊前夜のソフィストたちは現代の評論家、教育者の一部に見られるように、『無制限の自由』を教えたのである。思想上の混乱は社会の不統一を招き、ついには人類史上の一大文明の雄であったギリシャ文明の滅亡を招いた。とトインビーは言っているのだ。

・ 20世紀を代表するイギリスの歴史学者アーノルド・ジョセフ・トインビーは

、『文明の崩壊』に関する著書で、以上のような分析と提言を試み、その視点から現代社会を洞察して、『勝手気ままと性の乱れが家庭生活を脅かしている。子供たちにとって心理的・道徳的土台たる家庭生活を』と警告を発している。いまから、半世紀も以前の1960年代以降数十年にかけて著作を発表し、全世界の識者へ大きな影響を与えた人。かれは、著作の中で、現代文明への警鐘を鳴らした。

②の『勝手気ままと性の乱れ』の具体的現象は、1970年代からアメリカを中心に現れ始め、新しい性的自由（フリーセックス）の波は、全米はもとよりヨーロッパ先進工業諸国から日本までを席卷したといわれる。

当時、アメリカでは著名な教育者、行動科学の学者そして聖職者までもが、実害？がなければ、不義、乱交を認めることを、テレビ、新聞、雑誌、講演等あらゆるメディアを通じて、表明していたといわれている。（当時はインターネットはまだ、この世に普及していなかったから、インターネットが世界中を駆け巡っている今日、この傾向は幾何級数的に増幅されていることは容易に想像できる。フリーセックスの『害』は、アメリカのインテリの『実害がなければ』というメッセージにもかかわらず、計り知れないものがあつた。

まず、私生児の増加で、託児所など福祉予算が急増することになるが、お金の問題はひとまずおくとして、孤独なシングルマザーとその子供を『不安と孤独の世界』へ追いやることになる。すなわち、出産前に周囲からも行政からも援助はほとんどなく、出産後も父親なしで子育てをするという2重の困難を抱えた母親には、救いようのない困難が待ち構えているのだ。アメリカの政府調査機関のサーベイでは結婚生活に入らず第一子を産んだ女性は家族からも見離されその後夫とも別れる率が正式に結婚した女性に比べてはるかに高いことが判明している。

ニューヨーク市の調査によれば、未婚の母に比べ、妊娠期間中の保護も十分受けられず、妊娠中のトラブルも多いそうである。未婚の母が未熟児を出産する率は高く、子供の死亡率も高いといわれている。

日本における未婚の母に関する調査データはないが、最近、産婦人科に来る救急外来の妊婦には、未婚の母で、母子手帳を持たない妊婦が多く、事前の検診を受けず、診療データが全くないために、治療に当たる医師が戸惑うこともしばしばだそう。病院側の体制にも問題があるとしても、非常に危険な状態が多くなる。性病やエイズなどフリーセックスの影響と見られる病気の問題も深刻化しているといわれている。

このように、フリーセックスと性に関する不義、不倫、不道德は『実害がない』どころか計り知れない、『社会的害悪』と当事者たちやその結果生まれてくる子供たちに「不幸」な結果をもたらしているのである。

18 何不自由ない人生は何の面白みも感動もない。

・ 人生の幸福は、どれだけ快樂を得たかではなく、どれだけ「感動」を得たかによって決まる。(V・フランクフル金言①)

19 「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」という諺の大うそ？

「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」という諺が、一般には、かなり、広く、何の疑問

もなく、信じられているようです。

しかし、よく考えてみると、こんなおかしなことをいってよいのでしょうか。もし、この言葉が、真実なら、ヘレンケラーやサリドマイド禍を克服して「五体不満足」というベストセラーを著し、多くの人を指導し勇気付けている乙武さんは、心が歪んでいることになりかねませんね。

この言葉は、明らかに間違いです。

皮肉にも、今、世の中には、逆のタイプの人々は大勢見かけられます。

すなわち、

- ・ 体は5体満足なのに、精神が歪んでしまっている人々
- ・ 殺人、放火、傷害、詐欺などの重大犯罪を犯す犯罪者は、概ね、体は丈夫なのに、心が歪んでいる『心の病』に犯された人々です。
- ・ 犯罪者でなくても、引きこもり、うつ、などで悩む人は、非常に多く、体は病んでいなくても心の病人です。
- ・ それに引き換え、体には傷害があっても、健常者にもできないような立派な生き方をしている人々も大勢います。

先にあげた、ヘレンケラーや乙武さんは、その代表格ですが、そんなに世間に知られていなくても『生まれつき体が不自由であったり、病気の後遺症などで半身不随になっても、リハビリに精を出し、心は健全で立派な生き方をしている人』も、少なくないはずです。

では、なぜ、こんな間違った解釈が起きてしまったのでしょうか。

本来、この言葉の出典はローマの詩人ユヴェナリスの「風刺詩」の第10歌にあり、原文の文脈は次のようなものです。

「諸君が...神々から何かを求めたいというなら、こう願うがよい。健全な身体に健全な心を宿らせくれと。死の恐怖にも平然たる剛毅な精神を与えよと。人生最期を自然の贈り物として受け取る心を...進んで選ぶ心を願え」世界名詩集大成＝日野原重明（聖路

加国際病院名誉院長) 著『いのちの器』より)。

特に、死の恐怖にもたじろがず平然としていられる剛毅の精神、死を自然の贈り物として受け取る心をもつことを願えという、実に『深い』意味があったのです。

これが、本来の意味だったのに翻訳者(不明)が、「健全な心は健全な体から」「体が健全でないと心も歪む」と誤訳をしたのが元で、とんでもない誤解が生じてしまったのです。

いわゆる、後期高齢者の医療と保険制度が大問題になりましたが、中高年になると、どこか、体の不都合が出てくるものですが、「心」まで、歪まないように気をつけたいもの。

逆に、若くて体は丈夫なのに心が「空虚」で歪んだ若者が目立つのも気がかりですね。このように、諺や金言、言い伝えなどというものの中には、誤訳や誤った解釈がなされて、それが、多くの人に「まことしやか」に、信じられ、喧伝されているものもあるので、注意が必要です。特に、翻訳モノは要注意、です。

それに、この言葉に関連して、一つだけ注意を要することがあるのも確かです。

すなわち、体に障害があっても、心は健常者よりも確りしている人は多いし、努力次第でだれにでも可能です。が、体に故障があると、一般に、弱気になったり、心も弱くなってくることも確かです。

すべてに対して消極的になり、人が信じられなくなり、孤立して、ひがんだ気持ちになる場合もあります。いわゆる『スランプ』ですね。

何かを判断する場合でも判断を誤ったり、人に騙されたりするのも、弱気になっているときです。

こういうことが、現実にはあるからこそ、

「健全な精神は健全な肉体に宿る」と早合点、誤った解釈をされてしまったのかもしれない。

さらに、「心が病んでくると、体も病む」という現象も広く見られます。

心身症がそれです。

本来、体には異常がなかったはずなのに、精神的なストレスや悩みごとがあると、体にも『異常』が表れ、ついにはホンモノの病人になってしまうのです。

私自身、若い頃勤め人をしていた時代に、職場の人間関係などで、胃腸障害を起していました。現在では、ビジネスマンやOLに広く見られる『過敏性大腸症候群』でした。私自身当時は、生まれつき胃腸が弱いと信じていました。しかし、そういうストレス状態がなくなると、けろっとして、食欲旺盛、別人のように、人並み以上に胃腸は

丈夫であることに気付きました。

胃腸に限らず、円形脱毛症や皮膚の異常という形で、からだに異常が現れることもありますし、知人の会社の幹部職員は『心臓神経症』で、本ものの心臓病のように、苦しんでいる人もいました。

ですから、現代においては、『健全なる肉体は健全な心から』と言い換えてもよいくらいです。

本当にこの言葉の真髓は、『健全な心を持ってほしい』というところにあると思います。

この言葉は、21世紀の現代そして、ますますストレスがエスカレートする近未来の精神社会に、

・ 心を健全に保つことによって、肉体も（心身症などにならず）健全な状態であって欲しい

という、古代ローマからのメッセージとして、ストレス状態にある多くの人々、末期を迎える高齢者や重病人にも真摯に受け止めて欲しいと思います。

* 『閃き』のヒント

20 この地上には二つの人種しかいない。品位ある人種とそうでない人種である。第2次大戦中、ナチスドイツにおけるユダヤ人の虐殺、強制収容所への収容、虐待、拷問、大量虐殺はV・フランクルの『夜と霧』やアンネ・フランク「アンネの日記」などでも、よく知られています。

900万部以上のベストセラーになり、世界18カ国語に翻訳された『夜と霧』の9『深き淵より』で、フランクルは次のように述べています。（大意要約）

「（前略）われわれは、一つのことを悟るのである。すなわち、ある人間が収容所の看視兵に属していたからといって、また、反対に囚人だからといって、その人間がどういう人かは云々できないということである。人間の善意を人はあらゆる人間において発見しうるのである。したがって、人間の善意は全部から見れば罪の重いグループにも見出せた。その境界は入り混じっているのであり、したがって一方が天使で他方は悪魔であると説明することはできない。それどころか看視兵として囚人に対して人間的であろうとして何らかの人格的道徳的な行為もあったのであり、他方では、彼自身の苦しみの仲間にも不正を働くある囚人の忌まわしい悪意もあったのである。かような悪い性格の人間は収容所の他の囚人を甚だ苦しめたことは明らかである。他方看視兵が示したごく僅かな人間性に対して、囚人が深い感動をもって応えることもあったのである。たとえば、

私はある日一人の労働監督がそっとパンの小片を私にくれたことを思い出すのである。...私は彼がそのパンを彼の朝食の配給から節約してとっておいてくれたことを知っていた。...そして私を当時文字通り涙が出るほど感動させたのは物質的なものとしてのこの一片のパンではなく、彼が私に与えた人間的なあるものであり、それに伴う人間的な言葉、人間的なまなざしであったことを思い出すのである。

これらすべてのことから、われわれはこの地上には二つの人間の種族だけが存するのを学ぶのである。すなわち、品位ある善意の人間とそうでない人間との『種族』である。二つの『種族』は一般的に広がって、あらゆるグループの中に入り込み潜んでいるのである。もっぱら善意の人、あるいはもっぱら悪意の人だけからなるグループと言うのは存しないのである。その意味でどのグループも「純血」ではない。...だから看視兵のなかには若干の善意の人間もいたのである。

強制収容所の生活は疑いもなく人間の奥底に一つの深淵をひらかしめたのであった。この深みにおいてもなお人間的なものを、すなわちあるがままの人間的なもの、善と悪との合金としての人間的なものを見ることができたのは少しも不思議ではない。あらゆる人間存在を通じ善と悪とを分かち亀裂は人間のもっとも深いところまで達し、収容所が示すこの深淵のなかにも見ることができたのである。

強制収容所の所長にも、囚人をかばい、暴力を振るわず、病人には、薬を提供した人もいた。逆に、ユダヤ人でも、ユダヤ人の弾圧・虐待に、ナチスに手を貸し人もいた。一というのです。つまり、その人の属しているグループ（国、組織、部署）に関わらず、『人間的』なもの＝（品位のある言動）を示す人もいれば、そうでない人もいるということです。

これで思い出されるのは、第2次大戦中多くのユダヤ人の命を救った外交官杉原千畝さん。

聖将といわれ、占領下の住民からも慕われた、といわれる陸軍大将第8方面（インドネシア）司令官今村均さんなどです。これらの人々は「品位ある選択」をしたことが、多くの関係者の証言、文献で知ることができます。

映画「戦場のピアニスト」では廃墟の中に隠れていたユダヤ人のピアニストが、ドイツ軍の将校に発見され、死を覚悟でピアノを演奏し、ドイツ軍将校は、ピアニストの命を救い、自らは、敗戦後収容所に収容された一というエピソードが感動的に描かれています。

「戦争」と言う極限状態＝悲劇の中では東洋も西洋もない。肌の色も関係ない。どこの国の人であっても『いかに自分らしさ』『人間的に生きるか』＝
・品位ある行動を取ることができると問われます。

私たちは、一般に、そんな極限の選択を迫られているわけではありませんが、平和な時代に、『人生は空しい』とか『平凡で意味がない』などと嘆く前に、時に立ち止まって「自分は『品位ある行動』をとっているか」と反省することは、人生を有意義に、悔いなく過ごすために、心がけるべきことではないでしょうか。これは、他人事ではなく、私自身に対する厳しい問いかけでもあると思っています。

*フランクルの原文は、そのまま引用すると難解な部分もあるので、読者の理解を容易にするため、若干筆者の解釈を加え、この連載の文体にあわせるため、引用文に表現上の加工をした部分があります。)

*『閃き』のヒント

ビジネスの交渉も「人を見て法を説く」要領で

・ 『夜と霧』（V・フランクル・霜山徳二訳）

いざというときの「心の支え」―「古今東西の名言集」 解説とコメント

1 この世の最大の不幸は貧しさや病ではありません。誰からも自分は必要とされていないと感じることです（マザーテレサ）

ストレスの多い現代社会、ストレスに負けそうになって、逃げ出したいくなります。そこで、ストレスに対応し、克服するために何らかの『癒し』がブームとなるのです。それらはある程度は有効で、効果もあるでしょう。しかし、ストレスから逃げていたのではいつまでも、問題の根本的な解決にはなりません。根本的には

- ・ 自分は人の役に立つことをやっているという実感、
- ・ 私は、人に必要とされているという意識が持てるように心がけることです。

逆に、そういう意識がもてない人は、

・ いてもいなくてもいい存在という気分になりがちで、ふさいだ気持ちをますます増幅させます。

それは定年退職後のビジネスマンや子育てが一段落して、これといった仕事を持たない主婦にも多く見られる現象です。これらの人々にとっては、家事でも、ボランティア活動でも地域活動でも『何か』役割を担うことが有効です。

最近、小中学生にまで、こういう「悲しい精神状態」の人が広がっていることは、由々しき問題です。親や家族から放置され孤立して（自分なんかこの世に生まれてこないほうがよかったんだ）と「思いつめての自殺」が常に報道されています。あるいは、「むしゃくしゃして放火した。放火すれば、人がこちらを向いてくれる」という人もいます。

いずれの場合も『孤独』が事態を一層深刻化させ、本人を追い詰めます。

マザーテレサの言葉にあるように、人間にとって最も不幸な状態は「自分が必要とされていないと認識した時」なのです。

* 『閃き』のヒント

日ごろから

・ 自分を待っていてくれる人、必要とされている人がいるという実感が持てるように心がけることが、毎日を充実して過ごすための秘訣なのです。

では、具体的にはどうするか、やはり、人のためになること、役に立つことに目を向け、自分の役割を認識して誠実に遂行することが第一、です。

そうしていれば、だれかが、必ず関心をもち、好意を示してくれるはず。そして、出来れば、人に喜んでもらえる『得意技』を早く身につけることでしょう。

例＝「孤独な人」に目を向けるとー「独居老人」の「孤独死」の不安＝サインを送るSOSシステムーボランティア団体に働きかけ、「コミュニティづくり」をする。

2 分厚な哲学書よりも、いろいろな人物の「語録」によってこそ、人間あるいは一生の意味を学ぶ所が多かった（小島直記著『一燈を提げた男たち』より）

博学で知られる小島直紀さん。ドイツ、フランス、イギリスなど近代欧米の哲学書はもとより、ギリシャ、古代中国などあらゆる哲学書に精通していることは参考書に引用された学者、哲人の名前を見ても明らかです。その小島さんが、ガンを患い、生死の境をさまよった大手術を受けた折に、「心の支え」

となったのは、いろいろな人物の「語録」だった、と述懐しており、これはまさに、「危機に瀕した人間の」偽らざる実感のこもった話でした。

また、人生に行き詰まり、迷った時に「哲学」はかえって、「死」に導く危険もある、と同氏は言っています。実際、近年年間3万人を超える自殺者が出るのは、多くの人が高等教育を受け、「いろいろ考えすぎる」傾向が拍車を掛けていると、という見方をする人もいます。

「哲学」の学び方を誤るとー

著者は同書の中で、

「人生の価値はその長さになるのではなく『使い方』にある。（中略）十分に生きたかどうかは、『生き方』、本人の意志にかかっている。生きた年数には関係ない」というミシェル・ド・モンテーニュの言葉を紹介しています（一部筆者抄訳）。

モンテーニュは16世紀フランスのエッセイスト。彼の影響を受けたパスカルの言葉

、「人間は自然の中で最も弱い葦に過ぎない。しかし、考える葦である」

はつとに有名ですが、著者は「2度にわたるガンの手術のとき私を励ましてくれた」言葉として、モンテーニュとパスカルの言葉を挙げて述懐しています。

が、他方ではモンテーニュの「哲学をきわめるとは、死ぬことを学ぶこと」という言葉も紹介しています。この言葉は自殺者年間3万人という現代の日本人に重く響くような気がします。

別に、現代の日本人が、今回のキーワードのように「分厚な哲学書」を勉強しすぎて自殺者が増えたわけではないでしょうが、拡大解釈して「勉強の仕方を誤ると、死に急ぐ」と取れないこともなく、その昔、哲学をもってしても人生の真相は「不可解」との言葉を遺して華嚴の滝に飛び込み自殺をした一高生（旧制、今の東大）藤村操の話の思い

出してしまいました。

*小島直記 (1919年～2008年) 東京大学経済学部卒。海軍主計大尉で終戦。1966(昭和41)年ブリジストンを退社し、ペン一本となる。『まかり通る』などの伝記小説や『出世を急がぬ男たち』などの『男たち』シリーズが評判を呼ぶ。(『一燈を提げた男たち』著者紹介より)

3 「逆境の時、その人(組織)の真価が現れる」(国司義彦)

日頃調子のいいお世辞を言って近付いてきても、人が逆境、落ち目になると見向きもしないような人は「冷たい人」です。

- ・ 見かけや「甘い言葉」で人やビジネスを判断してはならない、ということです。
- ・ 大震災をはじめ、世の中や人々が「逆境」にある時、人や組織の「真価」が問われる、と考えましょう。普段は、親切そうな言葉やいかにも、頼りになりそうなことを言っているながら、社会、職場、地域などがピンチに陥った時に、真っ先に逃げてしまうような責任者、政府、軍部ではどうしようもないのです。戦争中に勇ましいことを言っていた軍部が戦争の敗戦の色濃くなってから、国民を放っておいて真っ先に逃げ出したといわれる。悪名高い関東軍はその典型でした。
- ・ 大震災前には、「コンクリートから人へ」と言っていた政治家の幹部の中で、国や地域が危機に立たされた時は、だんまりを決め込んで、必死に復興に当たっている人たちを引きずり降ろそうとする—こういう時こそ、政治家の真価が現れました。そんな奴には2度と投票しないことです。

・ *参考書「人を見抜く107のヒント」(国司義彦著 こう書房)

災害に遭って途方に暮れているとき、優しい言葉や温かい思いやりそして、心づくしのもてなしや介護、支援は身にしみる。大震災のようなときに、どういう言動をするか、よく見ていると、その人の「真価」がわかる。政治家なども日頃偉そうなことを言っている、みんなが困っているときは「ダンマリ」を決め込んでいる人は、誠意など微塵もない人です。

この言葉の反対の意味が「巧言令色鮮仁」(26項)という論語の言葉もあります。

4 学而時習、不亦説乎。

有朋自遠方來、不亦樂乎。

人不知而不愠、不亦君子乎。

学びて時にこれを習う、また説(よろこ)ばしからずや。朋あり遠方より来る

、また楽しからずや、人知らずして恨(愠)みず、また、君子ならずや『学ぶこと』について、孔子は次のように論語の中で述べています。

論語現代語訳

「学ぶこと、そして時々“おさらい”することは楽しいことだ。次第に同志ができ、集まってくる。こんな楽しいことはない。人に認められなくても、そんなことは気にかけず勉強を続ける。これが本当の「君子」（立派な人）だ。」

日本語では学ぶを『勉強』と置き換えました。強いられて学ぶことは、本来の意義は生かされません。

いずれにしても「学ぶことは楽しい」ということ、「人生いくつになっても学べる」ということを思い出してください。特に高齢社会を迎えて

・楽しく「学ぶ」ことは、「生きがい」の発見にもつながります。60歳を過ぎてから中学や高校、大学、大学院へ行く人も多いのです。

*『閃き』のヒント

職業訓練コースで、どのコースが、本当に役に立つか。情報集はヒットする

①学而不思則罔 ②思而不学則殆（論語＝孔子）

①は「いくら勉強しても、そのことを考え活用しなければ、不明である。役に立たない」という意味です。

いわゆる偏差値の高い高学歴の官僚や国会議員、ビジネスリーダーたちの中には、勉強が日常の仕事や生活上、少しも役に立っていないと思われることが多いようです。たとえば、あのホリエモンや村上ファンドの元社長は最高の学歴を誇り金儲けもうまく、若くして社会で頭角を現しました。でも、人間として「やっていいこと」「やってはいけないこと」つまり善・悪の判断が出来ず、結局は、社会を混乱させる結果を招きました。また、「ホリエモンから届いたメール」が偽ものであるとも見抜けずに議員を辞職せざるを得なくなった衆議院議員もいましたね。彼も、東大卒大蔵省（現財務省）のエリート官僚から政治家になった人。そのほか国の政策を決めたり、大事な問題を解決すべき国家公務員のいわゆるキャリア組の中にも、実社会ではほとんど役に立たないか、汚職をやって私服を肥やし、天下り先ばかりを心配している人もいます。

②は、実社会では役に立つ技術を身につけていても、経験だけしかなく、基礎的な勉強の出来ていない人は、いろいろな問題に対応が出来ずに身を誤ることも多いのです。

職人や中小企業の社員にはこういうタイプも目立ちます。

特に最近パソコンや携帯電話が得意な若者も多いのですが

そういう人たちは、すぐに自分が『名人』になったつもりで、威張っているような人は

、基礎的な勉強ができていないために、ソフトやハードの技術革新が行われた場合それについていけず、脱落してしまうことも多いのです。

また、視野が狭く、政府や会社の上層部がまちがった判断を下しても、そのことを見抜くことが出来ず、『知らず知らず悪の手先になっている』ことも気づかず、気がついたときには騙されて『濡れ衣』を着せられることもあります。

太平洋戦争に駆り出され、『お国のために』と信じて戦った人の中には、知らず知らず他国の人を傷つけたり命を奪い、自分も尊い命を落としあるいは戦後戦争犯罪人として処刑された人も大勢いました。

戦後の高度成長時代に、『会社のため』と必死に働いたけれど気がついたらエコノミック・アニマルと批判された会社人間も②のタイプの人です。悔いのない人生を送るには、勉強をしてそれを正しく使いこなす『知恵』が必要です。

*『閃き』のヒント

偏差値をあげて、有名校へ進学するよりも、一生身に付く職業教育、文化向上に役立つ教育

情報PI（パーソナル・アイデンティティ）確立の勉強法、

名人芸、職人芸ガイド

5 我、十有五にして学に志す。

三十にして立つ。四十にして惑わず。

五十にして天命を知る。

六十にして耳したが順う。

七十にして心の欲するところに従えどりのり矩をこ踰えず。

（論語）

孔子は10代で学問を志し、30代で一人前になり、40代で惑うことなく、50代で天命を知ったそうです。そして、60代になると人の言うことが素直に耳に入るようになり、70代になると、自分の欲望のままに行動しても、羽目はずすことはなくなった、というのですが...

40代以上の皆さんは、

「天命を知る」「耳したがう」「矩をこえず」

の年代ですが、凡人はなかなか孔子のようなわけにはいきませんよね。それに、今の高齢社会には80代、90代に何をしたらよいかも必要になってきました。皆さんで考えてみてください。

私には

「20代だから出来ること、すべきこと」「30代だから出来ること、すべきこと」「40代だから出来ること、すべきこと」「50代だから出来ること、すべきこと」
(以上、日本能率協会マネジメントセンター)

のほか

「20代の生き方を本気で考える本」以下
各世代別の
「50代の生き方を本気で考える本」
(PHP文庫)があります。

これらの中で、私は「20代は、基礎的な勉強—人生の基礎工事をしなさい」30代では「PIパーソナルアイデンティティの確立」40代では「これまでの見直しと能力再開発、進路指針の確立」50代では「第2の人生への助走」といっています。

どれも、大きく違ってはいないと思いますが、あくまで一般論なので、もちろんそれぞれの方が、自分の個性と能力、置かれた環境に合わせて考えてください。

*『閃き』のヒント

人間いくつになっても「やり直せる」。

ビジネスも「何歳だからもう遅い」ということはない。7転び8起気 of 精神で、ただし、「過去の失敗は生かせ」

6 小人閑居為不善 小人閑居して不善をなす

つまらない人は暇にしておくのと、ろくなことは考えない。という意味です。祝祭日がふえて、日本人もよく遊ぶようになりました。それは悪いことではないのですが、経済的に余裕が出来ると、怠けることばかり考えて朝からパチンコや、競馬場へ通う。つまり、ギャンブルにのめりこんで、高利の金融業者やクレジットカードで借金地獄に陥り、返済不能、家庭崩壊になってしまった人も少なくないのです。

パチンコというと、家族で出かけていくのは悪くないとしても、赤ちゃんを車において、死なせてしまうという悲劇も起きています。『不善をなす』では済まされないこと。動物が命がけで子育てする姿を見たら、人間として恥ずかしいことだと思います。

それ以上にひどいのは、子供の『虐待』。これはまさに、『鬼』ですね。

損をするのです。

*『閃き』のヒント

ごまかしのビジネスより、正直、本物のビジネスを心がけよう。「事前の仕込」をきつ

ちりやろう。

*「下手な考え休むに似たり」おかしな考えにとり憑かれたら、体を動かして振り払え

7 小人之過也必文 小人の過ちは必ずかざる

「つまらない人は、過ちを犯すと言いつけをする」という意味です。

ここでいう『小人』とは、地位の低い人、経済的に貧しい人という意味ではありません。そういう、社会的な地位や学歴、収入などとは無関係です。

むしろ近年、ステイタスが高く、大きな社会的責任を担っているはずの国会議員や社長などが不祥事や失敗が起きた場合、まず、それを隠蔽しようとし、ますます傷口を大きくした挙句いよいよ収拾がつかなくなると、『私は知らない』『記憶がない』といって言い逃れをしようとする傾向があります。

ですから、孔子のいう『小人』とは、人前では威張っていても『器』の小さい人間と解釈したほうがよいと思われます。

これらの言葉は、キーワード2とも関係があり、たとえ勉強して学業成績がよく、大企業や中央官庁に就職し、やがて出世して要人になっても、人間として大切なことが分かっていない人は『小人』ということになります。

総理大臣でも大会社のオーナーでも例外ではありません。

昔初代アメリカ大統領ワシントンのエピソードにこんなのがありました。彼が少年時代に自宅の庭の大事な桜の木を切ってしまった。父親は大変悲しみ、怒った。でも、叱られることを承知で、ワシントンは正直に「自分が切りました」と申し出た。すると父親は『正直は大切』といってむしろ褒めてくれたという話です。

ウソがまかり通る世の中、正直者が馬鹿を見るような錯覚を起こしますが、人間には誰にも「良心」があります。良心に逆らい無責任な行動をすると結局は良心の呵責に苦しみ、

8 未得之也、患得之

未だこれを得ざるときは、これを得ることを患う。

人は金、地位、名声などがないと、金や地位や名声を求めてあれこれ思い煩う。

(論語) 人間は地位、金などないときは「欲しい」と思っているいろいろな心を悩ませます。高度成長時代の日本は、欧米に追いつけ追い越せと国中に経済優先、環境汚染。その結果、国土は乱開発され、水は汚れ、水俣病、イタイイタイ病そして今、ようやく明らかにされようとしているアスベストの被害。こうしたいわば公害病が発生しました。

また、金が集まる権力機構、汚職、贈収賄。いずれにしても金権体質、拝金主義に傾倒していきました。その傾向は、バブルが崩壊したいまも、マネーゲームの横行としてますますエスカレートしていくようにも思われます。

そして、韓国、台湾、中国、タイ、インドと、かつての「途上国」がその後を追っているようにも見えます。

一方、財政破綻、デフレ、リストラ、大量失業。

こうなってくると『やはり、お金』が頼り？悪代官（官僚、代議士＝政治利権屋）と悪徳商人の癒着。水戸黄門も顔負け。詐欺まがいの利殖、高利貸しが跋扈(ばっこ)し、ATM強盗から保険金殺人まで。

とどまるどころを知りません。こんなあさましい世の中をこれから、あなたはどう生きて行きますか？

カネや地位がないから、カネや地位を求める。

カネや地位があったら、何でも自分の思うことがかなう。

「こんな世の中だから、世間並みにちょっとぐらい悪いことをしてもいいのではないかな」

と考えるか、それとも

「こんな世の中だからこそ、自分はせめて、まともに暮らし、悔いのない生き方をしよう」

と考えるか。

あなたはどちらの考え方をとりますか。

答えは、おのずから、明らかだと思いますが。

得之患失之 これを得ればこれを失うことを煩う。 - 何かを得れば、それを失うまいとしがみつく。

地位や名誉を得たものはそれを失うまいとして後進の成長を邪魔し、老害を振りまく。公社、公団ほか特殊法人への天下り、法外な退職金の二重取り、三重取りそして...

考えてみれば、人間は生まれたときは一人で裸で生まれてきます。同じように、死んでいくときも

「一人で裸」です。

古くは、平清盛がわが娘徳子（賢礼門院徳子）を高倉天皇に嫁がせ、安徳天皇の母となり、位人臣を極めながら、源氏の反抗に滅ぼされ、徳子は「この世の極楽」から「この世の地獄」をみた、と言われます。（祇園精舎参照）

また、下克上の戦国の世に、成り上がり、太閤秀吉が天下人になって、死んで行きとき、徳川家康、前田利家、石田三成ら、いわゆる5大老、5奉行を枕頭に呼び

「くれぐれも、秀頼を頼む」

と遺言して死んでゆくシーンは、ドラマや映画で有名です。現実がそうだったかどうかは、定かではありませんが、恐らくドラマや映画に近い状態だったに違いありません。

いずれにしても、太閤といえども、あの世へ何ももっていきませんでした。

結果として

「露と落ち露と消えゆくわが命、なにわのことは夢のまた夢」

という辞世の歌。

現代においても、既得権を得たものは、何とかそれを守ろうとして、外貨預金や相続税の優遇措置など『あの手、この手』を考えます。

「増税、保険・年金制度の改悪」年金の支給開始年齢の引き上げ、福祉関係予算の切り捨てなどメチャクチャな金持ち優遇策、他方で消費税や所得税の大幅増税など低所得者、一般国民の生活を混乱、破滅に陥れます。

しかし、どんなにあの手この手で既得権益を守って、子孫に財産を残そうとしても「お墓の中まで」持っていくことは出来ません。その挙句、残した遺産が災いの種になって骨肉の醜い争いになったのでは、死んでも死に切れないことになりそうです。

* 『閃き』のヒント

既得権にしがみつくとビジネスはジリ貧、新天地を求め、新境地を開くニュービジネスは夢が広がる。

（論語）

* 欲しかったものを「失うまい」としがみつくと、かえって辛く切ないことだ

9 ①持而盈之、不如其己。瑞而鋭之、不可長保。持して盈（みた）すは、そのやむに如かず。瑞（おさ）めてこれを鋭くすれば、長く保つべからず。

②絶巧棄利、盜賊無有。功を絶ち、利を捨てれば、盜賊あることなし

（老子）

① をもったまま水を満杯にして苦労するよりほどほどにとどめておくのが良い。

② 物を研いで鋭利にすれば刃がこぼれて長く保つことはできない。

③ 欲張りのサルが壺の金貨を欲張って取り出そうとするが口が狭くて、取り出せない。
『過ぎたるは及ばざるが如し』

あまり欲張るとかえって長持ちしない、ということ。功名心や欲を捨てれば、盗賊に狙われることもない。

美容整形で金持ちになった美容整形の医師が、高級マンションに住み、娘に高級外車を与え、そのゴージャスな生活ぶりをテレビで取材させた。これが強盗の目に留まり、娘は誘拐監禁され、身代金を要求されるという事件が現実には起きた。幸い娘は無事に保護されたが、この話は、老子の警告が現実になったもの。美容整形で成功しても派手に紹介しなければ強盗を働こうという気にもならなかつたろう。

自分の派手な生活をテレビなどで喧伝したことは、知らず知らず、盗人を挑発したことになる。

「金儲けは悪いことですか」という村上ファンドの元社長の開き直りの質問にも老子は答えを出していることになる。

『閃き』のヒント

欲張りもほどいほどにしないと、儲けた利益を失い、借金だけが残る。

是以聖人、後其身而身先、外其身而身存。非以其無私耶、故能成其私。

ここをもって聖人は、其の身を後にして身先立ち、其の身を外にして身存す。其の私無きを以ってに非ずや。ゆえによく、其の身をなす

10 ①少則得 少なればすなわち得 ②多則惑

①は、所有物の少ない人はかえってものを得る楽しみがある。あまり多くのものを持っていると新しいものを得ても喜びを感じない。

②は品物をたくさん持つとかえって迷いが生じる。知識も多いとかえって迷うことが多い。

今回は中国古典の代表的な思想家で中国思想界の代表格、道教の開祖、老子の言葉を選びました。今までに取り上げた儒教の孔子と比較される思想です。儒教が学問、仁、義、礼、智など人の道を説こうとするのに対して、「無為自然」を旨とする考え方です。「何もしないがいい」と言われると、抵抗を感じる人も多いでしょうが、飽

食日本、金や権力を欲しがらる政治家、偏差値の高い人たちがよってたかっても赤字財政の建て直しができないところなどを見れば、老子の言葉は「耳が痛い」ところがありますね。

バブル経済が崩壊し、かつて巨万の富を築いた、巨大企業の代表格、ダイエーや西武が、オーナーの身内の後継者に、経営や私有財産を譲って守ろうとして、どういうことが起こったか。

②「多ければすなわち惑う」という言葉通りになって、最終的には、多くのものを失い、経営権も私有財産の多くの部分も他人に譲り渡す結果になったのではありませんか。巨万の富や、使い切れない私財をどう使ったらよいか「惑い」かえって、経営を危うい方向に導いてしまった結果にほかなりません。

私企業だけでなく、日本の政府や金融機関が、かつては無担保で巨額な資金を貸し付けバブル景気を演出し、多額の不良債権を抱える結果となりました。

バブルが崩壊すると不良債権を抱えて、経営危機を迎え、て右往左往し（惑い）大銀行は合併に逃れると共に、政府に泣きついて、預金者の金利をゼロに近い状態にしてもらい、一方では経営の健全化と称して「貸し渋り」をして預金者を苦しめ、他方では、町の金融業者に高金利で貸し付け不当な利益を確保する—こういうばかげたことをして、ようやく存続したことはだれでも知っています。

こんなことをして手厚く保護されれば、利益が出るのは当たり前ですね。でも、彼らのやったことは老子のいう

・ 多則惑そのもの

ですね。日本ばかりでなく、アメリカを始め先進諸国のお金持ちの中には「多則惑」が多く、「少則得」で満足していた途上国の人々まで、不幸に巻き込んでいるのかも知れません。

* 『閃き』のヒント

これからは「欲張らず、ほどほどで満足し、中身を充実させるビジネス」が繁栄する。

天長地久。天地所以能長且久者、以其不自生。 (老子)

11 年々歳々花相似 歳々年々人不同 代悲白頭翁（白頭を悲しむ翁に代わる）

劉 廷 芝 年々歳々花相似たり 歳々年々人同じからず

日本では3月『期末』『卒業』『就職』『転勤』一人生の節目、「別れ」もあり、色々考えさせられる時期でもあります。

「楽しく学ぶ」ことについてお話しましたが、、「学び方次第で楽しくなる」という実

例です。

漢文が苦手、という方でも、ここにあげた漢詩の一節はどこかで、一度は聞いたことがあるはずです。

中国唐時代には、李白、杜甫、白楽天（白居易）をはじめ、多くの詩人が輩出し、わが国の文学作品にも、大きな影響を及ぼしています。*

この詩は、長文の詩で

作者は劉 廷 芝

作品名は「代 悲 白 頭 翁（白頭を悲しむ翁に代わる）」という作品です。

私は、ここ、二〇年オーストラリアと日本を行き来して、いろいろな人と知り合いになりました。が、転居、転勤、病気、死去、人によっては、消息不明になるなど、オーストラリアが移民国家であるだけに、一層、激しい移り変わりを感じ、思わずこの一節を思い出しました。

*「閃き」のヒント

MIXIなどSNSを使って、遠方の友人と交信するノウハウ。

旅、ロングステイ、「花鳥風月を楽しむ旅情報」

*人生ははかない。しかし、花は、今年も美しく咲き、鳥は楽しくさえずる。人は死んでもゆかりの人の心で生き続ける。

1 2 現代の究極の病理は「価値の喪失」（A H マズロー）

人間性心理学の開祖心理学者のマズロー博士は今から40年以上も前に「価値ある目標の喪失が人類の危機である。このような状態に対して人間は何かできることがあるはずだ」と訴えました。価値ある目標の喪失をどうすればよいか、「何か出来ることがあるはずだ」11月号に続いて、その具体策のヒントが今回のキーワードです。日本の社会では、一部の責任ある地位の人々が、おいしいところばかりを追いかけてバブル経済を仕掛け、悪い手本を示し、市民の勤労意欲をなくさせました。そしてバブル経済が崩壊すると今度は、責任を回避し既得の権益にしがみつこうとしています。さらには、マネーゲームの横行。

額に汗して働くことが敬遠され、電話やコンピューターで、数字上のマネーを動かして、瞬時に巨万の富を築く人。こんなことでよいのでしょうか。

しかし、インターネットで世界中が結ばれ、日本だけではどうしようもない世の中になりました。

外国の〇〇マネーが、株式投資や企業買収いわゆるファンドという形で、隙あらば儲け

ようと狙っています。

こういう世の中になってくると、「自分だけが清廉潔白に生きよう」と覚悟してもどうにもならないように見えます。

「お金を儲けちゃいけないんですか」村上ファンドの元社長は、そういつて開き直りました。その答えはズバリ言えば次の通りです。

金儲けそのものは悪いことではありません。しかし、金儲けに限らず、何事も「手段を選ばず」というわけには行きません。

村上氏の場合はインサイダー取引が違法の疑いがあるということで逮捕されたわけですから。

今、公的な立場を利用して、絶大な影響力をもつ立場にある人が、蓄財に走る場合もしばしば見られます。（某県知事、日銀総裁、公安調査庁長官などの疑惑、社会保険庁関連の体育施設や研修施設への過剰投資）

お金や権力は、万民（あまねく多くの人々）のために活かしてこそ、価値があるのです。

特に、公的立場の人、影響力の強い人々は、このことを肝に銘じなければなりません。法的責任以外に、道義的な責任があるからです。それを「金儲けは悪いことか」と開き直るのは、明らかに「判断」のどこかが「大きく狂っていた」といわざるを得ません。ここで、すべての「拝金主義者」に次のように問い掛けたい。

そうやってお金を儲けて「何に使うつもりですか？」と。

人には本来「良心」が備わっているはずだとすれば、無責任で自己中心、せつな的な金儲けは、かならずどこかで行き詰まり、破綻します。無理をすれば、本人のストレスも大きく、悪い連中のターゲットにもなることは目に見えています。ということは「犯罪を誘発している」ともいえるのです。

先ごろ発生した美容整形外科院長の娘の誘拐事件についてはこの連載で既に取り上げました。

アメリカ、日本、ヨーロッパ先進各国そして経済成長著しい中国、脱社会主義傾向が目立つロシアなどで、新しい富裕層が生まれて生活がますます豪華になる一方で、貧困が原因と見られる、犯罪や

テロ事件が、あちこちで頻発しています。

もとより、国際社会の表舞台では、裕福な国が貧しい国に援助する国際連合のユニセフ、ODAや多くの援助金があり、日本も多額の援助金を支出しています。が、他方、裏舞台＝闇の世界では裕福な国から貧しい国に、兵器が提供され、代理戦争を誘発し、資源や利権を争う—という悲しく忌まわしい構図が存在していることは何となくみんなに

伝わっていることだと思います。

国、行政機関、会社、個人いずれの場合も、カネを儲けても、それを社会に還元しないと、破綻は免れないのです。中国古典の哲人たち（老子、孔子）も言っています。〇〇マネーが世界中を飛び回る21世紀、私たちは原点に帰って、額に汗して働く価値、大切なもののために働く意味を考え直すことが必要です。

又、今、天下り公務員の公費の無駄遣い、そしてその無駄遣いに対してだれも責任を取らないという現象。

さらには、悲劇のたびの『反省』『撲滅運動』にもかかわらず、飲酒運転などの悲劇はやまず『責任感』『使命感』が忘れ去られた感があります。

責任感のある人間は、馬鹿正直で損をする一とさえ考える人も少なくないようです。

しかし、そうではないのです。無責任な行動からは、悔恨と物足りなさのみが残り、成長の実感、精神的な充実感、『何かをやり遂げた』という達成感ももたらされません。反対に、責任ある行動は、『達成感』や『爽快感』を伴うもので一番得をするのは、責任ある行動をとった本人であることを知るべきです。

今こそひとりでも多くの人が、働く価値に目覚め、責任ある行動をとることを心がけるべきだと思います。なお、ここでいう「働く」とは必ずしも（お金を稼ぐ）ことではなく、ボランティア活動でもNPO活動でもよいのです。それが結局本人や家族のためにもなるのですから。

＊『閃き』のヒント

「自分が何をしているか」を徹底させることが、責任感と使命感を植え付け、『モチベーション』を向上させる。

13 人を働かせずにおくことはどんなに仕組まれた拷問よりも残酷なことである。

私の知っている幸せ

な人は、家族など「大切なもの」ために一生懸命働く人である。

責任ある行動は報われる。（AHマズロー）

＊『閃き』のヒント

本物のビジネスで「感動」を

「金のためごまかして儲かるビジネスをする」「より多くの賃金を稼ぐために、働かされる」のではなく、使命感をもち、自ら責任を負って自主的に「働く」ことが大切。

今こそ、人間だけが持つ「自己実現の欲求」に目覚め「希望」をもって、充実した毎日を過ごすとき、その姿が周りに「希望」をもたらします。

14 「もし、人間の教育が不適當だったり悪かったりすると、人間は、地球の全て

の産物の中で、最も残虐な存在になる」（プラトン＝古代ギリシャの哲学者）F・ゴープル著国司義彦監訳「苦悩と混迷を超えて」より引用）

古代ギリシャの哲学者プラトンの言葉を取り上げました。

実は私もあのプラトンがこのような言葉を遺していることを忘れていました。先日、自分が訳した＊Fゴープルの「苦悩と混迷を超えて」を見直す機会がありその中に引用しているのを再認識したのです。

そして「さすが古代ギリシャを代表する哲人の言葉」と感銘を覚えました。＊（「マズローの心理学」の著者）

今世界で戦争やテロ、日本でも凶悪犯罪や児童虐待など残虐な行為が絶えず、ますます悪化しているように思われますが、それは「教育」に原因があるということになります。

では、

- ・ 教育のどこが悪いか
- ・ どのように、修正したらよいのか

です。

教育に問題がある、という認識は多くの人が持っています。政府も盛んに、教育改革を訴えているようです。しかし、一般には、「学力が低下している」「愛国心がない」「自分勝手に社会性がない」などの問題提起です。

これらの教育改革も必要でしょう。が、それにもまして、今の教育で一番欠けているのは

- ・ 自然に対する畏敬の念、人間としての謙虚さ

です。

人間が傲慢になると、「思いやり」もなくなり、「残虐」になります。これは、非常に危険です。

明治以降の日本の教育を考える時、ヨーロッパの歴史とわが国への影響を辿ることは非常に有効です。日本は欧米の教育を取り入れて先進国の仲間入りをしようと努力してきたからです。

ここでは、ごく、おおまかに振り返ってみましょう。

中世のヨーロッパでは、キリスト教が中心で、王は神の名の下に全てを支配しました。「神は絶対であり、人間は神の創造したもの」とされました。

ヨーロッパ諸国は当時、イスラム教徒をはじめアジアの異民族の侵略の脅威に曝され、それを排除しようとする十字軍が結成され、イスラム勢力を追い出し、さらにはアラブ世界にまで遠征するなど、戦争が絶えませんでした。

絶対王政の下で世の中が落ち着くと、人々は、自由と真実を求めて、ルネサンスが開花します。神を讃える絵画や彫刻、音楽など芸術が花開いたのですが、その一方で、宗教の腐敗と行き過ぎに対する批判が高まり、ルターやカルバンに代表されるいわゆる「宗教改革」が起こります。当時の為政者は、首謀者（改革のリーダー）を処刑、処罰しますが、勢いは止まりません。

大航海時代が始まり、ニコラウス・コペルニクス（1473—1543）ガリレオ・ガリレイ（1564—1642）による「地動説」が提唱されます。

裁判で有罪判決を受け、「それでも地球は動いている」とつぶやいたというガリレイのエピソードは象徴的です。 同時代にフランスでは、デカルト（1596—1650）も地動説を発表しようとしていましたが、ガリレイの裁判を知り、発表を控えたと伝えられています。デカルトは後に「我思う、故に我あり」と説き、近代の哲学、自然科学の基礎を築いたとも考えられています。

いずれにしても、この頃から

「何でも分析、証明、認知されなければ、真実ではない。」という考え方がヨーロッパ世界に浸透していきます。デカルトの研究においては、神の存在さえ、証明しようという試みも見られました。

その後、植民地を基盤にした商業の発達に伴い、経済は拡大します。イギリスの繊維産業を中心に、農村から、労働力が集められる、いわゆる「囲い込み運動」が起きて、離農と都市への労働力集中が進みます。いわゆる産業革命と資本主義の始まりです。

資本主義のもとでは、都市の工場で、労働者の過酷で悲惨な労働条件と貧困が新たな社会問題を生むことになりました。

ここで、わが国に話を戻して、同時代の日本はどうであったか、を見ておきましょう。

ガリレイやデカルトの生没年を見ていただきますと、日本は安土桃山時代から関が原の戦いをへてようやく江戸幕府が始まった時代です。

それから徳川250余年の年月を経て、1854年ペリー来航で泰平の夢を破られ、開国、明治維新、文明開化の時代になり慌てて、先進諸国へ「追いつけ、追い越せ」と政治、経済、教育、治安国防の体制を整えていくことになります。

明治以降の高等教育では、欧米の教育体系が採用されたのです。当時の学生のはやり歌に「デカンショ節」というのがあったそうです。

「デカンショデカンショで半年や暮らす、後の半年や寝て暮らす」と。デはデカルト、カンはドイツの哲学者カント、ショは同じくショーペンハウエルだったのです。当時

から昭和にかけて、いかに「欧米の学説」に振り回されていたか、いや今日でもわが国の学界や各分野で、その影響が色濃く残っているか、うかがい知ることができます。

少なくとも、数字を絶対視し『科学的』とする風潮、人間を「モノ」扱いして傲慢、残虐になったのはここから始まった、とも考えられます。

＊『閃き』のヒント

「要領のいい人間」より、「本当に人の役に立つ人材」の育成をビジネスに。

15 幸せの原点を探る 山のあなたの空遠く幸住むと人の言ふ

(カール・ブッセ) 幸せの『青い鳥』 (メーテルリンク)

この詩は、上田敏の名訳で日本ではすっかり有名になりました。

この詩はさらに「ああ、われひとと尋(と)めゆきて涙さしぐみかへりきぬ。山のあなたのなほ遠く幸住むとひとのいふ」と続きます。訳は一

「ああ、私もみんなと一緒にいって涙ぐんで帰ってきた。山のかなたのさらに遠くに幸が住んでいると人が言う。」となります。

その意味を「幸せは山のかなたにあるのではなく、足元にある」とみる人もいますが、ブッセがどういう心境だったかは分かりません。「なほ遠く幸住む」というあたり西欧人の飽くなき欲求、未練が感じられないでもありません。

一方、メーテルリンクの「青い鳥」という話を皆さんも子供の頃聞かれた記憶があるでしょう。これも西欧の話ですが、ここでは「幸せの青い鳥は、外に求めても求められず足元にあった」という主題がはっきりしています。

今回のキーワードでは実は、このことがいいたかったのです。

今、いろいろ悩みや問題を抱えている人も多いと思います。

しかし、戦時中、命を脅かされた時代、戦後の貧しかった頃を知っている私たちから見れば、

「平和で、経済的に豊かになって何が不足があるのか。」ということも多いような気がします。

いや、今でも、イラクやパキスタン、アフガニスタンのように始終爆弾テロの危険に曝されている地域もあれば、内戦に明け暮れる地域、自然災害に叩き潰され、住む家も食べるものもない人々が、この地球上には何百万、何千万人と存在していることを思えば、一般に日本人は何と恵まれた環境の中で生活しているか、ということが分かるはず

です。

日常生活の中で、不平、不満、悩みや苦しみ、迷いなどは付きもの。でも、そういう思いに悩まされたとき、以上のようなことに思いをめぐらせれば、

・ 足元にあるはずの幸福

を見失い、忘れていたことに気付くかもしれません。いや、きっと、気付くはずです。そういえば、『生き方』『幸せ』について考えさせられる童話の秀作としておすすめは「ピノキオ」。

木の人形のピノキオは、いたずらなどどこにでもいる腕白小僧です。「今日こそは、まじめに生きよう」「勉強しよう」

「正直になろう」と思いながら、いつも悪い友達の誘惑に負けてしまいます。

さんざんな目に遭いながら、ついに人間にしてもらおうピノキオは、人間の「弱さ」「愚かさ」そして「善良さ」「たくましさ」をそのまま表現している見事な作品です。

これは、子供の読み物というよりも、むしろ、大人が読み直すとためになる作品だと私は考えています。

あなたが『山のあなたの空遠く幸住む』と信じて、幸せを求め続けるか、それとも、足元を見直して、足元にあったはずの幸せ、忘れかけていた幸せに気付くか—まさに、あなたの心がけ次第だと思います。

日本の昔話にも素晴らしいものがあります。「浦島太郎」は、高齢社会で、面白おかしく生き、比較的恵まれた一生を長生きした人々の老後の哀歓を連想させるものがあります。

助けた亀に連れられて、絵にも描けない美しい竜宮城で乙姫様の歓待を受け、タイやヒラメの舞い踊りにうつつをぬかしているうちに、ふと気がついて、家路を急ぐ浦島太郎。帰る途中の楽しみは土産にもらった玉手箱—とここまでは、いつか歌った童謡の歌詞の通りですが...

故郷に帰ってみると、元住んでいた家はなく、太郎を知っている人はみんなあの世へ行き、玉手箱をあけたら、たちまち白髪のおじいさん...なんとも、はかなく、淋しい結末。こうならないように、一日、一日をしっかりと生きなければなりませんね。

「一寸法師」「かぐや姫」などは一連の恋物語、昔の日本人のロマンが子供の話に生き生きと描かれています。見方によっては、源氏物語にも匹敵するラブロマン、それに人生の哀歓がにじみ出ているのです。

ラブロマンといえば、未だに映画のDVDを手軽に見ることができ、テーマミュージックがあちこちのBGMなどで流れてくる『風と共に去りぬ』。

主題は、南北戦争を境にアメリカ南部の奴隷制度に支えられた白人にとっての『古きよき時代』が風と共に去りぬ—ということなのですが、主人公のスカーレット・オハラは

、夫で、子供まで授かったレット・バトラーへの『愛』に気付いたときには、既に彼は、彼女の許を去っていた、というのも、また、非常に印象的で、『愛』について、人生の生き方について考えさせられる象徴的なエピソードとってよいでしょう。

今回のキーワードからは、

- ・ 人間の幸せは、求めてもなかなか見つからないこと
- ・ 足元にある幸せに気付かないと、気付いたときには手の届かないところへ「去って行ってしまおう」こと

などを学び、この教訓を皆さんの日常生活に生かしていただければ幸いです。

そしてそのヒントは、古今の名作、特に『子供向けの作品』の中にあることが多いのです。お子さんやお孫さんと名作を紐解くことによって、幸せの「扉」を開くことになるかもしれませんね。

* 『閃き』のヒント

「競争」より「ユニークな発想」ナンバーワンからオンリーワンへ。
企画が種切れのときは、「原点」「足元」を見直せ。

16 文明崩壊の要因

- ①家庭の尊厳が軽視される
- ②重税と過大な福祉
- ③快樂を求める狂気。
- ④スポーツがエスカレートし-不道徳になる。
- ⑤巨大化する軍事費（個人の不道徳化には、無策）
- ⑥宗教の墮落（「ローマ帝国の崩壊と没落」（E・ギボン）

Edward Gibbon

エドワード・ギボン（1737-94）はイギリスの歴史家で
オックスフォード大学に学びましたが、彼の父は、当時カトリックに傾斜していたオックスフォード大学の影響を恐れ、スイス、ローザンヌに住むプロテスタントの牧師であり個人教授も行っていたパヴィリアード (M. Pavilliard) のもとに預けました。

そのパヴィリアードの影響を強く受け、ギボンは主著「ローマ帝国の崩壊と没落」を執筆しました。

今回はローマ帝国の崩壊の要因を取り上げましたが、これを見た瞬間、私は、余りにも、現在の日本の社会現象に当てはまるが多すぎるような気がして、ギクリとしたのですが、皆さんはどう感じられたでしょうか。

- ①離婚や家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）などが横行し家庭が崩壊して

親子が憎しみ合い、殺し合う。

②医療費の増大と増税の機運

③～⑥についても、それぞれ思い当たる点が多いように思われます。

①戦後、日本では、復興、高度成長の時代に、夫は、仕事に明け暮れ、家庭を顧みないで、妻任せという時代もありました。

いずれにしても、この頃、夫不在は当たり前でしたが、その後、核家族化に加えて、女性の職場進出が進み、共働きの家庭が多くなるにつれ、妻までが家を空ける時間が長くなり、いわゆる『鍵っ子』が出現しました。夫の単身赴任も珍しいことではなくなり、「亭主元気で留守がいい」などという流行語ができたこともありました。

考えてみれば、こんな状態で、家庭がまともに営めるはずはありません。家族間特に、夫婦の意志の疎通が少なくなり、離婚が増え、文字通り「家庭軽視」「家庭崩壊」が始まります。「地域社会」も崩壊し、地域社会の浄化作用も消滅します。子供は最大の犠牲者でした。

バブル経済が崩壊し、夢から覚めたように、夫も妻も家庭を大事にしようという機運も一部では見られるようになりましたが、「時、既に遅し」の感もあり、こうして、青少年の非行化が社会問題になり、大人の手には負えないような少年少女が巷に溢れるようになり始めました。携帯電話や出会い系サイトに誘発された少年少女を食い物にする犯罪が横行し、少年や20代の若者自身による凶悪犯罪が頻発し、少年法の改正も論議されるようになったのも、親たちが家庭を捨て、軽視した『ツケ』が回ってきたと見て差し支えないかもしれません。

②日本が重税かどうか福祉が手厚いかどうかは論議の分かれるところですが、国民皆保険、皆年金が制度化するプロセスで、社会保険庁をめぐる諸問題や後期高齢者の保険問題が噴出したことは間違いありません。

欧亜にまたがる一大帝国ローマが崩壊していく過程で、現在も遺跡として残る大浴場やコロッセオに象徴される遊技場が肥大化し、民衆は狂喜してそれを楽しんだといわれます。さらに、周辺属国への水道や道路の充実それを賄うために重税を課した、といわれます。

このようにはるか昔のローマ帝国のことを話しているつもりの話題はいつの間にかそのまま、現代日本の現状にも通じます。

道路特定財源、ガソリン税をめぐって是か非か国会でやかましい議論が展開されたことは、記憶に新しい所ですが、立派な道路ができるたびに、ローマ帝国の教訓が胸によぎるのは筆者だけでしょうか。

③以下についても、皆さんそれぞれに、心に去来するものがあるでしょう。静かに考え

てみてください。

ただ、『軍事費の増大』だけは、幸い戦後の日本には当てはまらないかもしれませんが、中国やロシア、インドなど経済的に急成長した国々やイラン、北朝鮮などについては非常に気がかりですね。

ところで、このように、日本や関連諸国についてコメントし考える場合国や文化、風習について論じ非難するだけでは、評論家になってしまいます。

最も大切なことは

・ 一私人としてどうするかです。

一例を挙げれば

「仕事が忙しくても家庭を大切に家族、特に子供たちとの対話、共に過ごす時間を大切に
にする」「贅沢になっていく衣・食・住や車を追い求めず、無駄遣いを慎しみ、自分なりに、つつましく生きること」を心がけることなどがあげられます。

また、マスコミを通じて時の権力者や有名人が美辞麗句を駆使して何かうまいことをいっても決して『酔うことなく冷静に聴くこと』も大切だと思います。

最近の選挙では、『口のうまい政治家の扇動』に有権者が付和雷する傾向が見られます。一時の勢いに『流される事』は要注意。また、社会的風潮がどう動いても、『流されること』なく、「自分の感性によって判断し、行動すること」です。

その場合、戒めになるのは、ここにあげたギボンの言葉を始め、古今の名言です。

なお、ローマよりも以前に創造性の一時代を築いたギリシャ文明がなぜ、「崩壊したか」については、さらに興味があり、示唆に富む金言があります。（後日改めて紹介します。）

*『閃き』のヒント

金言・名言を時折、紐解いて、自分の判断や行動の基準として活用することがビジネスチャンスを生む。

17 ①『文明の崩壊は、道徳的逸脱＝人間の内面的崩壊、意気消沈の結果である』

②『勝手気ままと性の乱れが家庭生活を脅かしている。

子供たちにとって心理的・道徳的土台たる 家庭生活を』（アーノルド・J・トインビー（**Arnold Joseph Toynbee**）

①文明の没落を研究するとその原因は、全ての場合において何かの形で自己決定の失敗であること。そうして人類が自らの運命に統制力を失うわけだが、この社会的・大災難（自己決定の失敗）は、たいてい道徳的逸脱の結果そのものにほかならないことを発見した。私は文明は必ず没落する運命にあるとか、文明には定まった周期があるとかいう

説を信じない。また、文明はその環境に負かされて崩壊するのだ、という説も信じない。文明が崩壊するとき、その原因は外部からの打撃ではなく文明内部の精神的失敗、つまり、我々人間が屈服しなくてもいいような精神的意気消沈であり、我々が責任を負うべき意気消沈によるものだと言っている。

大きな創造性の一時代を築いた後のギリシャ文明の崩壊は、今日ことさら、意味深いものである。BC 4世紀に起こったギリシャ都市国家（ポリス）の瓦解と没落は、「思想上の混乱」に大いに関係がある。ギリシャの場合その混乱とはソフィスト（詭弁家）たちに起因するものであった。ソフィストとは知識人であり、伝統的な宗教観念をさげすみ、ギリシャ文化の中の古くから伝わる倫理上の原理を軽蔑した教師であり、弁士である。彼らは*道徳相対論者（何がよいか、悪いかは、相対的なものであり、絶対的な善悪は存在しないという考え方。（*この考え方は究極は『殺人』『強盗』『詐欺』『強姦』『戦争』などの重大犯罪さえも相対的なもので、『罪悪』『犯罪』『裏切り』も相対的なものという結論＝無秩序な社会を容認することになる。）ギリシャ文明崩壊前夜のソフィストたちは現代の評論家、教育者の一部に見られるように、『無制限の自由』を教えたのである。思想上の混乱は社会の不統一を招き、ついには人類史上の一大文明の雄であったギリシャ文明の滅亡を招いた。とトインビーは言っているのだ。

・ 20世紀を代表するイギリスの歴史学者アーノルド・ジョセフ・トインビーは、『文明の崩壊』に関する著書で、以上のような分析と提言を試み、その視点から現代社会を洞察して、『勝手気ままと性の乱れが家庭生活を脅かしている。子供たちにとって心理的・道徳的土台たる家庭生活を』と警告を発している。いまから、半世紀も以前の1960年代以降数十年にかけて著作を発表し、全世界の識者へ大きな影響を与えた人。かれは、著作の中で、現代文明への警鐘を鳴らした。

②の『勝手気ままと性の乱れ』の具体的現象は、1970年代からアメリカを中心に現れ始め、新しい性的自由（フリーセックス）の波は、全米はもとよりヨーロッパ先進工業諸国から日本までを席卷したといわれる。

当時、アメリカでは著名な教育者、行動科学の学者そして聖職者までもが、実害？がなければ、不義、乱交を認めることを、テレビ、新聞、雑誌、講演等あらゆるメディアを通じて、表明していたといわれている。（当時はインターネットはまだ、この世に普及していなかったから、インターネットが世界中を駆け巡っている今日、この傾向は幾何級数的に増幅されていることは容易に想像できる。フリーセックスの『害』は、アメリカのインテリの『実害がなければ』というメッセージにもかかわらず、計り知れないものがあつた。

まず、私生児の増加で、託児所など福祉予算が急増することになるが、お金の問題は

ひとまずおくとして、孤独なシングルマザーとその子供を『不安と孤独の世界』へ追いやることになる。すなわち、出産前に周囲からも行政からも援助はほとんどなく、出産後も父親なしで子育てをするという2重の困難を抱えた母親には、救いようのない困難が待ち構えているのだ。アメリカの政府調査機関のサーベイでは結婚生活に入らず第一子を産んだ女性は家族からも見離されその後夫とも別れる率が正式に結婚した女性に比べてはるかに高いことが判明している。

ニューヨーク市の調査によれば、未婚の母に比べ、妊娠期間中の保護も十分受けられず、妊娠中のトラブルも多いそうである。未婚の母が未熟児を出産する率は高く、子供の死亡率も高いといわれている。

日本における未婚の母に関する調査データはないが、最近、産婦人科に来る救急外来の妊婦には、未婚の母で、母子手帳を持たない妊婦が多く、事前の検診を受けず、診療データが全くないために、治療に当たる医師が戸惑うこともしばしばだそうだ。病院側の体制にも問題があるとしても、非常に危険な状態が多くなる。性病やエイズなどフリーセックスの影響と見られる病気の問題も深刻化しているといわれている。

このように、フリーセックスと性に関する不義、不倫、不道德は『実害がない』どころか計り知れない、『社会的害悪』と当事者たちやその結果生まれてくる子供たちに「不幸」な結果をもたらしているのである。

18 何不自由ない人生は何の面白みも感動もない。

・ 人生の幸福は、どれだけ快樂を得たかではなく、どれだけ「感動」を得たかによって決まる。(V・フランクフル金言①)

19 「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」という諺の大うそ？

「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」という諺が、一般には、かなり、広く、何の疑問もなく、信じられているようです。

しかし、よく考えてみると、こんなおかしいことをいってよいのでしょうか。もし、この言葉が、真実なら、ヘレンケラーやサリドマイド禍を克服して「五体不満足」というベストセラーを著し、多くの人を指導し勇気付けている乙武さんは、心が歪んでいることになりかねませんね。

この言葉は、明らかに間違いです。

皮肉にも、今、世の中には、逆のタイプの人々は大勢見かけられます。

すなわち、

- ・ 体は5体満足なのに、精神が歪んでしまっている人々
- ・ 殺人、放火、傷害、詐欺などの重大犯罪を犯す犯罪者は、概ね、体は丈夫なのに、心が歪んでいる『心の病』に犯された人々です。
- ・ 犯罪者でなくても、引きこもり、うつ、などで悩む人は、非常に多く、体は病んでいなくても心の病人です。
- ・ それに引き換え、体には傷害があっても、健常者にもできないような立派な生き方をしている人々も大勢います。

先にあげた、ヘレンケラーや乙武さんは、その代表格ですが、そんなに世間に知られていなくても『生まれつき体が不自由であったり、病気の後遺症などで半身不随になっても、リハビリに精を出し、心は健全で立派な生き方をしている人』も、少なくないはずです。

では、なぜ、こんな間違った解釈が起きてしまったのでしょうか。

本来、この言葉の出典はローマの詩人ユヴェナリスの「風刺詩」の第10歌にあり、原文の文脈は次のようなものです。

「諸君が...神々から何かを求めたいというなら、こう願うがよい。健全な身体に健全な心を宿らせくれと。死の恐怖にも平然たる剛毅な精神を与えよと。人生最期を自然の贈り物として受け取る心を...進んで選ぶ心を願え」世界名詩集大成＝日野原重明（聖路加国際病院名誉院長）著『いのちの器』より）。

特に、死の恐怖にもたじろがず平然としていられる剛毅の精神、死を自然の贈り物として受け取る心をもつことを願えという、実に『深い』意味があったのです。

これが、本来の意味だったのに翻訳者（不明）が、「健全な心は健全な体から」「体が健全でないと心も歪む」と誤訳をしたのが元で、とんでもない誤解が生じてしまったのです。

いわゆる、後期高齢者の医療と保険制度が大問題になりましたが、中高年になると、どこか、体の不都合が出てくるものですが、「心」まで、歪まないように気をつけたいもの。

逆に、若くて体は丈夫なのに心が「空虚」で歪んだ若者が目立つのも気がかりですね。このように、諺や金言、言い伝えなどというものの中には、誤訳や誤った解釈がなされて、それが、多くの人に「まことしやか」に、信じられ、喧伝されているものもあるので、注意が必要です。特に、翻訳モノは要注意、です。

それに、この言葉に関連して、一つだけ注意を要することがあるのも確かです。

すなわち、体に障害があっても、心は健常者よりも確りしている人は多いし、努力次第

でだれにでも可能です。が、体に故障があると、一般に、弱気になったり、心も弱くなってくることも確かです。

すべてに対して消極的になり、人が信じられなくなり、孤立して、ひがんだ気持ちになる場合もあります。いわゆる『スランプ』ですね。

何かを判断する場合でも判断を誤ったり、人に騙されたりするのも、弱気になっているときです。

こういうことが、現実にはあるからこそ、

「健全な精神は健全な肉体に宿る」と早合点、誤った解釈をされてしまったのかもしれない。

さらに、「心が病んでくると、体も病む」という現象も広く見られます。

心身症がそれです。

本来、体には異常がなかったはずなのに、精神的なストレスや悩みごとがあると、体にも『異常』が表れ、ついにはホンモノの病人になってしまうのです。

私自身、若い頃勤め人をしていた時代に、職場の人間関係などで、胃腸障害を起こしていました。現在では、ビジネスマンやOLに広く見られる『過敏性大腸症候群』でした。私自身当時は、生まれつき胃腸が弱いと信じていました。しかし、そういうストレス状態がなくなると、けろっとして、食欲旺盛、別人のように、人並み以上に胃腸は丈夫であることに気付きました。

胃腸に限らず、円形脱毛症や皮膚の異常という形で、からだに異常が現れることもありますし、知人の会社の幹部職員は『心臓神経症』で、本ものの心臓病のように、苦しんでいる人もいました。

ですから、現代においては、『健全なる肉体は健全な心から』と言い換えてもよいくらいです。

本当にこの言葉の真髄は、『健全な心を持ってほしい』というところにあると思います。

この言葉は、21世紀の現代そして、ますますストレスがエスカレートする近未来の精神社会に、

・ 心を健全に保つことによって、肉体も（心身症などにならず）健全な状態であって欲しい

という、古代ローマからのメッセージとして、ストレス状態にある多くの人々、末期を迎える高齢者や重病人にも真摯に受け止めて欲しいと思います。

*『閃き』のヒント

20 この地上には二つの人種しかいない。品位ある人種とそうでない人種である。第2次大戦中、ナチスドイツにおけるユダヤ人の虐殺、強制収容所への収容、虐待、拷問、大量虐殺はV・フランクルの『夜と霧』やアンネ・フランク「アンネの日記」などでも、よく知られています。

900万部以上のベストセラーになり、世界18カ国語に翻訳された『夜と霧』の9『深き淵より』で、フランクルは次のように述べています。（大意要約）

「（前略）われわれは、一つのことを悟るのである。すなわち、ある人間が収容所の看視兵に属していたからといって、また、反対に囚人だからといって、その人間がどういう人かは云々できないということである。人間の善意を人はあらゆる人間において発見しうるのである。したがって、人間の善意は全部から見れば罪の重いグループにも見出せた。その境界は入り混じっているのであり、したがって一方が天使で他方は悪魔であると説明することはできない。それどころか看視兵として囚人に対して人間的であろうとして何らかの人格的道徳的な行為もあったのであり、他方では、彼自身の苦しみの仲間にも不正を働くある囚人の忌まわしい悪意もあったのである。かような悪い性格の人間は収容所の他の囚人を甚だ苦しめたことは明らかである。他方看視兵が示したごく僅かな人間性に対して、囚人が深い感動をもって応えることもあったのである。たとえば、私はある日一人の労働監督がそっとパンの小片を私にくれたことを思い出すのである。...私は彼がそのパンを彼の朝食の配給から儉約してとっておいてくれたことを知っていた。...そして私を当時文字通り涙が出るほど感動させたのは物質的なものとしてのこの一片のパンではなく、彼が私に与えた人間的なあるものであり、それに伴う人間的な言葉、人間的なまなざしであったことを思い出すのである。

これらすべてのことから、われわれはこの地上には二つの人間の種族だけが存するのを学ぶのである。すなわち、品位ある善意の人間とそうでない人間との『種族』である。二つの『種族』は一般的に広がって、あらゆるグループの中に入り込み潜んでいるのである。もっぱら善意の人、あるいはもっぱら悪意の人だけからなるグループと言うのは存しないのである。その意味でどのグループも「純血」ではない。...だから看視兵のなかには若干の善意の人間もいたのである。

強制収容所の生活は疑いもなく人間の奥底に一つの深淵をひらかしめたのであった。この深みにおいてもなお人間的なものを、すなわちあるがままの人間的なもの、善と悪との合金としての人間的なものを見ることができたのは少しも不思議ではない。あらゆる人間存在を通じ善と悪とを分かち亀裂は人間のもっとも深いところまで達し、収容所が示すこの深淵のなかにも見ることができたのである。

強制収容所の所長にも、囚人をかばい、暴力を振るわず、病人には、薬を提供した人もいた。逆に、ユダヤ人でも、ユダヤ人の弾圧・虐待に、ナチスに手を貸し人もいた。一というのです。つまり、その人の属しているグループ（国、組織、部署）に関わらず、『人間的』なもの＝（品位のある言動）を示す人もいれば、そうでない人もいるということです。

これで思い出されるのは、第2次大戦中多くのユダヤ人の命を救った外交官杉原千畝さん。聖将といわれ、占領下の住民からも慕われた、といわれる陸軍大将第8方面（インドネシア）司令官今村均さんなどです。これらの人々は「品位ある選択」をしたことが、多くの関係者の証言、文献で知ることができます。

映画「戦場のピアニスト」では廃墟の中に隠れていたユダヤ人のピアニストが、ドイツ軍の将校に発見され、死を覚悟でピアノを演奏し、ドイツ軍将校は、ピアニストの命を救い、自らは、敗戦後収容所に収容された一というエピソードが感動的に描かれています。

「戦争」と言う極限状態＝悲劇の中では東洋も西洋もない。肌の色も関係ない。どこの国の人であっても『いかに自分らしさ』『人間的に生きるか』＝
・品位ある行動を取ることができるかを問われます。

私たちは、一般に、そんな極限の選択を迫られているわけではありませんが、平和な時代に、『人生は空しい』とか『平凡で意味がない』などと嘆く前に、時に立ち止まって「自分は『品位ある行動』をとっているか」と反省することは、人生を有意義に、悔いなく過ごすために、心がけるべきことではないでしょうか。これは、他人事ではなく、私自身に対する厳しい問いかけでもあると思っています。

*フランクルの原文は、そのまま引用すると難解な部分もあるので、読者の理解を容易にするため、若干筆者の解釈を加え、この連載の文体にあわせるため、引用文に表現上の加工をした部分があります。)

*『閃き』のヒント

ビジネスの交渉も「人を見て法を説く」要領で

・『夜と霧』（V・フランクル・霜山徳二訳）

ですね。

というわけで、上級の（神に近い）人々と獣の以下の人間の差は、人間と動物の差以上に大きい、といわざるを得ないと思います。あなたは、どう感じますか？

*『閃き』のヒント

自然に対する畏敬の念に、ビジネスヒントがある。

31 祇園精舎

祇園精舎*の鐘の声、諸行無常の響きあり。

紗羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。奢れる人も久からず ただ、春の夜の夢のごとし。猛き者も遂にはほろびぬ、偏に風の前の塵に同じ（平家物語）

これはご存知「平家物語」の始めの一節です。*祇園精舎は須達長者が釈迦に献上し仏教布教の中心となった寺院。

この物語は平氏の首領で関白太政大臣平清盛を主人公とした平家一門の没落を描き、人生のはかなさを歌ったものです。

娘賢礼門院徳子を皇室に嫁がせ、その子安徳天皇の祖父として権勢を誇りましたが、やがて自らは熱病に侵され非業の最期を遂げます。

ライバルの源氏は源頼朝、義経、木曾義仲らが蜂起して、平氏は都を陥ち、屋島の合戦など数々の合戦の末、遂に下関に追い詰められ、壇ノ浦の合戦で、安徳天皇は乳母二位尼に抱かれて海に沈み、滅亡したのです。この間喜界が島に流された僧俊寛の悲劇をはじめ数々のエピソードは芝居や浄瑠璃として紹介されています。

人生のはかなさを教え、いろいろ考えさせてくれる名作は芥川龍之介の『杜子春』。
「杜子春」についてはおなじみの読者も多いと思われませんが、簡単にあらすじを紹介しておきます。

昔、中国の洛陽という大きな街の西はずれの門のところに杜子春という若者がお金もなくどうしようかと途方にくれてたたずんでいるとみすぼらしい一人の老人（実は仙人＝現代流に言えば超能力者）が「どうしたのだ。何か困っているのか」と杜子春にたずねた。「これからどうしようかと考えている」と杜子春が答えると、老人は「そうか。それならお前を金持ちにしてやろう」と答えて立ち去った。その夜のうちに杜子春は大金持ちになったが、いい気になって贅沢をしているうちに、また、無一文になってしまった。再び、西の門で杜子春がたたずんでいるとまたあの老人が現れ、また金持ちになることができた。しかし金持ちになれば人は寄ってくるがいったん落ち目になるとみんな杜子春のもとを去って行ってしまふ。三度無一文になって門のところでたたずむと、またまた老人が現れ「金持ちにしてやろう」と。だが、今度は杜子春は「もうカネはたくさんです。人間に嫌気がさしたので、仙人になりたい」と頼んで弟子にしてもらふ。そのときの約束は「修行中、どんな辛い目に遭っても、口を利いてはならない」という

ものだった。いわば、これが仙人になるテストだったのだ。山へ入るとえんま大王が現れ、ありとあらゆる苦難を杜子春に課すが杜子春はこれに耐える。えんま大王はついに杜子春の亡くなった母親を呼び出して、拷問にかけそれを杜子春に見せた。ここでさすがの杜子春も思わず「お母さん」と叫んでしまった。これで杜子春の仙人志願はご破算になった。が、そこへ仙人が現れ「お前がもし、あの場面で約束どおり何も言わなかったら、私はお前を殺していただろう。これでよいのじゃ。」と諭す。そして「もう仙人になりたいとは思わないのか」とたずねた。杜子春は「これからはまじめに働きます」と答える。そして仙人から「田舎に少しばかりの畑がある。あれをお前にやろう」といわれ、その後杜子春は幸せに暮らした」という話である。

この杜子春の話は

- ・ 人間の幸せとは何か
- ・ 人生の幸、不幸とは何か
- ・ 金持ちになるとは、人間にとって、どういうことかなどいろいろなことを考えさせてくれます。

平家物語とあわせて読んでみると、

- ・何をしたらよいか

3 2 自分の『天命』を知ろう（渋澤栄一）

「本来自分にそぐわない行動を取ったり無謀な野望を抱いたりしても、うまくはいかない」

孔子がいわれた『罪を天に獲る』とは、無理なまねをして不自然の行動に出ずるという意味であろうか、と思う。(論語講義)

(注) 孔子が言った『罪を天に獲る』とは「本来自分にそぐわない行動を取ったり無謀な野望を抱いたりしても、うまくはいかない」という意味だろうと思う。

世人は一も二もなく彼を順境の人と思うであろうが、実は順境でも逆境でもなく、その人自らの力でそういう境遇を作り出したに過ぎない。(「論語と算盤」成敗と運命)

自分のための努力だけでは、人は幸福になれない。

人の幸福は自己の才識、勉強によってのみ発展するとおもうは、大いなる誤解である。

(渋澤栄一訓言集)

3 3 我が身、私のものにあらず (貝原益軒「養生訓」)

貝原益軒は、江戸時代の医者、儒学者で生き方、心身の健康を説いた「養生訓」は特によく知られています。

若いころ士官（藩に仕えること）したがすぐに免職となり七年間も浪人生活を送ります。

この間勉強した学識が認められて27歳で再就職、71歳で辞職が認められるまで藩士兼学者として多くの人々の指導に当たりました。

右の言葉は「養生訓」の中にあるものですが、さらに、次のように続けています。

「人の身は父母を本とし、天地を初めとす。天地父母の恵みをうけて生まれ又養はれたるわが身なれば、わが身私のものにあらず。天地のみ賜物、父母の残せる身なれば、つつしんでよく養ひて、そこなひやぶらず、天年を長くたもつべし。

私たちのからだは天地父母から生まれ養われたもので、「私のもの」ではない。

「天地のみたまもの」である。

「援助交際」をやって、「自分の体だし、だれにも迷惑をかけていないからいいじゃん」といっている若い女子高（中学？）生、倒産、リストラなどで自殺したがるお父さんに聞かせたい言葉ですね。

『養生訓』というと健康法のハウツー書のようなイメージがありますが、当時の日本人の『生き方』が集大成された指南書です。参考書：立川昭二『養生訓に学ぶ』（PHP新書）

34 長生きすれば、楽しみ多く益多し。（貝原益軒「養生訓」）

人生50にいたらざれば、血気いまだ定まらず。古今に疎くして世変になれず。言(ことば)あやまり多く。行い悔い多し。人生の理(ことわり)も楽しみもいまだしらず。50にいたらざして死するを夭(わかじに)という。これまた、不幸短命というべし。長生きすれば楽しみ多く益多し。日々にいまだ知らざることをしり、月々いまだ能(よく)せざることをよくす。この故に学問に長進することも、知識の明達なることも長生せざれば得がたし。ここをもって養生の術を行なひ、いかにもして天年をたもち、50歳をこえ、なるべきほどは弥(いよいよ)長生きして、60以上の寿域に登るべし。

少し長いキーワードですが、前項に続いて貝原益軒の『養生訓』からの抜粋です。

文語文ですが、平易に書かれているので大体の意味はお分かりと思います。

今日本は世界有数の長寿国になって、シニア（中高年）が多くなりました。
旅行に、レジャーに、老後を楽しんでいるお年寄りも少なくないようですが、他方では、病気や家族と離れて孤独なお年寄りもいます。中には、介護疲れで、自殺したり...
益軒のいう「寿域」に達した人、まもなく達しようという人は、健康に留意し病気にならないように注意[養生]することはもちろんですが、たとえ病気になっても、しっかりと「いきがい」をもって、大いに楽しみたいもの。

「せっかく長生きしている？のですから、『楽しみ多く、益多く』日々過ごしたいものです。

ね。

*『閃き』のヒント

ただ、自分だけで楽しむ享楽から楽しみを「分かち合う」こと。そこから「コミュニティビジネス」も生まれる

35 世の中というものは。人の思うほど、そんなによくも悪くもないものですよ」
・（モーパッサン「女の一生」より）人間万事塞翁が馬（中国の古い諺より）
ロザリの言葉です。（ロザリは昔ジャンヌの夫ジュリアンの子供を産んだ召使です。）
この小説の主人公ジャンヌはフランスの田舎貴族男爵家の令嬢として、「すべてに従順に」という教育方針で育てられた世間知らずのお嬢様。彼女は夫と召使ロザリの不倫を知らされ、その後親友にも裏切られ、さらにすべての期待をかけて溺愛した息子にも放埒の限りを尽くされ、拳銃の果てにその息子が情婦に生ませた子供（ジャンヌにとっては孫）まで引き取らせられる、という散々な一生です。それなのにモーパッサンは「良くも悪くもない」と語らせるのですーあなたは、どう感じますか？

この言葉から連想する中国の有名な言葉は

- ・ 人間万事塞翁が馬
- ・ です。要約すると

「好運と思っていたことが実は災難だったり、災難と思っていた出来事があったために、後になってみると、かえって災難を逃れたりというようなことは、人生によくあることだ」ということです。

参考までに、この話のあらすじはー

北方の国境に近い砦に、一人の占いのうまい老人が住んでいました。あるとき、馬が逃げて国外に去ってしまいました。人々が気の毒がると老人は、

「これがかえってよいほうに変わるかも知れない」といいました。数ヵ月後、その馬が

いい馬を連れて帰ってきました。人々が喜ぶと今度は老人は「これがかえって災いを招くかもしれない」と。

しばらくして、老人のこの馬に乗っていた老人の息子が落馬して骨折、人々が気の毒がると「これがかえって幸いになるかもしれない」と老人は落ち着いた様子でいました。一年後他国が襲ってきて、若者たちは10人のうち9人までが兵役にかりだされて戦死してしまいました。しかし、息子は足が不自由だったために難をまぬかれたのです。

現代でもよく知られた話では、戦後首相になった人が役人だった頃のこと。健康を害して、長期欠勤せざるを得ず、同期生よりも出世（昇進）が遅れたそうです。ところが、間もなく敗戦。当時の高級官僚はGHQから公職追放を通告されました。この人は、出世が遅れたために追放を免れ、おかげで異例のスピード出世をした——という話です。これは役人に限らず、大企業でも上層部（役員）が追放になって、普通ではとてもなれない若い頃に役員になれた、という例があちこちにあったそうです。

人間何が幸いするか分からないものですね。

この話から、『人間は何が幸せになるかわからない』というたとえ話に広く使われるようになりました。これをもじった青島幸男氏の『人間万事塞翁が丙午』という小説もありましたね。

36・悪貨は良貨を駆逐する（トーマス・グレシャム）

・天網恢々疎にして漏らさず（老子）どちらが、究極の真実か？

未曾有の世界的金融危機—

経済学を勉強した人は、グレシャムの法則としてご存知の通りです。

トーマス・グレシャムはイギリスの貿易商、財政学者。エリザベス一世時代の経済顧問でロンドン取引所の設立者でもあります。中世から18世紀ごろまで紙幣はなく王は財政窮乏を救うためしばしば、貨幣の質を落として乱発しました。

日本でも幕末幕府が財政窮乏を救うため悪貨を乱発し、幕府の寿命を縮めました。悪名高い天保銭（細長くて穴の開いた銭で「阿呆」の代名詞としても使われたものです）どこの国いつの時代でも似たようなことが起きます。

情報化時代といわれますが、この法則を「情報」に置き換えると、どうでしょうか。情報についても『悪が良を駆逐する』つまり、『悪い情報』がインターネットにはびこり、悪い情報に押されて、インターネットがすべて『悪』であるような印象を与え、良質の情報まで、洪水の中に掻き消されています。テレビは視聴率競争優先の中、やはり、低俗なバラエティ番組や、暗い犯罪事件のニュースが主導権を握り、一握りの良質な番

組や明るいニュースは、埋もれがちです。

本や雑誌の世界も同様です。

今の若い世代は一般に、漫画さえ読まなくなったといわれます。いや、若い世代にも読書家、本の愛好者はいるのですが、これも、マイナーな存在に押しやられ、一握りの良書は、苦戦しています。雑誌も低俗なスクランダラスな週刊誌、写真誌の類が我が物顔で横行し、新刊が出たと思うと姿を消す時代で、伝統ある雑誌も廃刊に追い込まれ、また、記事の内容も変化せざるを得ない状況です。

さらに、これを「人材」に当てはめると、どうなるでしょうか。

質の悪い人材が増えると、その社会では、優れた人材、いい人間までが、陰が薄くなります。

そして、生き残りを図れば、そういう人材までもが汚染されて、墮落する—という話にも通じます。

バブル時代に勤勉が忘れられ、地上げ、土地ころがしが横行し、バブル崩壊後も、ゼロ金利、ファンドの横行で、「楽をしてあぶく銭を稼ぐ」風潮が世の中を覆いつくして、憧れの的になると、若い人も働く意欲をなくし、NEET、ひきこもりになり、これまでまじめに働いてきた勤勉な人までが働く意欲を失ってしまいました。悪いことを考える人が多くなり、混迷の時代に突入しました。

日本は、護送船団方式の金融政策とバブル崩壊後の不良債権問題で、金融機関の経営が破綻寸前となって、巨額の公的資金注入でようやく、景気回復の兆しが見えたところで、民間企業は、『業績主義』の名の下、大幅リストラ＝正規社員を減らし、派遣社員をふやして、輸出、海外依存の経営体質で未曾有の業績をあげていました。その一方で、政府、中央官庁は『改革の掛け声』のみで、相変わらず、天下り先の改革は進まず、不正や贈賄がはびこり、社会保険庁や防衛省、農水省などの不祥事が次々に明るみになる有様でした。

そんな状況下、アメリカ発の金融破たんが、百年来といわれる、『危機』を招きました。これは

「アメリカの政、財、官の長年に及ぶ巨悪」が、内外のあらゆる『良識』を駆逐し、覇権を唱えようと無理に無理を重ねた挙句、遂に、辻褃合わせに失敗してその正体を現した結果に他なりません。

このことから、どの分野でも「悪は良を駆逐する」が確かな法則のように見えます。しかし、一時的にはそう見えても、やはり、長期的には、老子の言葉

・ 天網恢々疎にして漏らさず

(天の網は粗いように見えて、決して、もらすことはない)

が、より、本質的な真実である、と信じたいと思います。

ここで連想されるのは一

今、社会問題になっている「いじめ」。これも、悪い奴がはびこると気の弱い善意の人間が肩身の狭い思いをする現象です。

いじめで肩身の狭い人、苦しい思いをしている人は、

- ・ 勇気を持つことが大切です。が、その前に、まず
- ・ 上手に「かわす」技術も必要になります。

「かわす」とは、「和して、同ぜず

の精神」（本誌07年8月号）を発揮すること、決して「組しない」こと。そして、いざとなったら「ピリッとしたところ＝毅然とした態度を見せてやる」のです。

もちろん、最近では「いじめる側」

は、集団で襲ってきたり、時には卑劣な手段を講じたり危険を伴うこともあるので要注意。

そういう場合は、

- ・ 「場」を変える

しかないでしょう。（学校なら転校、職場なら転職、国なら亡命）が、最後の手段です。

かつて東京大学の大河内学長が卒業生に贈った訓辞「太った豚になるより痩せたソクラテスになれ」は名言といわれました。が、この名言も東大卒業生のみならず、世の識者、インテリ、社会の指導者、教育者の胸からはとうに消えうせ、『太った拝金の豚』が目立った近年。最近では各国立大の学長までもが「稼ぐことが先決」という話をしていました。

今、アメリカ発の経済、金融の破綻は、

- ・ 災いを転じて福となす

全てを『原点』に帰って見直す「良薬」になるのではないのでしょうか。

いずれにしても、多くの人々が、悪に染まらず、良書で心を磨き、温かい家庭、地域社会、地域、国、国際社会を築いて欲しいと思います。

*人生は、良くも悪くもない。うまくいったと思うことが「裏目」に出ることもある。その逆もある。

*悪い奴に心の平安はない。

未だこれを得ざる時は、これを得ることを患う。

人は金、地位、名声などが無いと、金や地位や名声を求めてあれこれ思い煩う。

② 得之患失之

これを得ればこれを失うことを煩う。

何かを得れば、それを失うまいとしがみつく。（論語）

*欲しいと思ったもの〔地位も財産も名声も〕手に入れてみると大したことはない。

①人間は地位、金などないときは「欲しい」と思っているいろいろ心を悩ませます。

高度成長時代の日本は、欧米に追いつけ追い越せと国中に経済優先、環境汚染。その結果、国土は乱開発され、水は汚れ、水俣病、イタイイタイ病そして今、ようやく明らかにされようとしているアスベストの被害。こうしたいわば公害病が発生しました。

また、金が集まる権力機構、汚職、贈収賄。いずれにしても金権体質、拝金主義に傾倒していきました。その傾向は、バブルが崩壊したいまも、マネーゲームの横行としてますますエスカレートしていくようにも思われます。

そして、韓国、台湾、中国、タイ、インドと、かつての「途上国」がその後を追っているようにも見えます。

一方、財政破綻、デフレ、リストラ、大量失業。

こうなってくると『やはり、お金』が頼り？悪代官（官僚、代議士＝政治利権屋）と悪徳商人の癒着。水戸黄門も顔負け。詐欺まがいの利殖、高利貸しが跋扈(ばっこ)し、ATM強盗から保険金殺人まで。

とどまるところを知りません。こんなあさましい世の中をこれから、あなたはどう生きて行きますか？

カネや地位がないから、カネや地位を求める。

カネや地位があったら、何でも自分の思うことがかなう。

「こんな世の中だから、世間並みにちょっとぐらい悪いことをしてもいいのではないかな」

と考えるか、それとも

「こんな世の中だからこそ、自分はせめて、まともに暮らし、悔いのない生き方をしよう」

と考えるか。

あなたはどちらの考え方をとりますか。

答えは、おのずから、明らかだと思いますが。

②地位や名誉を得たものはそれを失うまいとして後進の成長を邪魔し、老害を振りまく。公社、公団ほか特殊法人への天下り、法外な退職金の二重取り、三重取りそして...

考えてみれば、人間は生まれたときは一人で裸で生まれてきます。同じように、死んでいくときも

「一人で裸」です。

太閤秀吉が天下人になって、死んで行きとき、徳川家康、前田利家、石田三成ら、いわゆる5大老、5奉行を枕頭に呼び

「くれぐれも、秀頼を頼む」

と遺言して死んでゆくシーンは、ドラマや映画で有名です。現実がそうだったかどうかは、定かではありませんが、恐らくドラマや映画に近い状態だったに違いありません。

いずれにしても、太閤といえども、あの世へ何ももっていきませんでした。

結果として

「露と落ち露と消えゆくわが命、なにわのことは夢のまた夢」

という辞世の歌。

現代においても、既得権を得たものは、何とかそれを守ろうとして、外貨預金や相続税の優遇措置など『あの手、この手』を考えます。

「増税、保険・年金制度の改悪」年金の支給開始年齢の引き上げ、福祉関係予算の切り捨てなどメチャクチャな金持ち優遇策、他方で消費税や所得税の大幅増税など低所得者、一般国民の生活を混乱、破滅に陥れます。

しかし、どんなにあの手この手で既得権益を守って、子孫に財産を残そうとしても「お墓の中まで」持っていくことは出来ません。その挙句、残した遺産が災いの種になって骨肉の醜い争いになったのでは、死んでも死に切れないことになりそうです。

*『閃き』のヒント

既得権にしがみつくとビジネスはジリ貧、新天地を求め、新境地を開くニュービジネスは

夢が広がる。

38・「世界に変化を望むのであれば、自らがその変化となれ」（マハトマ・ガンジー）（塩見直紀著「半農・半Xという生き方」より）

2008年は「変化の年」と言われアメリカでは、オバマが“change”をスローガンに大統領になりました。4年の任期中に理想が実現できず、苦闘の連続でした。

今、日本でも、大多数の人が、社会に「閉塞感」を抱いて、「何らかの『変化』を求めている」のではないのでしょうか。

そうでありながら“やるべきこと”が見つからない」という声をよく耳にします。特に都会で暮らす人々には老若男女を問わず、見られる傾向だと思います。

農家出身で、サラリーマンを定年退職、自宅に戻って『有機農法』にチャレンジし悪戦苦闘？しているIさんが収穫したオーガニック農産物を持って、訪ねてきてくれました。「そんなに大変なら息子さんに手伝ってもらったら」というと『息子は農業が嫌いではないが、専業農家を継ごうとはしない。農業だけでは、収入が少ないし、農作業は2K(汚い、きつい)』とあって都会に出てフリーターをやっているという話。近隣の農家にも、そういうケースは多いそうです。

後継者不足で過疎の農村、荒れる田畑、そして里山や漁村。

都会で窒息寸前のホワイトカラー。誰かが、ちょっと肩を押せば、大きな力となって、この国、この世界を一変させる「大変革」が、もうそこまで、見えて来ています。後は、誰が『旗を振り、実践するか』世の中は、新しい時代の「旗手」を待ち望んでいるのです。

「変化を求めながらやるべきことが見つからない」という悲しい現代人の悩みに、一石を投じ、「希望」の灯を灯し、自ら実践し活動している人がいます。

著書「半農半Xという生き方」の中でガンディの名言を引用した塩見直紀さんです。彼は、NPO法人半農半X研究所を設立し、京都府綾部市の農村地帯に移住し、自らも、文字通り「半ば」農業に携わりながら、里山ねっと・あやべのスタッフとして、「里山的生活」を発信しています。しかも、彼の推奨する「半農半X」とは、嬉しいことに「必ずしも現金収入の少ない専業農家を不本意ながら継いで、アクセクすること」ではないのです。彼によれば—

「都会では、与えられたことに慣れきって、やりたいことが見つからない一因になっている。そのせいで自らが何かを考え出すことができないのだ。私はこういう人にこそ“田舎に遊びに来なさい”田舎にたまに戻ってきたらどうですか”と声をかけてあげたい。

住む世界を変えてみれば、それまで気付かなかったことや見えなかったものが鮮明になってくる。田舎は最高の思考空間である。だからといって田舎に”住みなさい”とは言わない。田舎と都会、半々に暮らしてもいいし、週末だけ田舎を訪れるのもいい。自然の中でふと心によぎる思いを大事にすることである。

19世紀のアメリカの思想家ヘンリー・D・ソローは主著「森の生活」で「人間には野生という強壯剤が必要」と言っている。（中略）ソローが多感な時代を迎えた頃のアメリカはイギリスの産業革命の波に乗り、物質主義と金権主義がはびこっていた。そしてソローは

・「たんに金を得るための仕事は何もしないのと同じだ」と当時の風潮を痛烈に批判した。

（中略）

因みに、ソローと同時代に生き、日本の近代社会の基礎を作り、実業界に貢献した渋沢栄一は

・「大金持ちになるのは悪いと考えている。かりに国の財産を独り占めにしたらそれは最大の不祥事である。一人が巨額の財産を築いても決して、社会のためにはならず、要するに無意義なことになってしまうからだ。」

（意味、要約）と。

「これらの指摘はバブルに踊りアメリカンスタンダードに翻弄されてきた現代の日本人にとっての警鐘となるだろう。」（「半農半Xという生き方」より）

「変化」について塩見さんは、経験に基づき、冒頭の金言「世界に変化を望むのであれば、自らがその変化となれ」（マハトマ・ガンジー）を踏まえ、非常に示唆に富む次のような言葉に繋いでいます。

「環境問題に携わっている人の多くが最初は社会を変えようと、社会に働きかける。しかし、社会はそう簡単に変えられるものではないと思い知らされ悩む。そこで、気づいたのが、社会は変えられないが、自分を変えられるということだった。一人ひとりがそう思い行動すれば、社会はおのずとカタツムリの歩みのごとくゆっくりと変わっていく。

（同著より）

「変化を望みながら、何をしたらよいかわからない人」は、ここで紹介した名言、提言を噛みしめ、やるべきことを考えて、

・小さなこと、身近なことから「自らを変えてみよう」と決心してください。

私自身も、21年前縁あって那須にセカンドハウスを持ち、10年前から那須で暮らすようになって、一部、同じような貴重な経験をしてきたので、以上の塩見さんの提言

がよくわかります。

世の中を変えようと思ったら、要人を襲ったり、暴力的なデモによって急激な変化を望むのではなく、

- ・自らが「変わる事」による
- ・スローレヴォリューション

を目指すべきだと思います。

・真の幸福はまず、自分のやりたいことから始まり、選りすぐったほんとうの一握りの友人との交際で始まる」（ジョーゼフ・アディソン＝英国の詩人）

＊『閃き』のヒント

自分が、ビジネス発想をもって動き出せば、関心のある人々が集まってきて、ビジネスが生まれる。

哲学なき政治、労働なき富、良心なき快樂、品格なき学識、倫理なき商売、人間性なき科学、献身なき信仰は「社会的犯罪」だ。

社会的犯罪は、商売にしても、政治にしても、一時的には成功しても、いずれは破滅する。

＊ 『半農半X』の提唱者塩見直記さんは、大変な読書家ですが、中でも内村鑑三に心酔していたようです。また、澁澤榮一、マハトマ・ガンジー、ヘンリー・ソローなどの名言も塩見さんの著書に数多く紹介されています。

39 「人が遺すべきもの」は、財産でも名声でもない。崇高な生き方だ」

（内村鑑三）

・ 内村鑑三というと、我が国の「キリスト教伝導の先駆者」というイメージがあるが、必ずしも、盲目的にキリスト教を推奨したわけではなく、悩みながら、信仰、後進の指導、そしてジャーナリストとして壮絶な生涯を送った人である。

・ 中でも特筆すべきことは、著書「代表的日本人」の中で、次のように述べていることだ。

・ 「一国民は言ふまでもなく、ひとり人間といへども、一日にて回心せしめらるべきものと信ずるなかれ。真の意味における回心は数世紀の事業である。」と。

・ [原文のまま]

・ 西洋のキリスト教をそのまま移入するだけならばともかく、自ら精神的伝統に誇りと自覚をもちつつ、しかもその内なる異教徒をのりこえ「接木」することは、まさに「数世紀」を要する事業なのである。内村にとってのキリスト教は、まず、日本国籍を有

したキリスト教でなければならなかったのであり、それをふまえないかなるあり方も無意味であり、偽善でしかないと考えられていたのである。（NHK高校講座「倫理」より）

- ・ 作家の正宗白鳥は内村鑑三の著書などで聖書を熱心に学び上京後も内村の講演にはときに病苦を押しても出席、のちに洗礼を受け熱心なキリスト教信者となった人で、内村鑑三を『師』と仰ぎ尊敬していたが、晩年内村鑑三が、死を目前に、悩み、嘆く姿をみて「先生の、そういう姿が人間らしくて、好きだった」と述懐している。

- ・ そういう内村鑑三の言葉だけに、「残せるのは自分の高尚なる生涯」というこの金言は、自分や他人の命を軽視する現代人の心に「重く」響くではないか。

- ・ フランクルの金言①『先進社会では、つまるところ、全てが与えられた豊かさの中で『輝ける未来』も『実現すべき目標』も見当たらない。成し遂げなければならない『使命』もない。こうして、よい意味での『緊張感』（実存的緊張感）を欠いているからこそ現代人はストレスフルなのだ」

- ・ フランクル金言③「この地上には二つの人種しかない。品位ある人種とそうでない人種である」を想起される。

- ・ つまり、生き方を真剣に考えるのは、日本人、ユダヤ人などの人種、仏教徒、キリスト教徒など宗教の違いを乗り越えたものだということである。

*ガンジーの名言「[7つの社会的犯罪](#)」

哲学なき政治、労働なき富、良心なき快樂、品格なき学識、
倫理なき商売 人間性なき科学、献身なき信仰

40「数字化できるものを数字化しないのは馬鹿だが、数字化できないものまで数字化したがる奴は、大馬鹿者だ」（坂野孝義「先見性」のある上司の一言より）

この名言は私が社会人として年代初頭、会社の上司から教わった言葉。

いわゆる有名人、偉人の言葉ではないが、考えてみると、すでにほぼ50年を経過し、

「古典的な金言」といっても差し支えない名言になっていることに気がついた。混迷を深める現代に、当時を知らない政治・行政など各界のリーダーに噛みしめてもらいたい金言だ。

当時、日本はようやく戦後の復興が一段落し、「所得倍増計画」が発表され、東京オリンピック、新幹線開業を経て、高度成長時代をひた走ろうとしていた頃。

私の読んだ作業改善の管理手法の参考書には、

「日本は戦後の荒廃から奇跡的な復活を実現し、もはや戦後ではない、といわれるまで立ち直ったが、それでも、まだまだアジアは貧しい。日本も貧しい。日本人一人当たり

の国民所得はアメリカの10分の一、英国の5分の1、フランスの4分の1、（西）ドイツの3分の1に過ぎない（1955国連統計年鑑）。なぜか。生産性が低いからだ。……」と。

当時は生産性や製品の品質を上げるために、アメリカ直輸入のIE（*）、QC、ORといった管理技法が花盛りで、その専門家は時代の最先端を走り、企業の担当部署の責任者は肩で風を切っていた時代。

私は自動車会社に事務系の社員として入社したが、事務とか技術に関係なく私もIEの勉強をさせられ？ IEエンジニアに仕立て上げられるために勉強中だった。私はIE専門の部署に派遣され、その部署の担当スタッフの指導を受けた。その実習の最初に、担当部署の課長から受けたメッセージがこの金言、「デジタル化できるものをデジタル化しないのは馬鹿だが、デジタル化できないものまでデジタル化したがる奴は、大馬鹿者だ」というものだった。

* IEとはインダストリアル・エンジニアリングの略称で「個々の作業のムダ、ムラ、ムリをなくすために作業を標準化、単純化、専門化する方法。具体的には、標準作業を決めて、その通りに実行する」ための管理技法。究極は「手を伸ばす」「モノをつかむ」などの基本動作を科学的に分析し、標準の作業者が標準努力によって作業をする場合の標準時間を決めるWF法＝ワークファクター分析などがある。

普通なら、直輸入の管理手法をいち早くマスターして部下や後輩に得意顔をして発破をかけるところだが、「デジタル化できないものまでデジタル化したがる奴は、大馬鹿だ」と、数字の限界、数字に表されない要素があると早くも認識し、初心者にまでそのことを忠告していた上司の一言が印象的で、私の心に強く残った。

東日本大震災、津波による福島原発の事故で、「原子力発電は安い」という神話は完全に崩壊した。太陽光発電や再生可能エネルギーに比べてコストが少なくて済むというのが、原発推進者の主張であったが、これを裏付けた試算には、用地確保に関わる特別課税、廃棄物の処理の費用は計算に含まれていなかった（処理法は青森県六ヶ所村で暫定保管されているだけで未だ、確立されていない）ことが、事故が発生してから明るみに出された。今回のような、事故の補償などはもちろん計算に入っていない。要するに、推進者の『推進したい』気持ちが先走り、冷静な評価はされず、推進のために、原発の負（影）の部分は明るみに出さない「試算」だった。さらに原発再稼働を納得させるためにデジタル化した「試算」－「原発ゼロにすると、電気料金は2倍になる」「再稼働しなければ、計画停電もありうる」など

これは、ある意図を推進するために、都合のいい数字を集めて、合理化しようとしたもったも、「悲しくて、悪質なデジタル化」の実例である。

不安を煽るための「デジタル」 既得権を守るための「デジタル」では何も解決しない

その後、私はIE手法を習得し、全国の販売会社に出張してIE手法の普及に努めることに。

全国に数百もある販売会社の中には、素直にIE手法を採用し、実践している会社もあれば、消極的な会社もあった。そして積極的な会社の実績をあげ、消極的な会社の業績が低迷していれば、私はIEエンジニアの道を歩んでいたにちがいない。

ところが実際には皮肉なことが起きたのだ。

IE手法の採用に積極的な会社がすべて業績好調かということ必ずしもそうではなく、消極的な会社でも業績好調の会社が見られたからである。

覚えたてのIE手法の普及を推進していた私はショックを受け、「なぜだ？」と考えた。

そこで、最初に贈られたIE部署の課長のメッセージが甦った。このメッセージと共に私はこの上司に対する深い尊敬の念を新たにした。

人間の「気持ちの持ち方」が、成果に微妙な影響を及ぼしている。社会のこと、人間関係のことを知るには、「人間理解」が先決だと、ハタと思い至り、こうして「人間の心の研究」が私のライフ・ワークになった。

かつて、アメリカ大統領のF・D・ルーズベルトは、70年以上も前の大恐慌に際し「不況、恐慌は、人間の恐怖心を作る」と言ったそうだ。私に言わせれば、戦争、軍拡競争も、ある意味で「負の幻想」「恐怖心」から始まるのではないかと思われる。

さらに、自然災害等の飢饉に際し、食料不足よりも深刻なのは業者による「買占め」「出荷手控え」の悪影響だ、という専門家の報告もある。

今、景気低迷で、企業は「前年同期比で〇%減益」「営業利益▽赤字転落...」、行政は難問が山積する中で、「□年後には人口が〇千万人になり、少子、高齢化がこうなる。」「高齢者が増え医療費がこれだけかさむ」「それを支えるには、税収が〇〇円不足、消費税〇%アップは必至」「地球温暖化で大気中の二酸化炭素は××%このまま行くと.....だから、これだけ減らすことが必要」「食糧自給率は30%以下」などとデジタル化する。

しかし、人々の「恐怖心」や「将来に対する不安感」さらには「絶望感」を煽り、騒ぎ立てるだけの「デジタル」では、何も解決しない。それどころか、ますます不況、社会不安は深刻化するだけである。

文章は千古のこと、社稷（しゃそく＝国）は一戎衣（いちじゅうい＝はかない）文章は永遠の命を保つが、国は、はかないもの。

「文章千古事」と「社稷一戎衣」は、唐代の詩聖杜甫のことば。

「文章千古事」と「社稷一戎衣」はそれぞれ別の作品の言葉ですが、関連付ければ、「文章は永遠の命を保つが、国は、はかないもの。」という意味になります、後世の人々がいろいろな所に引用しています。

杜甫の代表作『春望』では、安緑山の乱により、荒れた長安の都の風景を歌った作者が、国は威容を誇っても、はかないものであることを痛感する一方で、わが身は幽閉されても、文人として、『書いたもの』は永遠の命を保つ、という信念を持っていたことをうかがわせます。

国は（＝威容を誇った漢王朝も前漢、後漢合わせて約300年、杜甫が生きた唐王朝も289年）はかないもの。

一方古代ギリシャのヘロドトスの『ヒストリエ』と並んで世界の最も古い史書といわれる司馬遷の『史記』。

以下に、史記が生まれた背景を探ってみることにします。

史書を著した司馬遷は前漢の中期、陝西韓城の地にBC145年に生まれました。（異説あり）

韓城には司馬遷の祠堂が建てられています。祠堂は西安からバスで約8時間ほどかかる韓城南方芝川鎮（しせんちん）の、黄河をはるかに東にのぞむ小高い山上にあり、想像するよりもずっと広大なものだったと現地を訪れた人から聞きました。周辺に人家はないそうです。

祠堂への上り坂は大きな天然石を敷き詰めた逞しい感じの道でそれを登りきって山門をくぐると99段の石段。山上には献殿と寝殿があり司馬遷の像が祭られていて、墓はさらに寝殿の左側の石段を登ったところにあり、高さ2メートル直径5メートルほどの円筒形で墓頂に古柏が立っているそうです。墓標には『漢太史司馬遷墓』。この祠堂は司馬遷の没後約400年AD307年に建てられ、現在の献殿は宋代に修復したもので、墓は元のフビライの命によって造られたものだと伝えられています。

司馬遷は武帝が16歳で即位したとき5歳で、遷が7歳のとき一家は韓城から渭川北部の茂陵巴に引越しました。

遷の父談は太史公の職にありました。帝の側近の記録係です。談は3皇5帝にはじまる史書を著述するという念願を立てそれに全力を注いでいたと伝えられています。

遷は、36歳のときに巴・蜀の視察を命ぜられました。その旅の帰途、彼は洛陽で死の床についていた父談を見舞います。談は「この史書を書き続けよ」と遺言して世を去っ

たといわれています。遷は遺命を守ることを堅く心に誓ったのでした。

遷は2年後父の後をついで太史令となり史書の著述に取り掛かかります。著述の仕事は進みましたが48歳のとき思いもかけぬ大きな災難が降りかかります。李陵の事件です。武帝は、当時の豊かな財政を背景にしばしば北方匈奴討伐の戦いを起こし、討伐戦は名将たちがいた頃は、連戦連勝でしたが、彼らが世を去り、武帝の義兄（寵妃李夫人の兄）の李広利が軍を率いるようになると、敗戦を重ねるようになります。李陵という将軍は、この李広利のもとで戦いに参加した人物です。

本隊と離れ孤立した李陵は、10倍を越す匈奴の軍に包囲され悪戦苦闘の末、負傷してついに匈奴に囚われます。匈奴を率いていた单宇（ぜんう）は李陵の武勇に感服しその娘を娶らせます。このことが長安に伝えられると、武帝は激怒し李陵一族の誅殺を命じました。帝の側近がことごとく李陵を非難したなかでただ一人、司馬遷は敢然として李陵を弁護しました。司馬遷は予てから、李陵の忠誠にして清廉な人柄を尊敬していたからです。しかし、このことがかえって武帝の怒りを買ひ、司馬遷にも死刑の宣告が下りました。司馬遷は、父の遺命を守って史書を完成させるため死刑を免れようとし、死刑を免れるにはふたつの道がありました。一つは金で刑を贖うこと、もう一つは宮刑（去勢して、男性の機能を失うこと）をもって死刑に代えることでした。金のない司馬遷は宮刑を選ぶしかなかったのです。こうして遷はあえて死よりも辛い宮刑を受けたのです。おのれの信じることを貫くために宮刑というこの上ない屈辱を受けなければならなかった遷の無念さは、友人の任安に宛てた手紙に余す所なく吐露されていたといわれています。

再び、史書の執筆にかかった遷があわせて百三十篇、52万6500字からなる史書「太史公書」を完成させたのはそれから8年後のことだったと伝えられています。この本の中で編者の司馬遷は李陵を賞賛していますが、武帝の輝かしい事跡には触れていません。司馬遷一族は武帝と李広利の報復による災いを恐れて、暫くは刊行を控え、太史公書が世に出たのは武帝の2代後の宣帝の世であり、『史記』の名がつけられたのはさらに時代を下った三国時代でした。

参考文献「史記」1（小学館文庫）より（抜粋要旨要約）

『史記』は「権力者の弾圧に屈せず正しいことを伝えよう」とする著者司馬遷と一族の命がけともいえる凄まじい執念を感じます。

だからこそ、国は滅びても、2千年のときを経て『史記』は生き続け益々虹彩を放っている、といえるのです。

*地球上から戦争をなくす「夢のまた、夢」？（杜甫）

天下郡国向万城 無有一城無甲兵 焉得鑄甲作農器牛 一寸荒田牛得耕
牛尽耕蚕亦成 不劳烈士淚滂沱 男穀女糸行復歌
天下の郡国 万城に向んとするも 一城の甲兵あることなし。
いづくんぞ得ん 甲を鑄て農器を作り一寸の荒田
牛の耕すを得んことを（後半部分省略）

（杜甫）

「軍備を全廃して生産に振り向け、平和で豊かな社会を作りたい、という人類永遠の「悲願」。

杜甫の死の前年、故郷へ帰るあてもなく、湘江の川べりをさまよっていたころの作品といわれている。

〔訳文〕 全国各地の城郭市街は一万にもなるだろうが、どこへ行っても、戦騒ぎのないところはない。いったいどうしたら兵器を鑄造し直して農器具に作りかえ、荒地の隅々まで牛で耕せるような世の中にできるのだろう。

牛が軍役になくすべて農耕に使われるようになり、
憂国の士も涙を流すことなく男は穀物の収穫に精を出し、女は糸を紡ぎ、養蚕もまた復活する。その時こそ、民衆は生産に精を出して生活を楽しむことになるのだが。

杜甫（712～770）が死の前の年の作、と言われているから769年、人類永遠の「悲願」＝戦争のない世の中を夢見て歌った歌は、21世紀の今も達成されていない。

日本は太平洋戦争の敗戦を経て、今日に至るまで、杜甫の夢見た戦争のない国土を60年以上も維持し平和な国を謳歌してきた。まさに、人類史上の「奇跡」といっても過言ではないだろう。

とはいえ、国対国の戦争はなかったにせよ、北朝鮮による拉致問題、テロの脅威は日本の平和を脅かしていることは確かで、また、国際貢献が求められ、イラク戦争やソマリアの海賊対策やアフガニスタンへの給油活動など、ますます、戦争と無縁ではいられない事態が迫っている。

「戦争のない世界？そんな夢みたいなことが実現できるか？」だれでもそう思いたくなる世界情勢である。

しかし、諦めてはいけないと思う。物事は諦めたら、実現しないからである。

戦争をこの世からなくす杜甫以来の夢を実現する秘策について、私はこう考える。

イラク戦争中、アメリカではイラク戦争を拒否する脱走兵が急増したそうだ。ベトナム戦争の時には、戦争拒否でカナダに難民として入国した脱走兵は5万人に上ったという

記録も残っている。

『脱走兵』は、国や同志を裏切った、という後ろめたさが付きまとう。しかし、戦争そのものが、「うしろめたい」ものなのだから、「間違った戦争に駆り出され他国の人々を殺す」ことを拒否することは、後ろめたいことでも、法に反することでもないはずだ。むしろ、軍の命令を遂行することが後ろめたいことなのである。

たとえば、侵略戦争に駆り出され、よその国の何の罪もない市民を国や軍の命令で殺すこと、これは、太平洋戦争でもベトナム戦争でも、参加した兵士の多くの証言で明らかになっている。そう言う命令を事前に拒否する、それが「徴兵拒否」「脱走」なのであるとしたら、そのほうが正しい行為であり、命令を遂行することは後ろめたいこと罪深いことになるのである。

実際に、宗教的な信念から「天皇陛下の命であっても、人を殺すことは、信仰に悖る」として太平洋戦争中に堂々と兵役を拒否して信念を貫いた人々がいた」ということを私は、「自己実現の手帳」第1巻で紹介した。

同時に朝鮮戦争から脱走したジェンキンス氏のことを引き合いに出し、「彼のとった行動は人間として、自然で決して責めることはできない」といっている。

そもそも、戦争はごく一部の為政者（政治家）軍部、財界人などが資源をめぐる利権から、つまらない意地の張り合いなどが元で起こす国同士の争いごとに、若者を駆り出し、命を捧げさせるもの。若者たちもただでは命を捧げてくれないから、巧みに『大義名分』を作って、『その気』にさせるのだ。もちろん、戦争の大義名分がすべて、でっち上げの『悪』とはいえない場合もある。

しかし多くの場合は、為政者が大義名分を-でっち上げ、巧みに国民を戦争に駆り立てたと見ることができる。イラク戦争は身近な事例だったと見ることができる。

冷戦後のアフガニスタンやイラク戦争は、利権も絡むが、むしろ、アメリカの政治家の個人的な意地？怨念の現われのようなところがあって、アフガニスタンの大義名分であったタリバンとその背後にあったアルカイダの首謀者には逃げられ、イラクに至っては、開戦時の大義、大量破壊兵器などどこからも発見できなかった。

こうなってくると、命がけでイラクに出兵したアメリカの兵士たちの士気が衰え「自分たちは何のために命がけでイラクを陥落させ、その後のイラクの治安を守っているのか」と疑問を持つのは当然である。脱走兵が急増したのもうなずけるではないか。

いや、戦争は、所詮は『殺し合い』である。どう説明しようと、戦場は『地獄』である。

だから、為政者がどう大義名分をわめいても、戦争をさせられるのは『若者』。だ

から、政治家、為政者が駆り出そうとしても各国の若者がすべて、「拒否」「脱走」すれば、戦争はなくなるはずである。

21世紀は、全世界の若者たちが、拳って戦争を拒否し、脱走兵になること。そうすれば、戦争はしたくてもできなくなるのである。

これは拡大解釈すれば、戦時に限らず、平時においても、会社の命令だからといって、人身売買や違法行為に手を染めるのが正しい行為か、社命を拒否するのが、人間としてとるべき行為か、ということに置き換えれば、どちらが正しいかは明白である。

あるいは実際に、行政あるいは民間企業の業務上、産業廃棄物処理、談合や総会屋対策などかなり、一般的な業務にこのような判断の『岐路』は存在するのである。

＊『閃き』のヒント

「大きくなることばかりを考える超大企業」もサバイバル・レースでともに傷つきやがては滅びる。（共倒れ）

最後に生き残るのは、SOHO無借金経営の会社だ。

42もったいない（ワンガリー・マータイ）

「もったいない」は、まさに世界の共通語に

2005年2月、京都議定書発効の記念行事に招待され出席した、ケニアの環境副大臣ワンガリー・マータイ女史。私たち日本人が忘れかけ、死語になりかけていた「もったいない」という言葉は、彼女が光を当てて蘇り、世界中から注目されています。「限りある資源を有効に使い、皆で公平に分け合うべきだ。そうすれば、資源をめぐる争いである戦争は起きない」と提言。「もったいない」は今、人類に最も必要な言葉だと訴えかけたのです。

先ごろ私は、オーストラリアのメルボルンを訪れました。宿泊していたホテルにある小さなアジア料理レストランで、野菜が豊富なヌードル・スープを注文したら、大きな器に溢れるばかりの野菜と鶏肉が入ったヌードル・スープ（日本流に言えば湯麺(タンメン)）が配膳されました。ブロッコリーやカリフラワー、赤・緑・黄色のピーマンそれに地鶏。いかにもヘルシーで味も淡泊、日本人好み。しかも値段も格安。

おいしくて夢中でいただいたのですが、あまりに量が多くて食べ切れませんでした。作ってくれたシェフにすまないと思いながら、3分の1は残して、

「おいしかった。でも、これは日本の2倍近いボリュームだ。残してごめんね。ハーフサイズか少なめのメニューも作ったら？ もったいないから」

と言ったのです。すると相手は、「そうですね。わかりました。捨てるのは、もったいないですから」と言って、次回からそのようなメニューを用意してくれるようになりま

した。

日本から遠く離れた南半球の英語圏のオーストラリア、メルボルンのレストランで、アジア系と見られるウエイトレスやシェフにも「もったいない」は通じたのです。まさにこの言葉が世界共通語になったことを実感し、本当に嬉しくなりました。

「意識変革」が原動力に

マータイ女史は、国土の森林が乱伐で消滅していくのに危機感を抱き、わずか9本の苗木を植えることからNGO「グリーンベルト」運動を始めました。この植林運動で、3年間に3千万本の木がケニアを中心とするアフリカの女性たちによって植えられたといわれています。彼女の果たした役割はそれだけにとどまらず、アフリカ諸国の政治改革を促し、これらを通じて国際平和に貢献したことが2004年ノーベル平和賞の対象になったといわれています。

その原動力、土台は、長年重労働と無教育を強いられ弾圧されてきた、アフリカ諸国の女性の「意識変革」にあったことを見逃してはなりません。国の指導者の関心は覇権争いや経済的・軍事的優位に向けられ、民衆の生活の平安と幸福、国土ひいては地球環境の保全などは無視されがちです。

その陰で、女性たちをはじめ民衆は「無知」ゆえに「無力感」を持ち、「問題意識を持つ者」は弾圧されます。アフリカ諸国はその典型で、かつてケニアでも女性の社会参加は大幅に制限を加えられ、10人以上が集会を開くことさえ禁止されていたそうです（NHK「クローズアップ現代」より）。

このような最悪の社会環境における「女性の意識改革」は並大抵のことではなく、マータイ女史は体制と対決し、投獄されたこともたびたびあったそうです。しかも流血、暴力などの実力行使なしで初志貫徹。これはなかなか出来ないことですね。

日本人古来の文化や知恵を

世界に示すこと

アフリカ諸国だけでなく、経済的に貧しい発展途上国や独裁国などでは、貧困、無教育、無知がさらなる貧困や紛争を招き、環境の悪化そして貧困——という果てしない悪循環が生まれます。

この悪循環を断ち切るには、政治家に意識改革を迫ることよりも、民衆の「意識改革」を促し「社会活動への参画意識」を高めることが必要かつ有効というところに、マータイ女史は着目したのです。

これは、発展途上国だけの問題ではありません。今の日本は、政治家をはじめ社会の指

導者の多くが、物質文明重視の「アメリカ一辺倒」になり、一般民衆まで勤勉や節約の大切さを忘れようとしています。

「もったいない」に限らず、日本人が古来ご先祖から受け継いできた大切な「文化」や「知恵」を見直し、「誇り」を持って、本当の意味での「温故知新」を世界に示すことが重要です。「意識改革」から「行動化への戦略、実現」を大いに学び、自分のできる範囲で多くの理解者、仲間を広めて行きたいものです。

(参考) 05年3月25日、愛知万博開幕式でのマータイ女史の言葉より (要旨、一部省略)

毎朝、太陽とともに目覚め、踏みしめる大地に支えられ、花とともに栄えます。

蜂や蝶が花粉を運び、植物は果実と種を与えてくれます。

私たち人類は自然の一部です。この惑星に住む多くの生物種の一です。

肉体は自然から生まれ、最後は自然に帰り、そして営々と命の営みを続けます。

私たちが日差しを楽しむとき、木々の葉は、太陽のエネルギーを取り込み、穀物や根菜や樹木に蓄えます。(中略)

自然は私たちのまわりに。私たちの中にも、前にも、横にも、下にもあり、私たちとともにあるのです。(中略)

自然の叡知は、実に多くのことを教えてくれます。

それは永遠の命の書のように、見る目と聞く耳を持つ者にしか明らかにされません。

どうぞ皆様も、ご一緒に自然の叡知を讃えようではありませんか。

*『閃き』のヒント

「省力」「コストダウン」の発想は、「もったいない」から生まれる。

4 3 浮世絵の啓示 (落水荘)

帝国ホテルの設計者として知られるアメリカの建築家、フランク・ロイド・ライトの設計した「落水荘」という歴史に残る建築物がある。

これは、アメリカ、ペンシルバニア州ピッツバーグの郊外、自然の中、なんと写真のように「滝」の上に建てられている。

設計を依頼したオーナーは実業家カウフマン。カウフマンは、鉄鋼の町ピッツバーグでデパートを経営し成功していたが、鉄鋼会社の工場のある街に住むことを嫌い、自然の豊かな郊外に別荘を建て、そこで心を癒したいと考えた。

そして、お気に入りの森の中の用地を選定した。そこは滝が見える風景だったので、この別荘の設計を一流の建築家ライトに依頼することにしたのである。

間もなく、ライトの設計が出来上がったが、設計図を見たカウフマンは最初、気に入らなかったそうで、ライトに、「私は、滝を眺めて暮らしたいのだ。そういう家に住みたいと思ったのに、これでは滝の上に建つ家ではないか。そんな家は前代未聞だ」そう苦情を言って設計変更を求めたということである。これに対してライトは静かにこう言い放った。

「私はこの家で、あなたとご家族が滝やそれを取り巻く木々や自然と一体になって暮らして欲しいと願って、この家を設計しました」。そして、カウフマンに一枚の絵を示したといわれている。それは、ライトが帝国ホテル設計のために比較的長期にわたって滞在した日本で、その設計料をほとんどすべて注ぎ込んで蒐集したといわれる日本の浮世絵の中の一枚だった（ライトは浮世絵の収集家としても知られる）。滝の上にひっそりと建つ家の絵。葛飾北斎の作品に『諸国瀧廻り』というのがあり、そのうちの一枚だったと思われる。



落水荘遠景 ↑

写真提供は（株）ナインマンズ

一級建築士設計事務所

この浮世絵は「自然と共存する日本人の心」を表しているといわれる。ライトが設計した歴史に残る名住宅は、設計の基本コンセプトがなんと「浮世絵からの啓示」だったの

である。半信半疑だった依頼主のカウフマンだったが、結局ライトの説得を受け入れ、この滝の上の家を建てる決心をした。それが後世に残る名建築となった「落水荘」=Falling Waterだった。この落水荘で、カウフマン一家は自然と一体となって過ごす「境地」を味わい、心豊かな田園生活を満喫したといわれている。浮世絵は、ゴッホなど西洋の画家や芸術家に大きな影響を与えたことは知られているが、建築家にまで深い感銘をもって迎えられたことは、建築関係の人々は別にして一般にはそれほど知られていない。その後この落水荘には、オーナーのカウフマンのみならず大勢の来客が訪れ、パーティや会食が行われたそうで、その客の中にはあのアインシュタインやチャップリンも含まれていた。彼らも「自然と一体となって過ごす生活」で心を癒し、感激し、田園生活を楽しんだといわれている。アインシュタインなどは感激のあまり、リビングから川面に続く階段を駆け下り、洋服のまま水の中に飛び込んだというエピソードも伝えられている（



←写真 NHK - BS 放送世紀の名住宅物語「浮世絵の

啓示」より）。

私たち日本人の先祖は古くから、このように言葉も文化も異なる国の人々に感銘を与え、生き方、家の作り方、田園生活の過ごし方にまで影響を与える文化を創造し、遺している。そういう先祖の子孫としてこの国に生まれたことに「誇り」をもち、今こそ自分たちの「生き方」や自然との関わり方を見直すべきだと思う。

また、どんな分野でも一流といわれる人は、洞察力があり、感性も鋭く、自然と共存することの大切さを数十年も前にすでに見通していた。これも非常に重要なことだと思われる。

ゴッホだけでなく、印象派の巨匠として知られるモネも浮世絵に関心を持った、といわれ、パリ郊外のマルモットン美術館には、有名な睡蓮などの作品のほかに、モネの蒐集した多数の浮世絵が多数、展示されている。その睡蓮を描いたモネの庭は、日本庭園のイメージがあったといわれる。

44 夢なき者は理想なし 理想なき者は信念なし 信念なき者は計画なし 計画なき者は実行なし 実行なき者は成果なし 成果なき者は幸福なし 幸福を求める者は夢な

かるべからず

明治維新後第一国立銀行、王子製紙などを創立した

渋沢栄一の座右の銘。

夢なき者は理想なし

「夢」がないということは理想がないということの意味します。

理想なき者は信念なし

「理想がない」ということは当然「信念もない」ということでしょう。逆に信念がないと理想も描けないのです。

信念なき者は計画なし

信念がなければ計画も立てられない

計画なき者は実行なし

計画がなければ、実行できない。かりに計画なしに実行してもうまくいくはずはない。

実行なき者は成果なし

そういうことでは、もとより成果をあげることもできない。

成果なき者は幸福なし

成果がなければ幸福にもなれない。

幸福を求める者は夢なかるべからず

つまり幸福を求める人には、夢がないはずがない。

「夢」

「あなたには、夢がありますか？」とだけいっておきましょう。「夢」ありますよね？

「何もかもうまくいかない。成果も上がらない」という人は、「理想、夢、信念」などについて、一度考えてみませんか。形だけ他人の真似をしても、うまくはいきません。最近、「結果」だけを求め、他人の成功を羨む人が多くなっているようです。だからそういう人は、近道をしているつもりでかえって遠回りしていることになるのです。

*『閃き』のヒント

「夢」から生まれる新技術、新製品

*金儲けだけが目的の商売をするな（渋沢栄一）

45 ・「困難こそ『魂』を磨き上げる」（ウェイン・W・ダイアー）

悲しいのに、無理に幸せを装ってはいけない。悲しければ、ごく素直に悲しみを意識し

ていると認め、そのまま悲しみに浸っていたいか自問しよう。そんな状態のままでいたくないなら、悲しいのは自分の考え方のせいだと認識して、それを認めよう。悲しくて当たり前と思ったら、いつまでそんな状態のままでいたいか考えて、悲しいのは自分の考え方のせいだと理解して、その考え方をできるだけ早く手放そう。自分の気持ちを「認め、理解し、手放す」というこのちょっとした心のテクニクは、数分で完了できる。

マズローの最終欲求段階説の最終段階は「自己実現の欲求」である。これは、自分の人生に目的や意義を深く感じ、スピリチュアルな喜びを感じる段階である。つまり自己実現するとたえず喜びを感じられるようになるのだ。こんな風にこの上ない幸せを感じられるかどうかは、どんなことを考えるかに左右される。つまり周囲にどう見られているか、自分がどんな結果を出せるかをやめ、人生の価値ある目標に向かって没頭するということだ。

- ・『何があろうと、幸せでいよう』と決意すれば、事態はきっとよくなる。
- ・今は悲しいだろうが、きっと乗り越え、いつか笑顔で振り返られる。

(W・ダイヤー著“Spiritual Solution to Every Problem”より、大意要約)

* ウェイン・W・ダイアー 1940年生まれ。心理学博士。マズローの「自己実現」の心理学をさらに発展させた「個人」の生き方重視の意識革命を提唱。真個人主義の旗手として世界的に注目を集め、多くの人に精神的な救いの手を差し伸べている。

*

46 「現実をより有効に知覚し快適な関係を保つこと」

(A・Hマズロー「人間性の心理学」)

拙著『感性の磨き方』(産能大学刊)参照

マズローらは 日常、精神的に健康で、充実した生活を実現している人々、あるいは歴史上「精神的に健康で、充実した生涯を送った」と考えられる人々を対象に『何が彼らを自己実現者たらしめているか』調査を行ない、14の要素を抽出し著書の中で列挙しています。が、その全てを紹介するのは、混乱を招くだけなので、ここでは省略します。それら14項目の筆頭に上げられた最も重要な条件が、「現実をより有効に知覚し快適な関係を保つこと」です。

他方、私は予てからライフ・ワークとして『精神的充実＝幸福実現』の決定的な要因を研究してきました。特に

「人間はなぜ、争うのか、神経症になるのか」

「どうすれば、戦争をなくし、穏やかにしかも、精神的に充実した生活を実現できるか」を主要テーマに掲げてきました。そして、その究極の要素は『感性』である、という

仮説を立てていました。そのプロセスで『マズローの心理学』という本に出会い、マズローの後継者でこの書籍の著者とも直接会って、私の仮説を裏付けてくれるものに他ならないことを確認したのです。

換言すれば、マズローのこの一見抽象的な表現の中身を、より具体的に、ブレイク・ダウンしていくと、今回の私の提言

・感性を磨け
に至るといってもよいのです。

そこで、『感性を磨く』ことについて、少し説明します。（詳細は拙著「感性の磨き方」「先が見える感性の磨き方」

「自分を見失わないで生きる」「生き方を変える17の鉄則」（産能大学刊、絶版後、いずれも、パピレス社から電子書籍としてアップ・ロー

ド<http://www.papy.co.jp/act/books/1-5651/>)

人は、本来「無邪気な目」を持っており、「現実を直視し、さらに、ものの表面だけでなく、本質を見抜く目」「ウソや欺瞞を見破る目」「優れたものを見通す洞察力」を、もっていたはずでした。が、多くの大人は、かつては国家や権力者、狂信的な「思想」によって、洗脳され、惑わされ、干渉、統制され、あるいは言論統制やマスコミの誘導などにより、『感性を鈍らせ』まちがったリーダーシップに傾倒し、心酔し、道に迷い、破滅の道を進んだこともありました。

未だに独裁者の国々では、同じ不幸が繰り返されていると伝えられています。

戦後の日本では、幸い、民主化が進み、そのような危険は少なくなりました。が、一方で情報の氾濫、無責任の横行、自由のはきちがえ、リーダーシップの欠如などにより

・何が正しいか
・何をしてはいけないか

のケジメがつかなくなり、新たな『混乱』『低迷』が見られるようになりました。

人命軽視、汚職の横行、治安悪化、詐欺や食品の虚偽の表示、慢性的に多数の自殺者が出るなど、別の意味での『精神的危機』が見られます。これは

・「現実をより有効に知覚し快適な関係を保つこと」
ができなくなったことにほかなりません。

ですから、今こそ各人が『本来の感性を取り戻し、正しい現状認識＝何が正しいか、望ましいか、何をしてはいけないか、何がニセモノで何がホンモノかを見抜く目＝賢い『鑑識眼』＝『感性』を磨くことが不可欠なのです。

では、どうやったら『鈍った感性を取り戻し、本来もっている感性を甦らせることが

できるか』詳しくは上記の拙著を参照していただくとして、一口で言うなら、

- ・「自然体で臨むこと」「あまり、期待感や『欲目』でものをみたり判断しないこと」
- 「偏見で人に接したり、話を聴いたりしないこと」

自然体で臨むことは言葉としては理解できても、いざその場になると、実践することは、なかなか難しいものです。

ですから、せめて

- ・ 日頃から『自然体』になろうと心がけることだと思います。

少なくとも

- ・ うまい話には乗らないこと
- ・ 行政やマスコミあるいはインターネットで流されている情報を『鵜呑み』にしないこと
- ・ 権威があるとされている

人や機関の話は、複数の情報で一応は、確かめること

=医療で言われている「セカンド・オピニオン」を一般社会の情報についても、応用するわけです。

- ・ これで、事態はかなり改善され、感性も本来の力を取り戻すと思います。

参考までに、次の『感性診断』にあるようなことを口に出す人が、周囲にいたら、その人の「感性は鈍っている証拠」ですから、そのつもりで（警戒して）接してください。

- ・ 「感性診断」

*感性が鈍くなった人が、よく口にする言葉

- ・ そんなことは知っている。・ そんなことは(当たり前だ)
- ・ 前にやったが駄目だった。
- ・ 最善を尽くしている。
- ・ ほかにやりようがない。
- ・ 私の責任じゃない。
- ・ まあ、こんなもんだ。
- ・ 現実を知らないからそんなことが言える。
- ・ 他人はどう思うか。
- ・ 他人（他社）はどうしているか？・ どうしましょうか？
- ・ 「変わっている」と言われたくない。・ みんなと同じがいい。
- ・ 私が正しい。・ お前が間違っている。・ お上は悪いようにしない。

47 理想・熟慮・断行（国司浩助）

国司浩助は明治20年（1887年）神戸県庁裏に乃美平太の3男として生まれた。母ウメは山口県萩市の出身で、長州藩家老の一族。倒幕を目指す長州藩を率いて、幕末京

都蛤御門（禁門）の変で敗れ、責任をとって切腹した国司信濃守は一門の出であった。その後日本は薩長連合が成立し、徳川幕府は倒れ明治維新に向かう。

叔父の国司助十（浩助の母ウメの兄）には子がなかったため、三男だった浩助は、母の実家を継ぐため、六歳で国司家の養子となり、十一歳で国司の家督を相続することになった。養父の死にともない親戚筋の旧長州藩士鮎川弥八に引き取られた。弥八には浩助より7歳年上の息子義介がいた。国司は幼少時から頭脳明晰（めいせき）で、農商務省水産講習所本科漁撈（ぎょろう）科に進学。1908年からはイギリスやドイツに派遣され最先端のトロール漁業を目のあたりにする。

帰国後、実業家田村市郎の命を受け、再びイギリスへ赴いてトロール船を新造。英国人漁労長をともなって帰国し、田村汽船漁業部を設立した。国司は自ら船に乗って操業の指揮をとり、帰港すると市場で売りさばくまですべての現場にいたという。やがて水産研究所を設立。世界初のディーゼル機関付きトロール船を新造し、船内急速冷凍装置も開発。世界的な注目を浴びる。

国司の事業は魚を取るだけにとどまらない。保存し、加工、流通させるまで一切のシステムを効率よく、しかもフェアにしようと試みる。26年には「蟹工船」で知られるカニの母船式漁業に乗り出し、さらに34年からは南氷洋での母船式捕鯨で成功を収めた。会社は共同漁業株式会社を経て日本水産株式会社へ。国司の理想は海洋資源を世界に求め、新鮮な状態で蓄え、世界市場の需要に合わせてあたかも水道のように供給することだった。しかし38年、51歳の若さで世を去っている。喪主は日産コンツェルンの創始者となった鮎川義介だった。（九州読売新聞「語り継がれる人々」より、一部加筆）

理想・熟慮・断行

国司浩助が自分の行動指針にしていた金言...それは「理想・熟慮・断行」です。何事も理想を抱き、それを熟慮して練り、よしとなったら断行する、今の社会のリーダーに、この「金言」を贈ります。

*『閃き』のヒント

構造不況業種で無配に転落し、再生の道さえ見つからなかったN社も原点に返り創業の精神に立ちかえり、「理想」を見直すことから、業績回復、復配へ。

「養殖」は21世紀の有望ビジネス（P・F・ドラッカー）

農業、漁業は、趣味としては最高、趣味の農業、漁業を対象にするビジネスのネタは五万とある。

参考 挫折は「天の声」と受け取る 国司義彦著「読書と出会いが人生を変える」(2013年牧歌舎刊) 参照

○夢は幻に終わることもある

一天職にめぐり合うまでの「迷走」の数々

迷走その① 映画会社の社長夫人から、俳優にならないかとスカウトの声がかかり...

(前略) ...その後、高校の頃兄の結婚披露宴があり、映画会社(東宝)の社長(創業者の小林一三の長男、小林富佐雄)夫妻が仲人を務められました。私とその宴でスピーチをすると社長夫人(小林富士子さん)のお目にとまったようで、

『あなた、映画に興味ある?やってみない?』と言われました。今でいうスカウトでした。

「一度、進学が決まったら、様子を見ながら撮影所にいらっしやい」と社長夫人はいつて下さったのです。

私は「夢見心地」でした。

(中略) 大学にどうにか進学が決まり、その年の夏休みに東宝砧撮影所へ行って、エキストラ出演しました。

映画は「大学の人気者」という学生モノ、宝田明主演で池部良、上原謙、越路吹雪といった錚々たるメンバーも出演していました。私が参加したのは、越路吹雪のママさんが経営するバーでお客の上原謙とダイス遊び(皮製の器にサイコロを入れて、目を競う)をしている、という設定。

ダイスなどやったことがなかったのですが、上原謙さんは親切に教えてくれました。往年の大スターといった高慢な態度はどこにもなく、気さくな初老の紳士という印象でした。(中略)

この体験の後、私は東宝会館に会社の専務の森岩男さんと当時(というより日本映画史でもその名を残す)大プロデューサー藤本真澄さんに呼ばれて、今後の進路について話しあいました。藤本さんからの話は次のようなものでした。

「今、当社は新しい青春スターを探している。社長夫人からの推薦もあり、お金をかけて、あなたをわが社のスターに仕立てることは可能だ。しかし、一たんスターになってから先は、あくまで、実力次第、女性なら寿退社、という手もあるが、男の場合、一端俳優になってから、よその道へ転身を考えても非常に難しい。つまり、落ち目?になった男優はつぶしがきかないのだ。あなたは、固い仕事に就いた方がいいと思うが、どうしても、というなら、それなりの覚悟が必要だ」と。

大学演劇部の後輩の中からは、細川俊之、角野卓造など、プロの世界で活躍している人たちもいます。（細川俊之氏は、2011年1月急逝されました。ご冥福を祈ります。）

その後、無名時代の水野久美（本名麻耶）さんと、学友だった山本學君との縁で知り合い、素人芝居に共演したことも懐かしい思い出として残っています。なお、藤本真澄氏が引き合いに出した津島恵子さんは寿退社するどころか、最近まで現役で活躍していること、水野久美さんは、当時東宝が売り出した3人組の新人女優スリービューティーズの他の二人（上原美佐、三井美奈）がいち早く引退した後も、ただ一人現役第一線女優として残り、未だに活躍しているのは嬉しいことです。

また直接の関わりはありませんが、児玉清や田宮二郎も、同じ大学からニューフェイスとなって、その後、成功した人たちです。特に田宮二郎とは、ある人を介して間接的に奇しき因縁があったことが後からわかりましたが、プライバシーの関係もあるので具体的なお名前等の公表は差し控えます。

何れも、故人になってしまい淋しいことです。ご冥福を祈ります。

芸能界や舞台、映画の道、作家、漫画家などアーティストの道に憧れる人は後を絶ちません。

この後東宝には、これまた、奇しき因縁というか、私がたった1日撮影で一緒に過ごし、気さくに声をかけて下さった大スター上原謙さんの息子、加山雄三が若大将シリーズで一世を風靡し、作詞作曲、シンガーソングライターとしてまた、スキー、ヨットなど体育会系の分野もこなす、まさに万能選手として大活躍することになったのは読者もご存じのとおり。

つまり、私などの出る幕は全くなかったのです。プロの俳優になってもせいぜい大部屋のその他大勢で過ごすことになったでしょう。事実、私と同時期に、東宝ニューフェイス候補としてデビューした人が何人かいましたが、誰も残っていないことを見ても、この道がいかに、難しいかが、分かります。

「迷走」その②

その後、私は、当時最先端の自動車産業の大手メーカーに入社することができました。入社試験は20倍以上の競争率でしたが、運よくパスし、標準化、単純化、専門化の技法、IEを勉強して全国の販売店の作業改善、効率化の仕事を担当しましたその後、大衆車サニーの事業部が新設され、それなりに、日の当たる部署に配属されました。ある程度将来を約束されたキャリアを歩みつつあったと思います。しかし、どうにも心が落ち着かないのです。上司、先輩、同僚にはいわゆる銘柄大学の出身者も多く、人材は

多いのですが、「人の心理」「モチベーション」などには関心を示す人は少なく、ひたすら、ライバル会社との競争に勝つことのみが目が奪われているように思われました。

「人間性」「心の充実」などには目が向いていなかったのです。そこで、私は、一般社会、日常生活において、人間の心理、とりわけ「潜在意識の不思議さ」に興味をもち、時間外や休日の時間を利用して、ある著名な大学教授の研究所で、実践的な心理学の講座が開講されているのを知り、講座を受講した後に臨床指導（催眠カウンセリング）を開始しました。その研究所を実質的に主宰し、催眠カウンセリングを実施していたM先生の助手として実際に尋ねて来るクライアントを対象に心理相談に乗るサイドビジネスを始めたのです。そのM先生は著書もありテレビでもレギュラー番組を持っている売れっ子カウンセラーでした。大学教授はほとんど顔を見せず、社会的信用を得るために、名義を使わせてもらっていたことが後で、分かりました。

最初は恐る恐るでしたが、クライアントの問題に催眠を応用すると、面白いほど効果があるのです。やがて、私の腕？は、技術的にはM先生を凌ぐほどになっていました。

車酔いに始まって登校拒否、夜尿そのほか心の病で悩む人を対象に催眠誘導をしてメンタルリハーサルという技法を使うとそれまで病院で投薬を受けても治らなかった心理的な症状が、劇的に効果を発揮する—これは、驚きであり、感動でした。ある時期から勤務時間を出来るだけ都合をつけて、この研究所に多くの時間を割いて通い始めたのです。一時はこの道で、一生人助けをしたいと思ったこともありました。

ところが、ある月末、M先生から突然

『今月いっぱい来ないでほしい』と実質的な解雇通告を受けたのです。別に悪いことをやっているという自覚はなかったので「どうしてですか？」と尋ねました。するとM先生は「君は僕のクライアントを横取りした」というのです。これは先方さんが勝手に私を指名してくれたからやったことで、先生のクライアントを横取りするなどという悪意を持ったことはありませんでした。が、どう弁明しようと、後の祭りでした。

(中略)

とはいえ—

夢が現実化され、「私の中の構想が具体性を帯びてくる」と「耳を傾ける人」も多くなり、中には、「支援」や「協力」を申し出てくる人も多くなったのです。

そのころ、百人以上のコンサルタントを擁する当時民間では最大級のコンサルタント会社の社長だったS先生は私の考えを聞くと、私の構想に共鳴し、「君の考えは優れた先見性に基づくものだ。日本も各個人の個性を大切にし、人間の潜在能力を開発する専門家が来る時代が来る。近い将来『メンタル・トレーニング研究所』を別組織として発足させ、その所長＝責任者として君を迎える。

ところが、メンタル・トレーニング計画の母体となるはずのS先生のコンサルタント会社があるクライアントとの訴訟問題（百人もいた、コンサルタントの一人がクライアント会社でトラブルを起こしたものに敗れ、会社は倒産に瀕したのです。そしてS先生の会社は、最後には先生一人になってしまいました。とても新しい組織を発足させ、私を迎え入れるどころではなくなりました。私が、腰かけ、一時の助っ人管理職として勤めた外資系会社の社長は、私に関するS先生との取り決めなどは全く聞いていなかったことが判明しました。私は妻子を抱えて、5年間「中途半端」な状態で、『島流し』に遭った罪人のような存在になり、しかもこの罪人にはいつまでたっても、迎えがこなかったのです。この間の行き違いで同社の社長はじめ幹部社員の私に対する心証は悪くなり、私は、「就業規則違反」を理由に、せつかく開所していた研究所を開店休業状態にせざるを得なくなりました。私の「計画」は足元から崩れ去ったのでした。

その後、しばらくは、砂を噛む日が続きましたが、紆余曲折を経て、最後の決め手となったのは、背水の陣で臨んだこと、そこから、道は開けた、のでした。

私の体験談が長くなりましたが、人が夢を叶える有力な決め手はどれだけ「支援者」「サポーター」との出会いに恵まれるか、また、その出会いをどれだけ生かせるかです。もちろん人によって、有力者との出会いのチャンスには、自ずから差があることは否めません。しかし、どんな人にも一生の間に何回かは運命的な「出会い」があるものです。私の場合は比較的恵まれたほうだったような気がします。が、それにもかかわらず、必ずしも順調に行かなかったのは、私自身の信念が揺らいでいたこと、「天命」を意識しなかったからだと思われまます。

そして、私自身が、確固とした信念で歩き出すと、『天命』を本物にする支援者との「出会い」にも恵まれることになりました。これについては、別の拙著（「読書と出会いが人生を変える＝牧歌舎刊」）「新しい自分を作る本」「人生を開く7つの扉」＝ダイヤモンド社刊などで詳しく紹介しました。

このように、「夢」を描き、それを構想、作戦として具体化する過程で、関係者に「話す」一ここから、必ず支援者やよりよいアイデアなども浮かんでいきます。

「確固とした信念」があれば、各方面からの、申し出にも適切に対応することができ、無駄に終わらせることもなかったし、もっと、有効に生かすこともできたはずですが、夢を実現するには「経済的な自立」が前提になり、多くの人がそこで大変苦勞するのですが、中には、「株式投資」や「債権、為替への投資」などでその資金を稼いでいる人もいます。

ここで注意しておきたいのは単なる「お金を増やすための投資」一お金を最終ゴールにするような投資は、渋沢栄一も言っているように、意味がありません。というよりむ

しろ有害です。

お金を稼ぎ生活を支えるまではやむをえないとしても、その稼いだ金を「有効に生かす」＝（夢）実現のために使ってほしいものです。

新しい技術やシステムや、それを生み出す「人材」の育成に再投資することをお勧めしたいと思います。

「幸せ」「充実した人生」を実現するには「夢」が必要で、その夢を幻に終わらせないためには、「理想」「使命感」をもち「信念」—「具体的な構想、作戦」にまで煮詰め、それを「心ある人」に語りかける。そこから、必ず理解者、支援者が現れるでしょう。

それがうまくいかないなら、『正しい状況判断ができず甘い期待を抱いているか』『作戦が確固としたものになっていないか』

あるいは、「今やろうとしていることはお前の天命ではない。待て！」と天が教えていると理解し、「自分は、この世にどんな使命を帯びて生を受けたか」とじっくり作戦を練り直すこと。それから再出発しても決しておそくはありません。

あなたの「夢」が着々と具体化し、「夢」が実現することを願っています。

挫折したと思っても、「挫折」と考えずに、「これは、天が、まだ時期尚早といっているのか、それとも`お前にはもっとほかにやることがある、といっているのだ」と、「天の声」として謙虚に、前向きに受け取ることです。

私は脱サラして、手っ取り早く稼げる方法を見つけ、それなりにうまくやっているつもりでしたが、やがて大きな壁にぶつかり行き詰まりました。一時は失意のどん底に落ちましたが、前述のように気を取り直して雌伏の時を過ごした結果やがて、天職にめぐり会いました。一時的挫折は、まさに「天の声」だったわけですね。

ところで、飛行機や電車や船に一番遅れたために助かったという例もあれば、ギリギリ間に合った便にキャンセル待ちでやっとチケットが取れたと思ったら、その便が墜落事故で全員死亡—こんなことも実際にあります。この場合は「運」ということになるのでしょうか。

*『閃き』のヒント危ない橋を渡ってハラハラし、ストレスから病気になるようなビジネスは捨て、共に喜びを分かち合うビジネスで「感動」と「心の平和」を勝ち取ろう。

いざというとき「心の支え」となる古今東西の名言集

<http://p.booklog.jp/book/73623>

著者：くにし・よしひこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/ykunishi/profile>

著者紹介 国司義彦（くにし・よしひこ）学習院大学を卒業後、日産自動車株式会社を経て、心の豊かさや人間性回復の実現を目指して臨床心理研究所を設立。その後、同所を株式会社JMC能力開発センターに改組して、代表取締役。経営者、管理者、営業社員等の教育・指導に活躍する傍ら、「心の豊かさ」、「自己実現」の提唱者として講演、執筆活動を広く行った。栃木県那須に移り住み、「那須シニアネット」を設立、代表を歴任。

『マズローの心理学』の著者F.ゴープルとも親交があり、日本における人間性心理学のパイオニアとして全米に紹介された。現在はマズローの後継・実践者と言われるW.Wダイアー博士の思想普及活動を展開。自己実現塾々長、希望通信主幹。

日豪の国際交流にも尽力し、夫人との共著「オーストラリアの魅力」はオーストラリア政府推薦図書に選ばれ、民間交流、親善への功勞により、同国ポートスチーブンス市より名誉市民の称号を受けた。

著書は、「『勇気と希望』の心理学」「志の原理」（牧歌舎）「人を見抜く107のヒント」（こう書房）、「転職・再就職の準備と心得」「20代（30代、40代50代）の生き方を本気で考える本」（PHP研究所）など-各世代別の生き方論、「強いリーダーシップの絶対条件」（こう書房）「感動のシニアライフ」（幸福の科学出版）、中国（北京、香港、台湾）韓国など海外出版物など国内外に多数。著者ホームページ

<http://www.f5.dion.ne.jp/~kunishi/new/index.htm> *著者からのお願い：この本は無料ですが、必ず感想を送って下さい。宛先は、メールアドレス **bill@ae.auone-net.jp**

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/73623>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/73623>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ